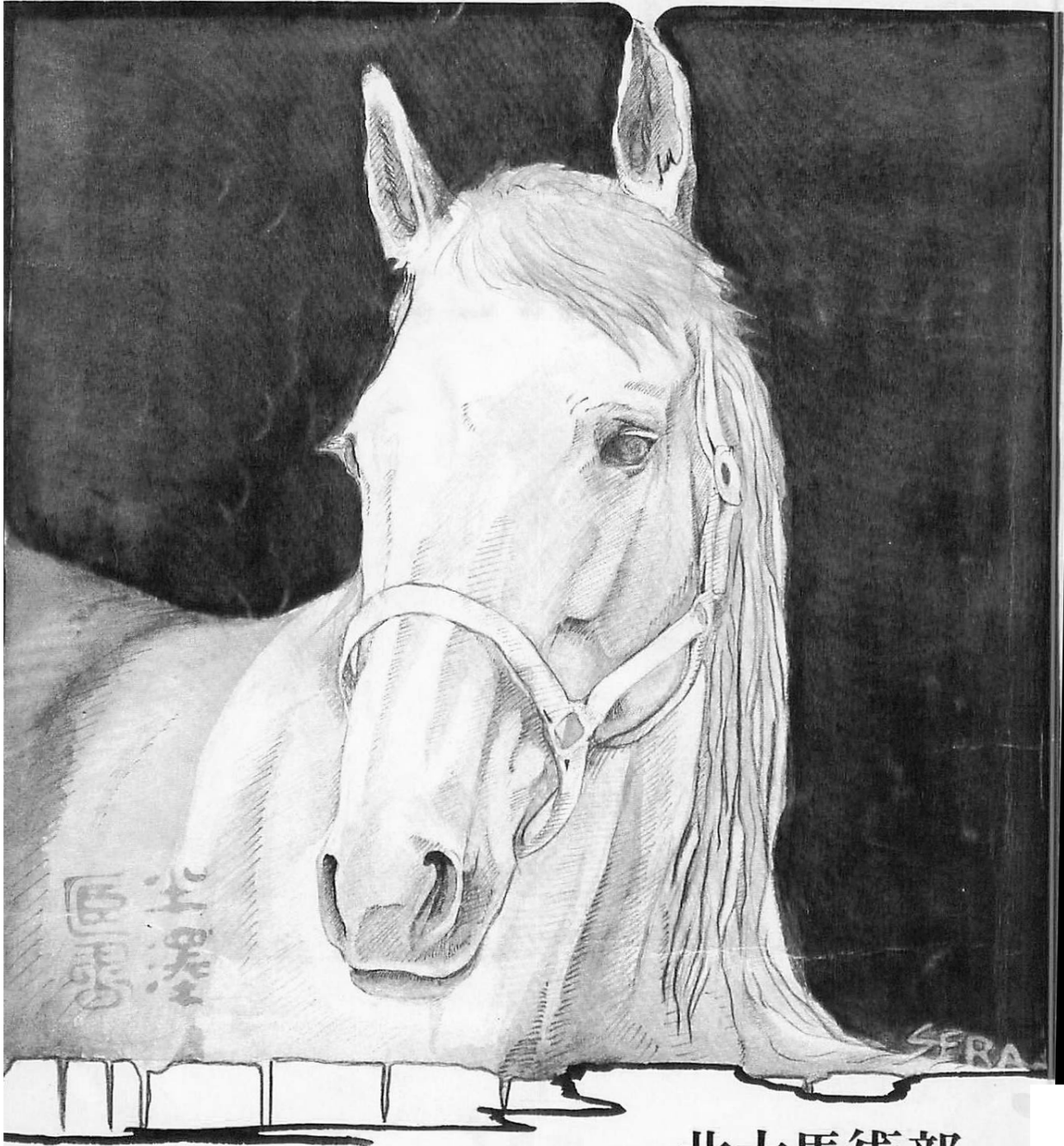


No. 27

部報

昭和56年度



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎

作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる
しろがねのえんざん ゆめほうほうたり
たからかにいまぞいななけわれ
らしんめのほまれあり
ほまれあり ほかく だいほかく だいお
おわがぼう われらしんめの
ほまれあり

北大馬術部讃歌

- 一、春来たれば、大地光る
銀の遠山 夢茫茫たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 二、時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 三、雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
北大！ 北大 お、我が母校
われら駿馬のほまれあり



こうして飛んでいると

お前どの様なことが

思い出される

いやがるお前に

怒りをぶつけたこともあった

言うことを聞かないお前に

泣いたこともあった

でもその度に

共に努力し乗り越えてきた

さあ飛べ

誰れよりも高く

どこまでも遠くへ



そこに おまえがいるから

いつの日も そのひたむきな瞳で
私を見つめる おまえがいるから

決して ふりむきはしない

とどまりはしない

はるかな明日をめざし

現在いまを見つめて

おまえとともに 駆けてゆこう

二人きり この孤独な戦いの中

悲しみは おまえとともに

喜びは おまえとともに

透明な 空間に

時間^{とき}が 止まるこの一瞬

二つの生命が — 躍動

もう何も見えない

何も聞こえない

そして 何も言わない

ただ 胸に刻まれた月圓と

確かな 心の絆が

大きな バネとなって

小さな 人造物を飛越する

もの言わず 耐え

信じて ついてきてくれたおまえと

心地よい興奮を味わう—この一瞬



◀ 1年目 日高合宿

役員交代 ▶



◀ 北大駅伝

全日学 ▶



◀ 雪まつり

目 次

巻頭言	部長 小池 寿男	1
馬の耳に念仏	監督 岡田 光男	2
学生馬術の国際交流	第6代 部長 半澤 道郎	4
前主将から	井上 京	6
役員報告		
主将	増田 美希夫	8
副将	石井 洋行	8
主務	飯野 秀之	9
副務	高須 哲男	10
馬匹	野中 道夫	10
薬品	平田 委久子	11
飼料	石井 洋行	12
作業	世良 健司	12
馬具・備品	町田雅人・名越正泰	12
文化	平石哲生・森田 敏	13
レシート	斉藤 恵子	13
会計	斉藤 牧人	13
記録	佐藤 仁美	15
昭和56年度行事報告		16
昭和56年度戦績報告		17
第24回全日本学生障害飛越競技会報告	増田 美希夫	26
全日学・All Japan の印象	井上 京	29
馬匹紹介・調教報告		
スターライト号	井上 京	32
ドンホッパー号	増田 美希夫	35
北楽院号	井上 京	37
北姫号	今 由美子	40
北将号	石井 洋行	45
北驪号	平田 委久子	47

北美号	飯野秀之	49
北皇子号	折橋由美子	51
北耀号		54
北紫雲号	井上京	55
烈々風号	岡田光夫 監督	57

離厩報告

疾風号	斉藤牧人	59
離厩馬の戦績		63
北海道大学水産学部馬術部活動報告		64
OB対抗戦		65
OBからの手紙		67

卒部にあって	井上京	73
	折橋由美子	74
	今由美子	75
自己紹介・他己紹介		78
北海道大学馬術部名簿		94

巻 頭 言

部長 小 池 寿 男

わが国における馬の飼育頭数は、昭和三〇年代の後半から、乳牛の頭数増加に反比例して急激に減少し、四〇年代後半には一〇万頭になってしまった。このため、永い間農耕の有力労働力であり、産業としても大きな地位を占めていたものが、競走馬などのレジャー面のみが残り、農耕とのかかわりあいはずななくなってしまった。そのためだけではないが、馬術部員の中にも大学に入ってはじめて馬に接する人がふえ、馬を知らずに馬に乗るといふようなことにもなってくる。このような底流があるためか、今年は馬の事故のほか、人の事故もやや目立った。さいわいにも若い人の恢復力によって、大事に至ることはなかったものの、寒心させられたこともある。

馬術部において、乗馬することは単に課外活動としてのしむのみでなく、試合に出てよい成績を望むのも技術向上のためには必要なことである。したがって、騎乗面に力がそがれるのはやむをえないことかも知れない。しかし、馬は器械とちがって生命があり、感情もある生物であるだけに、やはりまず馬を知ることがその騎乗技術を向上させるために必要不可欠のことである。このごろ部員間で馬に対する知識の吸収に関心がたかまり、勉強していることは、大変よいことと思っている。人馬ともに事故を少なくし、部活動をより有意義にするための一つの方法として有力なものである。

今年もまた離厩する馬があり、新たに入厩する馬もあった。永年にわたり部員と生活をともにした馬が老齢や故障のために部を離れて

ゆくのはさみしいが、新たに入厩した若い馬にその地位をゆずるのも歳月の流れである。老練な馬はときには乗る人にそのわざを教えるが、若い未熟な馬では共に学んでいくことが必要であり、その意味でも新旧馬の交換は部員の負担が増すことにもなる。しかし、一面において新しい馬との接触は馬自体を理解するためにはよい刺激となる。大学の課外活動としての馬術部で新馬の調教まですることにはいろいろと問題点も多いが、人馬協力して新しいものを作ることにも大切であり、管理、飼育面での勉強もまた馬を理解することにつながる。騎乗のための重要な過程でもある。

札幌でも大学周辺の都市化の傾向は毎年強まり、物価の上昇や周辺環境の変化など、馬を飼うことへの種々な困難性も加わってきているが、部員一同と力を合わせて乗り切りたいと考えている。

(昭和五十七年三月)

馬の耳に念仏

監督 岡田光男

暮しの中のことわざ辞典を見ると、馬の耳に念仏とは「いっこうに感じないこと」また「ありがたみのわからぬこと」と書いてある。たゞこの言葉に続いて、「実際には馬の耳は非常に敏感で学者馬などの名演技は、耳によっておこなわれている」と注釈がつけられているのはうれしい。

馬の耳は我々馬好きのものにとっては、実に適切に感情を現わすものであって、決して牛のように蠅を追い払うためにパタパタ動かすためにあるものではない。「牛好きの人にはお許しを」

馬が歯をむき出して、耳をしょって馬栓棒から頸を出す時など誠に迫力がある。馬が耳をしようことは、駈る事と、咬むことが馬の斗争手段であることを考へると、或は敵に咬まれる事を防ぐ自衛の手段かも知れない。王様の耳はロバの耳の童話で名高いロバの長い耳も怒った時にはびったりと伏せることは、学生時代農場で何度となく見たものである。

馬があるものに注意を集中するときには耳をキリッと立てて対象物の方に向ける。昔は竹をそいだ様な耳と云う表現で良馬の形容詞として用いられ、講釈師の張り扇の音と共に何頭かの名馬が叩き出されたものである。寛永三馬術、明知左馬之介の琵琶湖渡り、又中国の関羽、張飛、の物語りに出てくる馬はいづれも竹をそいだ様な耳を持ち、鈴をはった様なつぶらな「まなこ」を持っていた。

私は馬を見るととき王者の風を示す様に頸を高く上げて、あたりに

対して鋭敏に反応する耳、そしてかしくそんな目を先ず見ることにしている。

障害を飛越する時の障害にキリッと向けられた耳、障害を切らうとして、騎手の方をうかがう様にやゝ後ろに向けられた耳、特に馬場馬術を演技している馬の耳は、絶へず騎手の方に注意力を向け、あたかも騎手の命令を待っているようである。

この様に馬の耳は表情豊かなものであると共に、又非常に鋭敏に音を聞き分ける。これは野生時代に身を守るために発達したものであろうが、叱る、ほめる、なだめる等言葉の調子によって人の心を理解し、行動に移すものである。調教の初期、まわし運動の際には「やあし」「かけあし」「なみあし」と云う号令を聞き分けて馬が自由に運動する様になることは多くの人が知っている。所がその人が一旦馬の背にまたがると馬との対話を忘れてしまうことは一体どう云う事だろう。口笛を吹いて馬を停止させる騎手がどうしているような事を馬に語りかけないのであろうか。馬は口笛だけを聞き分けるものではないはずである。

しかってばかりいて「よしよしよくやった」とほめてやらなければ馬も張り合いが無いと云うものだ。又障害を飛越する時思はず出るはげましの言葉さへいろいろ批判する人が居るが私はこゝ一番と云う時、自然に発する声は、恐怖をごまかす声でもなく、心からの声であろうと思う。野外騎乗の心得に「自分の心臓を障害の向うに

投げ出せ、体はそれを追って飛べ」と云う言葉があるがそんな時発する声で馬も一大決心で見事に障害を無事越えるものと思う。昨年六月の目英對抗学生選抜馬術大会の日本側選手団長を勤められた半澤先生が「馬を見る目が出来ていて馬の配当の時も乗りやすそうな馬をえらんだ」「乗ってから馬を手の内に入れるのが非常に巧みで、馬を短時間に繋する術を心得ている」「外から見て荒々しい扶助はほとんど見られなかった」と云われているがこの事は「よく馬に声をかけ首を叩いて愛撫しているのに感心した」とのお話しの中になぜけるものがあると思う。日本の馬は英語を解すわけではないが、愛撫と言葉の調子はどんな馬にも共通のものであるはずである。昨年のインターハイの時に無減点でゴールした選手が馬に声をかけてねぎらい愛撫するのはあたり前であるが、反面失権した選手の中に馬に八つ当たりしているのを見かけたが、もっとも馬を理解してやる必要がないだろうか。

かって第二十回全日本学生馬術大会の障害で優勝した時に下馬してスターライトの頸を抱いてねぎらい、それがテレビに放映されて日本中に感動を呼び起した長屋選手がいつも「ライトライト」と話しかけていた事をもう一度思い起こしてほしい。

馬の耳は馬の心であり、騎手の心との結びつきのかけはしである。もっとも馬に声をかけよう。そうすれば馬も人に報いてくれると思う。馬の耳に念仏と云う言葉は我々愛馬家には無縁のものである。

創造の輪をひろげる

日特建設株式会社

取締役支店長 小池 栄一

本社 東京都中央区銀座8丁目14番14号
☎(03)542-9111(大代)

札幌支店 札幌市中央区南13条西11丁目1251番地
☎(011)561-5326(代)

旭川営業所 旭川市2条通り9丁目 士別信金ビル
☎22-1416(代)

苫小牧営業所 苫小牧市新中野町3丁目1番12号川端ビル
☎34-4210(代)

函館営業所 函館市五稜郭町1番13号 協栄生命ビル
☎(0138)55-5654

学生馬術の国際交流

— 第一回日英對抗学生選抜馬術大会 —

第六代部長 半澤道郎

日馬連の馬術情報第二四五号（昭和五十六年十二月二十日発行）の誌上に、第一回日英對抗学生選抜馬術大会に関する記事が掲載されているので、既に読まれた方もあると思いますが、私がある大会で日本選手団の団長を勤めたことで大変思い出の多い行事でありましたので、重複しますが部報にもその競技会について述べさせていただきます。

日本体育協会が昭和五十六年度に各競技団体に委託して実施する国際競技力向上事業の中に、チーム派遣、コーチ招聘と並んで世界のトップレベルにある外国選手・チームを招待して、優れた競技力と交流することによって、選手の強化および多くの指導者、選手の意識啓発が必要な競技について、外国選手チームを招待する国際交流計画が提案され、また同協会のオリンピック対策選手力強化計画には、「大学スポーツの強化の重視」の中で、大学選抜チームの編成と国際競技への参加の項目があり、これに対して昭和五十六年度の予算措置がされたので実施するようとの指示が六月の初旬にあった。全日本学生馬術連盟では前記の提案と指示に沿って、大坂理事長が早速前から関係のある英国馬術協会に学生選手の派遣を依頼した。七月になって英国のグロセスター州にあるターランド乗馬学校の学生チームの来日が決まり、日馬連の中に大会実行委員会が作られ、日馬連主催、学馬連主管のもとに、九月二五・二六の両日馬事公苑で競技会を開催する予定で諸班の準備が進められた。私は学馬連の副会長の故を似て、日本選手団の団長を務めることになった。監督には後藤博司氏、コーチには村上捷治氏が選ばれ、荒川孝夫君（関

東学生馬術協会幹事長）がマネジャーに選ばれた。

選手の選考は初めは全国四地区から選出する計画であったが馬の輸送などの問題で、今回は関東学生の馬を借用することになり、選手も関東地区から選考する事となり、沖崎誠一郎主将（日大）、佐藤五郎（明治）、鶴林秀幸（日大）、松本謙（専修大）、山川勝彦（同上）、細田莊一（慶応）、阿保和久（中央大）、宮本間勉（東京農大）の八名が選ばれた。

競技は障害飛越二走行と馬場馬術一回の三種目で実施することとし、障害飛越競技実施要項は国際馬術連盟の障害飛越競技会規程の第二八一条（国際障害飛越団体競技（CSYE）インターナショナル・カップ）の規程が最近全条削除になったので、日本国内の貸与馬規程で実施することも考えられたが、一方に国際馬術連盟一般規程の第一一三条（2）には「国際競技は決して国内規程の下に行われなければならない」とあるので、今回の競技は実質国際競技として開催する建前から、古い第二八一条に準拠して、少しく変則的なものが作成された。馬場馬術はF・E・Iのジュニアチーム選手権課目を採用することに決められた。

会場は中央競馬会の好意により馬事公苑の施設を借用することになったが、日馬連や学馬連では既に年度の予算が決まった後で大会経費の予算が取れないために、日本体育協会から出るもの以外は寄付金を集めることになって、大口には日産自動車株式会社にスポンサーとなって頂いた他、約二十社の企業団体の好意に頼ることになった。学生の馬術競技会に大口スポンサーをお願いできたのも初め

ての国際競技であったから無理をして頂けたものと思われる。

使用馬は日大から桜舞、桜竜、チェス、ジェボア、マフレッド・ドラムの五頭、専修大から専剛、専照、ベンハー、ヘラクレス、コウコクの五頭、明治大から明秀、明勇、明響、シヤルマンコーワの四頭、慶応大から慶山、慶雅の二頭、中央大からは白王子、白姫の二頭で合計十八頭でそのうちの六頭を馬場馬術競技用とされた。この外馬場用に二頭を準備してあったが一頭が故障で競技に出さなかった。これらの馬を藤沢市亀井野の日大馬術部の厩舎に集め、選手団も九月十六日から強化合宿をして訓練をした。

九月十九日に英国チームが来日、Taliland School of Equitation の校長 Colonel R.C.T. Siewright を団長とし、最年長（二五才）の Connor McMillan 以下 Rodney Powell, Jeremy Spring, Edward Benyon, Ryan Laydon, Alistair Hinston の六選手が成田空港から東京に到着した。

同じ十九日に日本選手団の結団式を日馬連の事務所のある馬事畜産会館の会議室で行ない、鈴木会長より団旗の授与を受けて、団員一同で英国チームを東京での宿舎の神田のホテル「花江」に出迎えた。翌二十日両チームは藤沢の日大馬場に集合し馬配と試乗をした。馬配は前記の馬を予めバランスがとれるように、馬場馬を四頭づつ、A、B の二群に、障害馬を六頭づつ、C、D 二群に分け、馬場馬は曳き馬で、障害馬は調馬索で廻わして英国チームに見て貰い、抽選をしないで好きな群を先に取って貰った。馬場馬二頭を外して、九頭ずつを両チームに配当し、以後競技が終了するまで、管理、運動、練習をチームでするようにしたが、通常の馬の世話は日本の学生が手伝い、監督に従って貰った。

英チームは藤沢市内のホテルに泊まって、二一、二二両日試乗をし、余暇を湘南見物などで日本チームと親睦を図るようにした。二三日は馬事公苑で開催中の「愛馬の日」の行事を参観、駐日英国大使と

会見するなどして東京都内に泊り、翌二四日に馬を馬事公苑に移し、第二角馬場で試乗を行い、その夜は青山ダイヤモンドホールで歓迎会を開催、翌二五日九時から開会式を芝馬場で行い、十時半から第一競技、十三時半から第二競技、翌二六日九時から覆馬場で第三競技（馬場）を実施、十一時から閉会式、十九時から銀座椿山荘で歓迎会を開催、英国チームは二七日に都内観光の後、箱崎ターミナルで見送りを受け成田から帰国の途に着いた。日本選手団は同ターミナルで解団式を行ない、六本木で慰労会を催し選手の健闘をねぎらい全部の行事を終了した。

試合の成績は英チーム二勝（障害）、一敗（馬場）であった。詳細は「馬術情報」第二四五号に載っている。

英国の選手はさすがに幼少の時から馬に乗り、乗馬学校で教育を受け、既にインストラクターの資格を持つ連中だけあって、馬に接する態度が慣れていて柔軟で、馬を手の内に入れるのが非常に速く巧みで、初めて乗る馬を短時間に上手に御すのには感心した。殆どが背が高く、力が強そうであったが衝受けは柔らかそうで、常に落着いたりズミカルで一定の速さのペースで運動することを心がけているようで、歩度の緩急の転換が非常に自然にだから無理がなく、外から荒々しく見える扶助は殆ど見られなかった。またよく馬に声をかけ、頸を叩いて愛撫するのが見られた。障害の下見の慎重さにも感心した。走行も規定時間を十分に使い、歩調も全行程を同じような歩度で落着いた淀みの無い流れるような走行であった。

この大会で英国チームから学んだことは非常に多く貴重な体験であった。この大会を通して両国の親善と国際理解の機会が持てたことを信じ、今後も学生馬術の国際交流が一層盛んに行われることを熱望し、第一回の大会に団長を努めた光栄を思い返して居る。

前 主 将 か ら

井 上 京

去年一年の間に北楽院が見せたような変化、それは今の部の練習を見ていると、ほとんどの馬について多かれ少なかれ起っても不思議ではない、また現実に取りつつあることだと思えます。はっきり言うと、Qの調教には方針がなかった。大きさに言えば思想・信念がなかった。それがかなりの馬についても同じことが言えると思うのです。思想や信念では馬は動かないと言われるかもしれないが、それは調教には不可欠だと思うのです。たとえ簡単なことでも一つの信念をもって馬にあたれば、それはそれなりに、確実に返ってくるものがある。(これはサブチーフをやる一・二年目でも体験できたことでもあります。)ところが今の練習を見て思うのは、何かそういうものをつかもうとはしているのかもしれないが、一貫性が無い。自分の経験から言えば、その信念みたいなものは曖昧模糊としていて漠然と宙に浮いているのですが、つかみどころがないのです。つかみどころがないものだからそれを馬と自分のものにする方法がわからない、やっていることには一貫性がない、言い換えればあつちをかじりこつちをつまみ、毎日の練習が実際に即さない、行き当たりばったりな、気分的なものになってしまっているのです。どうしたらそのしつぽをつかまえてやるのが出来るのでしょうか。

決定的なことはわかりませんが、やはりつかまえる努力を重ねることとしか言いようがありませんが、一つ今の部に欠けていることがあると思うので述べます。それは周りから吸収する努力に欠けて

いるということです。「見ざる・聞かざる・言わざる」というのがありますが、正にその「さる」です。みんな自分に頼りすぎ、自分に籠ってしまって発散させようと吸いとりうともしない、もしくはしているポーズを取っている、というだけなのです。同学年の間では少しはそんなこともあるでしょうが、まだまだ足りないと思います。どこかしら人は人、自分は自分、という風が感じられるのです。ましてや学年を隔ててしまうと、ほとんど議論などというものは縁がありません。しいてあるといえばミーティングぐらいで、それも一方通行的なものです。主将という立場にありながら、ついでや自分がそういう役割りを果たさなかったことは大いに反省すべきことです。

馬術は個人競技ではありますが、部の水準というものがなければ新人を育てていくことも、個人の技量の向上もあり得ません。特に新入生の上達には不可欠だと思います。その部の水準というものが最初に述べたようなものに裏づけられると思うわけです。見てみる、問うてみる、まねてみる、わかるまでやってみる、ちゃんと動かせるまでやってみる、できないことをとことん追求してみる、互いに影響され、切磋琢磨する、その中で確実なもの、思想・信念というものをつかみ、伝える。そんなことが今の馬術部にはもっと必要だと感じます。今の馬術部のやっていることはスポーツとして見ても特異だと思うのです。団体競技であっても個人競技であっても、そ

こにははっきりと教え、教えられるという結び付きがあるはずで
す。もっと人とそれに馬の胸を貸りてぶつかっていくべきだと思っ
うので

デザインから製品まで



株式
会社 **札幌メダル商会**

中央区北一条西三丁目 ☎ 二二二一八二四一
スキノ営業所
中央区南四条西三丁目 ☎ 二五一一〇八九六



鶏の鳴き声をこんなに間近かで聴いたのは、何年ぶりだろう。生
みたての卵を母さんが食卓にのせてくれた遠い昔が、昨日のよう
に甦ってくる。嬉しきは自然の中に生きている。自然が私たちにくれ
る愛に、私たちも応えていたい。この豊かさを大切に ●ホクレン



大きな自然と—明日へ

ホクレン

役員報告

主 将

増 田 美希夫

昨年の九月から主将の任についても半年が過ぎようとしている。昨シーズンの戦績は全体的にみればここ六・七年で一番ひどいものであったように思われる。北日本の予選で中障にエントリーをしたのが四頭で一走目と二走目ともに帰ってきたのが一頭のみであり一走目のみ帰ってきたのが一頭である。総合にしてみても五頭エントリーをして失権しないで帰ってきたのがただ一頭のみである。あとは第四障害迄にはほとんど失権している。これはどういう事なのか。2年前までは耐久ではほとんどの馬が失権しないで帰ってきている。年々、恵迪寮の裏の草池が使えなくなってきたステイブルコースが壊されてきたが昨年の秋頃から新寮を建てるとかで完全に破壊されてしまった。第二農場はまだ入れるがポプラ並木側の第一農場はバラセンが張られて入る事はできなくなった。馬で耐久審査を仮定して走れる所がほとんどなくなってきた。このような外的な条件と精神的な弱さや技術不足等が手伝ってこのような結果になってしまったのか。総合競技において調教審査で全く駄目な北大が耐久・余力で満点かもしくはそれに近い点数を出して初めて勝てるというのにその障害で全くとっていいほど落ち込んでしまっている。何故か。理由としていくつか上げられる。箇条書きにする

と、

一、年々、恵迪寮のステイブルコースが壊されて外で思い切り走行する事ができなくなっている。

二、騎手の乗り方が完全にバラバラになり統一されていない。
(自己流に陥っている。)

三、二と関連するが二年目の後半に馬を一頭与えられる迄に確固たる騎座が確立されず、また調教方法が理解されていない。

四、馴致不足。

五、馬の老朽化と故障。

だいたい以上の五つが主に考えられるが一と四はいろいろな試合に出場する事や札幌近郊の乗馬クラブ等へ行ったりすれば解決する。

二と三は練習においてお互いに批判や評価を言い合いながらお互いの技術を高め合ったり、各種講習会に出席してうまい人達の技術を身につけようと努力する以外に方法はない。もちろん練習体系全般を再考する必要は十分にある。五においては現状を述べると現在まともに運動をできるのが新馬二頭を含め七頭で新馬を除く五頭は年齢的に見ても中障で帰ってくるのが当然の年齢に達しているし、残りの四頭は馬体のいづれかの場所に致命的とも言える負担を負っている。こう考えてみると現在の北大馬術部を強くするには先程の理由の解決を急ぐ事他にいかに新馬を育て上げるかにかかっているし、老朽化している馬はやはり離厩しなければならないであろう。現在新馬は二頭いるが余裕のある限り今年も入厩させたいつもりである。

副 将

石 井 洋 行

現在のクラブの成績をみるにあたり、数年前のはなばなしの全日学での優勝、入賞といったことは忘れ、初心に帰って出なおす時期にきていると思います。今年の成績をみても、ドンホッパーの全日学2位はあったものの、全日学の権利を取った馬が2頭というのではどうしようもない。数年前、諸先輩方が、いとも簡単そうにゴールするのを見ていた自分たちは、今、その難しさを知り、自分たちの考えの甘さに気づいている。馬の方も新旧交代の時期にきていることは確かだが、いまひとつ、新馬ののびない理由は、やはり部員目標のあいまいさ、目的意識のなさからきていると思う。今や部の戦績はどん底である。過去の成績などに気にせず、愛馬精神に則り、この一年思いっきりやってみようと思います。

主 務

飯 野 秀 之

役員交代コンパでの一言。「今度作業から主務になりました飯野です。肉体労働から頭脳労働へ変わりました……。」

いざ仕事を始めてみますと、細かな仕事の多い事多い事。つまらぬ書類、学生部通い、電話連絡等々、怠慢な私にとりまして、それらを忘れぬよう一つ一つこなししていくのに精一杯。本来の主務たる仕事を忘れていると言われても何も述べる事がありません。そのため多くの方々に御迷惑をかけている事にまずおわびいたします。

それでは主務たる仕事は何か。多くの先輩がおっしゃっているように、一年先を大局的な目でとらえ、又金銭面で部を潤す事である。しかし、今のクラブを財政的に黒字にするのは非常に困難であると

思う。昨年の馬運車の件もありますし……。アルバイト、アルバイトと頭をいためております。

私が引き継いだ時点でまず十月から二月迄の時期にアルバイト料のみで六十万以上を目標にし、それはほぼ達成できそうです。この後の春休みをどう過ごすかが今後の課題といえましょう。

今迄の年間アルバイトとしては年間一五〇万程でしたが、私としては二百万を目標としています。ですから今迄よりも不公平となってしまうかもしれませんが、暇な者がどんどんつまらないバイトでもいって、たとえ千円でも二千円でもよけいにかせいでくれば、「チリも積もれば山となる」で、これをくりかえしていけば少しでも財政再建の糸口になっていくと思います。(といっても、実際は難かしいと思います。)

又、考えなければいけない事ですが、我々は「文武両道」を唱える学生であって、社会人の乗馬クラブでないのです。私自身あまり授業をつぶすのは好まないのになんとか授業をつぶさずにかつ有効なアルバイトを捜していけないといけません。これらを満たしていくのに四苦八苦しています。

次に主務たる仕事は何か。先程も述べましたが、我々は「学生」です。言ってみれば社会にも出ていない未熟者の集まりです。我々だけでは、できない事がたくさんあります。では、我々クラブ員一人一人が向上していく道は、と申しますと、幸い我々には二百名以上ものりっぱな馬術部OBがいますし、札幌にも五十名程の実績を上げられた方がいます。その方々をいい意味で利用させていただくという事です。至らない現役部員ばかりなのでもっともっと叱り、又教えをいただきたいと思います。私の役目といたしましてはOBの方ともしっかりもつよう取りはからっていかねなければいけ

ないと思います。手始めに、今迄あまりやらなかった「忘年会」「新年会」等のコンパをふやし、より親密につきあう事ができるような場を設けましたが、いかがでしたでしょうか。

今迄、わがままな事はかり書いてきましたが、OBの皆様方からは多大な援助をして頂いて大変ありがとうございます。部報が出せるのも後援会の方々のおかげですし、新しい馬具が手にはいるのも同好会の方々のおかげです。本当に有り難うございます。助かります。又、東京への遠征の時にも、お忙しい中わざわざ現役の為に会を開いていただき、感謝しようもございません。我々から出来る事と言えば、とにかく試合で勝つ事なので、部員一同がんばりますので、今年も又甘えさせて下さい。

年々環境も変化していき、部活動がやりにくくなっていくのは確かですが、その中でもいろいろ活用し、迷惑をかけぬよう、愛馬にしわよせがこないよう、我々全員一生懸命やるつもりですし、それをまとめていくのが私の役目と思っています。ですから今年も御支援の程宜しくお願い致します。

副 務

高 須 哲 男

昨年度に引き続き、副務をやらせて頂いております。二年続けてやるからには、それなりの事ができねばならない——苦なのですが……あまり芳しくは、ありません。

現在、財政が楽とは言いがたい当部におきまして、アルバイトの重要性は極めて高いものとなっております。今年度は、六・七月の札

幌競馬開催中、新たに、競走馬診療所の助手をやりました。平日は無論、授業を一日サボらねばならず、テストを控えた部員には苦痛だったでしょうが、馬に関する知識が飛躍的に増え、とても好いバイトでした。競馬開催日には、実に15人が競馬場へ……。更に8人が干草等のバイトへと散ったのですが、在学OBの方々の御協力を賜り、なんとか、こなすことができました。また、酪農学園大で開催されましたインターハイでも、予想外の収入を得ましたが、馬にまでバイトをさせるのは、心が痛みます。現在、毎月末に大学生協の棚卸し等をやっておりますが、部員が交代でやれるバイトとなると見つけるのに苦労します。

馬 匹

野 中 道 夫

獣医学部に移行したという事で9月より折橋姉から馬匹の仕事を引き継いだわけですが、まだわからない事だらけで、小池先生や折橋姉に頼りっぱなしという実情です。なによりも経験が乏しく、ひとつひとつの事例に対する判断が、なかなかつけられなくて四苦八苦しています。

馬乗りとして、人間の無知、不注意で事故をおこしたり、馬の健康をそこねたりする事は、絶対許されたい事ではありませんが、自分を含め、全部員、馬に対する神経の細やかさがありません。また、馬体管理に関しての無知が目立ちます。知らないという事は怠慢であり、罪悪でさえあると思います。事あるごとに、それらの事を肝に命じて、いつも馬達が健康に運動できるように、そしてよい成績を

おさめられるようにがんばりたいと思います。馬体管理の知識に関しては、毎月の部員総会に馬のなりやすい病気の事や、健康状態の見方など、自分も勉強しつつ、部員に話しています。また小池先生には先日、馬学の講義をしていただき、たいへんためになりました。これからも機会をみつけて、お願いしたいと考えています。OBの方々も来厩の折には馬体管理について、いたらない点など御指摘ください。お願い致します。

さて馬の出入りの事です、六月北紫雲号（アルファマリーナ）が佐々木厩舎より入厩。七月烈々風号（カツルーキーオー）が菊池厩舎より入厩。十月、長い間活躍してくれた疾風号を離厩、島村先輩の元へ。という事で現在、牡馬一頭、牝馬三頭、騾馬七頭、計十一頭でやっています。

それでは一月現在の馬体状況を報告します。

スターライト……左前肢手関節慢性奇形性関節炎。わずかに跛行。
ドンホッパー……左前肢裂蹄良好。同浅屈腱炎良好。

北楽院……X性腸炎予後良好。右前肢繫靭帯炎により現在常歩運動のみの状態。Ca剤、投与中（強力OSSM）

北将……管骨瘤めだつが跛行なし。

北美……右肩跛行慢性的

北耀……右顎骨膜炎から移行した下顎の炎症により膿がでっぱなしの状態、栄養状態悪い。結石のため排尿すこし困難。

北紫雲……唯一の牡馬。牝馬の発情の時期には十分な注意が必要。春に去勢の予定。

北姫、北雌、北皇子、烈々風、特に異常なし。
これからの予定としては、春先にでる骨軟症の予防のため、飼料の注意、Ca剤、ビタミン剤の投与を行うと共に十分に日光浴がで

るように配慮してやらなければなりません。現在、雪の日が多くなかなか放牧ができなくて困っています。その他、毎月の体重測定、春のインフルエンザ、破傷風の予防接種、伝食検査、血液検査、糞便検査、駆虫薬の投与などの仕事は、もちろんの事ですし毎日各馬の様子に注意してやらなければなりません。目のとどかない点などチーフ、サブチーフの協力も必要です。一週間に一度は馬体状況について確認しあうようにしています。

最後になってしまいました、いつも助けてくださる小池先生をはじめとした獣医の先生方、折橋姉、部員以上に馬の肢を気づかってくれる太田さん、飼料に関して責任をもってくれている石井兄、なにかと叱咤激励し手助けしてくれる薬品の平田姉、ほんとうにありがとうございます。これからも、どうかよろしくお願い致します。

薬 品

平 田 委 久 子

昨年に引き続き薬品をやる事になりました。この一年を省みると、薬局や保健所との連絡が遅く、遠征直前に薬品が届くなどの不備がありました。又、人間の故障が特に多かったようです。馬も人も運動選手である以上、健康管理には尚更配慮が必要でしょう。練習に試合に、ベストの状態を臨めるよう、皆の注意を喚起していこうと思えます。

飼 料

石 井 洋 行

昨年に引き続き飼料を担当することになりました。今年こそは安く良い乾草を思っていたのですが、夏の引き続く台風や豪雨のため、一般に乾草の値段は高い上に、質の悪いものが多いといった現状です。量的には、ほぼ一年分を確保したのですが、質があまり良くないことから、多少、栄養状態に不安があるので、馬の体重や健康状態に注意していこうと思っております。

作 業

世 良 健 司

昨年の今頃は有難い罰作業に明け暮れる自分でしたが、この自分が、その罰作業ばかりでなく全作業の指揮者となることを思うと少々はすかしい次第です。しかし、作業役員となったからには、短い月日に多くの作業を克服した経験を基に頑張っていきたいと思いません。

今後、自分もしばしば罰作業のようなかたちでいろいろ作業を与えるかもしれませんが、これは罰作業としてというよりは任意作業として、あるいはまた部員各人の自発作業とみなして提供する作業ですので、何故に俺は罰作業をやらねばならぬのか、などという余けいなことを考えず無心に精一杯頑張っていただけなのです。任

意作業を任意でなくするのも、自発作業を自発的なものにするのも部員各人次第なのだ。

最後にやはり作業というものは気持ち良く始まり気持ち良く終わらなければならぬ、なるべく少なく合理的に進めなければならぬことを胸に刻んで役員報告を終わります。

馬 具 ・ 備 品

町 田 雅 人 ・ 名 越 正 泰

昨年度に引き続き、馬具備品になりました。二年連続というわけで、昨年度ほどのとまどいはありませんが、仕事の中味はというと二年連続という利点を完全には、生かききっていないのが現状です。しかし、昨年度にくらべ、仕事もしやすく、満足する点が多くなっただことも事実です。また、その名のとおり、馬具備品の扱うものの数、種類が多いため、これらを、いかに整理、管理するかということが、大きな問題となります。この点に關しましては、部員のみなさんの協力がせひとも必要となりますので、今後ともよろしくお願いたします。

今年で二年目である。もう単に仕事をこなすだけでなく、それ以上のことを行わなければならない。

その主なものとして、

1. 有用な物とそうでない物を明確にし、無駄な物はすぐに切り捨てる。

2. より合理的、かつ安全な物品の導入と、それらの使用法の指導

3. 部員にもっと物を大切にすることを植え付ける。
 もちろん、鞍など新しい馬具もそろえたいのだが、予算の関係で無理があるため、その労力を部員の指導（特に下級生）に持って行く方針である。

文化

平石哲生・森田 敏

今年から文化という役職に就きまして、様々の仕事をしてきました。どの役職でもそうですが、例えば文化であれば、写真や八ミリが部員の技術の向上、ひいては部の発展に役立つことが、仕事の目的だと思います。だから、ただ試合や行事があるから、というのではなく、一つ一つ大切に、意義のある写真・八ミリをとっていくつもりです。具体的な仕事として、最近のものでは、八ミリの年代ごとの整理、これからのものでは、過去一年間の諸行事をアルバムにまとめること等があります。

とに角、何をするにしろ、すばやく時機をがさずに仕事をこなしていきたいと思しますので、宜しくお願いします。

レシート

斉藤 恵子

今年、部員の皆さんや在学中のOBの方々の御協力のおかげで、三万円強のお金が入る予定です。御協力、本当にありがとうございます。

ました。
 「レシート」という役職につきながら、私のやった仕事は、集まったレシートを計算しただけでした。少しでも多額のお金にしたかったら、もっと宣伝をして、強制的に出させるべきだと思っ

会計

斉藤 牧人

S 5 6. 1 0 ~ 5 7. 9 収 支 予 想

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
くりこし金 (9月末)	1,140,000	飼 料	950,000
入 部 金	20,000	馬 具 備 品	200,000
部 費	240,000	文 化	48,000
学馬連補助	1,300,000	薬 品	220,000
学 校 補 助	750,000	蹄 鉄	1,100,000
O B よ り	200,000	遠 征	1,700,000
アルバイト	1,500,000	他	1,100,000
計	5,150,000	計	5,318,000

昭和56年1～12月決算報告

会 計 齊 藤

収 入

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
部 費	27,000	24,870	21,629	8,050	93,373	19,720	3,880	28,967	0	74,750	0	33,360	335,599
アルバイト	7,500	36,000	28,000	286,600	78,140	607,494	763,536	518,880	113,344	134,960	104,340	114,000	2,792,794
補 助	0	0	0	0	10,000	0	0	200,000	18,000	20,000	1,124,000	337,000	1,709,000
そ の 他	68,710	193,128	42,490	39,000	64,200	199,500	20,000	199,644	0	182,040	32,000	0	1,040,712
計	103,210	253,998	92,119	369,650	245,713	826,714	787,416	889,557	131,344	371,750	1,260,340	484,360	5,878,105

支 出

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
飼 料	760	125,100	0	20,000	85,350	110,000	10,000	0	0	55,685	50,000	18,000	976,060
蹄 鉄	0	0	0	220,000	0	220,000	0	235,000	0	345,000	0	0	1,020,000
馬 具	0	4,148	0	0	0	53,640	0	14,847	0	8,899	3,600	1,510	86,644
薬 品	0	0	2,420	4,000	0	25,000	0	0	1,400	43,970	4,000	94,420	175,210
作 業	0	0	0	2,110	0	0	0	0	0	0	0	0	2,110
記 録	0	3,000	1,400	0	650	0	0	5,000	0	0	0	0	10,050
文 化	0	5,146	4,629	9,770	0	9,753	12,475	0	0	20,097	21,264	4,700	87,834
主 務	6,983	2,860	0	0	5,500	12,000	10,545	0	0	29,280	18,800	9,640	95,608
遠 征	0	30,000	0	0	0	0	172,090	180,000	108,012	28,455	373,716	0	892,273
会 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,016	400	400	2,816
雑 費	500,000	110,240	4,899	0	17,900	0	4,230	6,687	147,400	6,100	350,000	525,190	1,672,646
計	507,743	280,094	13,348	255,880	109,400	430,393	209,340	441,534	256,812	1,040,667	821,780	653,860	5,021,251

56年を越すにあたって、大きな赤字となっていました。飼料関係、薬品等の未払いも残し、昨年度以上に苦しい状態です。干草他、飼料費の値上がりは今年も予想されます。繁養頭数は減ったにもかかわらず、その維持自体、かなり困難となって来ているのが現状です。とにかく「切りつめて」いかねばなりません。

収入の面では、夏の干草作業、競馬場でのアルバイトが多くを占めています。それ以外のアルバイトという事になるとどうしても「小さな」ものになってしまいます。それでも、現在、生協の月末の棚卸し、朝日新聞社の合格発表の校正等をやっています。

僕ら部員皆で馬を養っているんだ！という自負はありますが、個人にかかる負担増、特に講義時間を削ってしまう事などは学生としては本来ならばやってはいかん事です。何とか、「財政の最大効用」を追求しなければならぬのであります。そんな中で、OBの皆様から援助を頂ければ本当に助かります。「危機」の今年、部員の「奔走」を御考慮のうえ、宣しくお願い致します。

記 録

佐 藤 仁 美

あちこちに分散していた図書類をやっとかき集めて、馬術部の書棚に納めることができました。これをどんだん部員に利用してもらい、かつ紛失、破損等せぬよう管理、維持していくのが、私の役目と思っております。さて、部員も、多くの知識を得ようと、模索しているのですが、何分、図書も新しいものが少なく、古いものは印刷や活字、文体等読みづらい面が多く、ついつい縁遠になりがち

です。つきましては、OBの方々にも、部員の血となり肉となる図書類を購入できるよう、御援助願います。又、部員に読ませたい本等が有りましたら、是非御紹介下さいますようお願い致します。

今日12月7日は、筆者にとって最期の当番でした。こんな形で去るとは最近迄夢にも思わなかった。悔しいという気持ちで一杯です。上級生を始め他の部員、特に二年目には、非常に申し分なく思っています。頑張って全日学には是非団体で出場して下さい。

しょうもない部員でしたが、色々と助けて頂いて本当に有難う御座居ました。

一年目も色々とお苦しいこともあるでしょうが、頑張って下さい。井上兄、森田へ、マリーナの事をよろしく。

|| 12月7日当番日誌より || (筆者・佐艇兄)

昭和56年度行事報告

4月 2～ 8日	雪割り合宿
4月11・12日	七大戦（於東京大学）
5月 4日	第9回半沢杯、太秦杯、河田杯記念馬術大会（於北大）
5月23・24日	北海道自馬馬術大会（於酪農学園大学）
5月31日	山下杯（於酪農学園大学）
6月27・28日	東日本馬術大会（於馬事公苑）
7月13～19日	青草合宿
7月31日 ～ 8月 4日	北日本学生馬術大会（於北里大学）
8月22・23日	北海道体育大会（於帯広畜産大学）
8月24～30日	日高合宿
9月19・20日	岩見沢親善馬術大会（於岩見沢競馬場）
10月 3・ 4日	公認馬術大会（於日高ケンタッキーファーム）
10月18日	現役対OB対抗戦
11月 7～16日	全日本学生馬術大会（於馬事公苑）
11月21～23日	全日本馬術競技会
1月 2日	初乗り
1月 4～10日	冬合宿

昭和56年度 戦績報告

第9回 半沢杯、太秦杯、河田杯記念馬術大会

<複合>

1. 橋本	酪農大	ゼット	-127 $\frac{1}{3}$	0	-127 $\frac{1}{3}$
2. 増田	北大(3)	ドンホッパー	-137 $\frac{2}{3}$	0	-137 $\frac{2}{3}$
3. 吉崎	フロンティアRC	ダイコヒカリ	-139 $\frac{1}{3}$	-14 $\frac{1}{2}$	-153 $\frac{5}{6}$
今	北大(4)	北 耀	-187 $\frac{1}{3}$	-4	-191 $\frac{1}{3}$
齊藤	北大(3)	北楽院	-	失権	
西川	北大同好会	北皇子	-	0	

<中障碍>

1. 小栗	北大同好会	北 耀	0 (ジャンプ・オフ 0)
2. 井上	北大(4)	北楽院	0 (" -4)
3. 橋本	酪農大	騾 龍	0 (" -8)
増田	北大(3)	ドンホッパー	-4

<小障碍>

1. 金沢	岩見沢 R.C	隆 孝	0	46" 4
2. 吉田俐	岩見沢 R.C	隆 孝	0	51" 0
3. 岩城	日高ケンタッキー-F	花 子	0	52" 8
6. 西川	北大同好会	北皇子	0	56" 38
13. 平田	北大(3)	北 騾	0	65" 0
14. 佐 粧	北大(2)	ドンホッパー	0	65" 8

第16回 北海道自馬馬術大会

<複合>

1. 橋本	酪農大	ゼット	-128	-5.9	-133.9
2. 布施	北星 R.C	ゼファー	-128 $\frac{2}{3}$	0	-128 $\frac{2}{3}$
3. 谷	北星 R.C	テレサ	-137 $\frac{1}{3}$	-5.85	-143.183
6. 増田	北大(3)	ドンホッパー	-153	-0.15	-153.15
井上	北大(4)	北楽院	-184	-5	-189
今	北大(4)	北 姫	-190	失権	
石井	北大(3)	北 将	-167 $\frac{2}{3}$	-40.75	-208.42
折橋	北大(4)	北皇子	-170 $\frac{2}{3}$	-34.825	-205.492

<中障A>

1. 小栗	北大同好会	北 耀	-4 (ジャンプオフ 0)
2. 渥美	酪農大	騾 臣	-4 (" 失権)
3. 井上	北大(4)	北楽院	-8
5. 増田	北大(3)	ドンホッパー	-14.5

<小障碍>

1. 小林	札幌光星高	サンマック	0	42" 0
2. 岩城	日高ケンタッキーF	花子	0	43" 5
3. 鈴木	旭川 R.C	ホッカイスガタ	0	44" 1
井上	北大 (4)	スターライト	0	48" 6
育藤	北大 (3)	疾風	0	56" 2
高須	北大 (2)	ドンホッパー	0	52" 9
町田	北大 (2)	北楽院	-3.3	63" 2
平田	北大 (3)	北 騷	0	55" 0
飯野	北大 (3)	北 美	0	56" 6
折橋	北大 (4)	北 皇子	0	48" 9
石井	北大 (3)	北 将	-2.75	73" 0

<中障B>

1. 金沢	岩見沢 R.C	隆 孝	0	51" 1
2. 小原	日高ケンタッキーF	チャーリー	0	52" 3
3. 土井	日高ケンタッキーF	サマンサ	-0.125	56" 5
今	北大 (4)	北 耀	-4	55" 4
飯野	北大 (3)	北 美	失権	

<婦人>

1. 布施	北星 R.C	アドノー	0	37" 0
2. 佐々木	日高ケンタッキーF	花子	0	40" 0
3. 堂黒	札幌女子高	サンマック	0	40" 3
今	北大 (4)	北 姫	0	50" 0

<ハンティング>

1. 布施	北星 R.C	ゼファー	58" 6
2. 原	帯畜大	ピリカ	75" 0
3. 橋本	酪農大	騷 龍	75" 8
4. 増田	北大 (3)	ドンホッパー	76" 6
小栗	北大同好会	北 耀	125" 0
折橋	北大 (4)	北 皇子	失権

<ピュイッサンス>

1. 布施	北星 R.C	ゼファー	0	41" 2
2. 谷	北星 R.C	テレサ	0	50" 0
3. 増田	北大 (3)	ドンホッパー	-4	45" 0
井上	北大 (4)	北楽院	-12	44" 8
小栗	北大同好会	北 耀	-12	46" 3

<六 段>

			1 回目	2 回目	
1.	布 施	北 星 R.C	ゼ フ ァ ー	0	-4
2.	谷	北 星 R.C	テ レ サ	0	-16
3.	小 栗	北 大 同 好 会	北 耀	-12	

第 3 回 山 下 杯

<中障B>

1.	増 田	北 大 (3)	ドンホッパー	0	
2.	井 上	北 大 (4)	北 楽 院	-4	
3.	橋 本	酪 農 大	ゼ ッ ト	-4	
	折 橋	北 大 (4)	北 皇 子	-4.825	
	今	北 大 (4)	北 姫	-9.025	
	石 井	北 大 (3)	北 将	失 権	
	斉 藤	北 大 (3)	疾 風	失 権	
	飯 野	北 大 (3)	北 美	失 権	

<小 障>

1.	井 上	北 大 (4)	スターライト	0	50" 4
2.	佐 藤	北 大 (2)	ドンホッパー	0	53" 3
3.	橋 口	酪 農 大	騾 龍	-4	51" 2
5.	名 越	北 大 (2)	北 楽 院	-24.2	1' 20" 8
	平 田	北 大 (3)	北 雕	失 権	
	野 中	北 大 (2)	北 耀	失 権	
	飯 野	北 大 (3)	北 美	失 権	

第 1 7 回 北 日 本 学 生 馬 術 大 会

<二回走行>

				1 走目	2 走目
1.	林	岩 手 大	チャンセラー	-3	-4
2.	岡 田	北 里 大	ブラックポパイ	-4	-7
3.	石 川	北 里 大	コンコルド ハットリー	-8	-4
4.	増 田	北 大 (3)	ドンホッパー	-8	-8
	井 上	北 大 (4)	北 耀	-7	失 権
	井 上	北 大 (4)	北 楽 院	失 権	失 権
	折 橋	北 大 (4)	北 皇 子	失 権	失 権

<総 合>

				調教	耐久	余力	総減点
1.	武 笠	帯 畜 大	柏 榮	-180.5	0	-5	-185.5
2.	坂 東	帯 畜 大	月 光	-179.2	0	-10	-189.2
3.	石 川	北 里 大	コンコルド、ハットリー	-193	-20	-5	-218
11.	井 上	北 大 (4)	北 姫	-202.5	-140	-36.25	-378.75
	井 上	北 大 (4)	北 楽 院	-203.2	失 権	-	
	折 橋	北 大 (4)	北 皇 子	-210.7	失 権	-	

齊藤	北大 (3)	疾風	-202.5	失権	-
石井	北大 (3)	北将	-194.7	失権	
飯野	北大 (3)	北美	-206		

<中障B>

1. 村上	岩手大	チャンセラー	0 (ジャンプオフ -4	31" 0)
2. 井上	帯畜大	月光	0 (ジャンプオフ -4	32" 8)
3. 小林	北里大	ブラックポパイ	0 (ジャンプオフ -4	35" 7)

<新人新馬>

1. 坂本	岩医大	剣盛	0 (ジャンプオフ 0	24" 8)
2. 長谷川	東北大	梵天	0 (ジャンプオフ 0	27" 3)
3. 永岡	岩医大	ラディウス	0 (ジャンプオフ 0	26" 8)
平田	北大 (3)	北騏	失権	

第28回 北海道体育大会 (兼国体予選)

<成年総合>

			調教	耐久	余力	総減点
1. 佐藤	碧雲 R,C	セニョールホース	-142 $\frac{2}{3}$	-51.6	-10	-209 $\frac{2}{3}$
2. 西条	帯畜大	柏蘭	-192 $\frac{2}{3}$	-28	-15	-235 $\frac{2}{3}$
3. 橋本	酪農大	ゼット	-141 $\frac{2}{3}$	-95.2	-15	-253 $\frac{2}{3}$
井上	北大 (4)	北楽院	-204 $\frac{1}{6}$	キケン		
増田	北大 (3)	ドンホッパー	-185 $\frac{2}{3}$	失権 (旗門不通過)		
石井	北大 (3)	北将	-172	失権		
飯野	北大 (3)	北美	-198 $\frac{1}{3}$	失権		

<成年障障>

1. 武笠	帯畜大	柏栄	-7		
2. 橋本	酪農大	騷鶯	-8		
3. 増田	北大 (3)	ドンホッパー	-15		
井上	北大 (4)	北楽院	失権		
小栗	北大同好会	北耀	失権		

<中障B>

1. 小原	日高ケンタッキー	チャーリー	-2		
2. 折橋	北大 (4)	北皇子	-4		
3. 鈴木	旭川 R.C	サベルニック	-4		

<小障障>

1. 竹之内	日高乗同好会	カイドウ	0	46" 4
2. 佐々木	日高ケンタッキー	チャーリー	0	47" 56
3. 鈴木	旭川 R.C	スカイナーホース	0	48" 3

野中	北大 (2)	北 耀	0	51" 21
佐粧	北大 (2)	北 楽院	失権	
平田	北大 (3)	北 雕	失権	

第3回 北海道地区乗馬大会 (岩見沢親善馬術大会)

<ジムカーナB>

B班	1. 稲垣	フロンティアR.C	カスミリュウ	47" 0
	2. 清水	北星R.C	ゼファー	50" 0
	3. 浅田	旭川R.C	アサヒクween	52" 0
	平山	北大 (1)	北 美	58" 0

<小障碍>

1.	鈴木	旭川R.C	ホッカイスガタ	0	39" 5
2.	佐粧	北大 (2)	スターライト	0	49" 1
3.	宮下	旭川R.C	ホッカイスガタ	0	49" 2
	増田	北大 (3)	北 雕	失権	
	石井	北大 (3)	北 将	失権	
	飯野	北大 (3)	北 美	-4	51" 1
	平田	北大 (3)	北 雕	失権	
	今	北大 (4)	北 姫		
	斉藤	北大 (3)	スターライト	0	49" 9

<中障B>

1.	尾崎	岩見沢R.C	隆 孝	0	41" 06
2.	米田	北星R.C	ゼファー	-4	36" 00
3.	斉藤	旭川R.C	チェッククween	-4	47" 00
	今	北大 (4)	北 姫		

第6回 北海道地区馬術大会 (公認)

<中障B>

1.	小原	日高育成	カイドウ	0 (ジャンプオフ 0 39" 0)
2.	谷川	浦河高校	イブリエース	0 (ジャンプオフ 0 41" 0)
3.	斉藤	旭川R.C	チェッククween	0 (ジャンプオフ 0 45" 1)
	井上	北大 (4)	北 楽院	失権
	今	北大 (4)	北 姫	失権
	飯野	北大 (3)	北 美	失権

<ハンティング>

1.	鎌田	北星R.C	チャキリス	85" 1
2.	斉藤	旭川R.C	スカイナーホース	89" 6
3.	橋本	酪農大	ゼット	91" 3
5.	増田	北大 (3)	ドンホッパー	97" 7

<小障碍>

1. 小林	札幌競	サンマック	0 (ジャンプオフ 0 24" 2)
2. 長谷川	日高乗同好会	レインメーカー	0 (ジャンプオフ 0 35" 1)
3. 寺越	日高育成	ヒダカレディ	0 (ジャンプオフ 0 36" 3)
井上	北大 (4)	北楽院	-7 79" 0
今	北大 (4)	北姫	-11.5 96" 4
斉藤	北大 (3)	スターライト	失権 (馴地)
増田	北大 (3)	北騏	失権
石井	北大 (3)	北将	失権
佐藤	北大 (2)	スターライト	失権 (経路違反)
飯野	北大 (3)	北美	失権

<婦人・荘年>

1. 岩城	日高ケンタッキー	チャーリー	0 58" 2
2. 掛川	十勝柏友会	ノエル	0 66" 5
3. 竹之内	日高乗同好会	ナナ	-4 66" 1

<内国産馬>

1. 増田	北大 (3)	ドンホッパー	0 (ジャンプオフ 0 41" 3)
2. 武笠	帯畜大	柏星	0 (ジャンプオフ 0 53" 3)
3. 橋本	酪農	騷鷲	-4
今	北大	北姫	失権
井上	北大	北楽院	失権

<大障B>

1. 増田	北大 (3)	ドンホッパー	-4 (ジャンプオフ 0 41" 6)
2. 武笠	帯畜大	柏星	-4 (ジャンプオフ 0 43" 1)

<全日本学出場権利は次の人馬が獲得>

中障害 北楽院 井上 (4)
ドンホッパー 増田 (3)

<全日本への出場権利獲得人馬>

増田 (3) ドンホッパー

第24回全日本学生障害飛越競技大会

(11月7日～16日 於馬事公苑)

個人成績					第 1	第 2	
1 位	阿 保	中 央	大	白 王 子	0	0	52" 41
2 位	増田(3)	北	大	ドンホッパー	0	0	57" 12
3 位	大 畑	関 西	大	千 駿	0	0	57" 41
	井上(4)	北	大	北 楽 院	失権		

団体成績			
1 位	慶応義塾大学		-4
2 位	関 西 大 学		-11.75
3 位	専 修 大 学		-16

第 3 3 回全日本馬術大会（11月21日～23日 於馬事公苑）

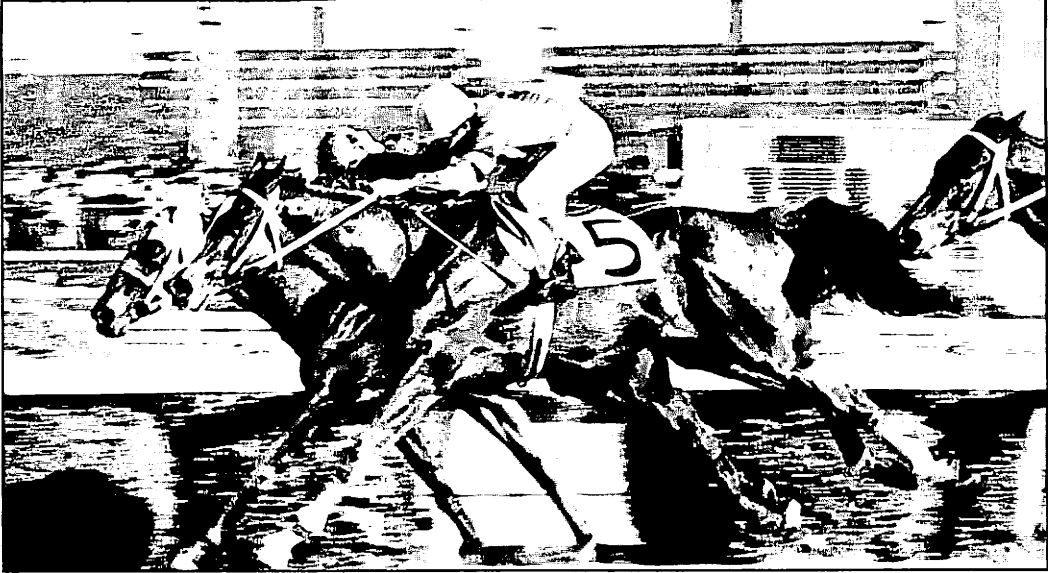
ドンホッパーと増田(3)が中障碍，標準中障碍，ハンティングB，コンソレーションに出場

競馬ブック

競走馬の専門紙

内外の話題を満載

『週刊競馬ブック』毎週月曜発売



乗馬で一番大切なモノだから……

カバロでは、世界の馬具や乗馬用品の中からより良いものを選んだり、自社オリジナルを開発したりしてより優れたものを皆様にお届けしております。

●カバロ東京



★3点セットセール

他お買徳情報や
アクセサリ・ライディング
ファッションでいっぱい!

Cavallo 東京

東京都世田谷区上用賀2丁目3-1-106
(パシフィック馬車公苑前1F)

☎(03)425-8844

〈営業時間:AM10:00~PM7:00〉〈定休日:火曜日〉

●カバロ神戸/☎(078)251-6620 ●カバロ大阪/☎(06)344-0070

馬は友。

都会を離れたのも
またでかみらぬく

宿泊予約中



日高 ケンタッキー ファーム

●日高ケンタッキーファーム料金表

施設		会員	一般入場者
入場料 (管理費として)	大人	無料	200円
	小人	無料	100円
ペンション (1名, 食事なし)		2,500円	4,000円
ファミリー・ロッジ (7名まで)		10,000円	25,000円
マッシュルームロッジ (7名まで)		13,000円	28,000円
スイートピラ (4~6名まで)		16,000円	28,000円
バンガロー (4名まで)		6,000円	12,000円
コテージテント (6~8名まで)		5,000円	10,000円
貸テント (4・5名用)		3,000円 <small>より</small>	5,000円 <small>より</small>
乗馬	外乗 Aコース	150円	300円
	Bコース(遠じょう付)	1,000円	2,000円
	角馬場 15分	1,000円	2,000円
	(指導付) 30分	2,000円	4,000円
テニス (1時間)			
7・8月の平日と土曜日		1,000円	2,000円
釣り堀 (場内)		500円	800円(平日)

乗る 日高ケンタッキーファームは、大自然の中で本格的な乗馬が楽しめる日本唯一の牧場です。安全には万全を期していますし、初めての方でもすぐ乗れるように指導もいたします。乗馬場は角馬場と3つのクロスカントリー・コースがあり、技量によって楽しめます。

会員特典

- ①メンバーズルームの使用権
- ②メンバーズロッジの使用権(有料) テニス・バドミントン・ピンポン・アーチェリー・バットゴルフ
- ③乗馬、テニス・コートの使用は、会員を常に優先し、これを会員特別料金とする。
(会員以外の場合、乗馬、テニスはできないことがあります。)
- ④年2・4回の特別催事情報提供
- ⑤北海道の農産物・酪農製品・海産物の直送サービス
- ⑥代表者を定めた他の2名を連記とするファミリー会員制
- ⑦その他、提携先施設、又はスキーバス等の利用において、数々の特点があります。

入会保証金
お申込み

(10年間据置、7割返還)道内会員40万円 道外会員30万円
南日高ケンタッキーファーム 北海道沙流郡門別町字福満128番地 01456②0811・②2192



第二十四回 全日本学生障害飛越競技会報告

日時 昭和五十六年十一月八・九日
場所 東京——馬事公苑

ドンホッパー&増田美希夫(3)

増 田 美希夫

昭和五十六年十一月四日の早朝に北大応援団と現役部員に壮行会をやってもらい札幌を出発した。僕が入部して以来、壮行会等というものを応援団にやってもらった事はなかったが今回は是非やってもらいたいと思ひお願いした。馬運車の運転技術には絶大なる自信があったが(?)何しろ他現役部員は僕が運転するという事に異常なまでの不安を持っていたので慎重に運転した。道中は井上兄と替わる替わる運転したので初めて馬運車で東京まで行く割には楽であった。愛馬ドンホッパーは北大の中では古参馬の一頭で七年間連続全日本学生出場を果たしている位であるから馬運車の中では非常におとなしく、ドンは

「今年もあの馬事公苑とかいう青草がほとんどない所へ連れて行かれるのか。あーあ。あそこの芝馬場の芝はまずくてまずくてしょうがないからなあ。」

等と馬運車の中で乾草をほおぼりながら考えていた事であろう。

馬事公苑には二十四時間ピッタリかかり朝の六時頃に到着した。

一番手は帯畜大で北大は二番手であった。

馬の調子は秋の公認大会あたりからグリーンと伸びたというか、やっとその頃にドンについて分かりかけていたと言った方が当たっているであろう。あの公認大会の感じを全日学で作る事ができれば上位入賞も夢ではないと思っていた。札幌でも監督さん、半沢先生を始めたくさんのOBの方々から激励されていたし、壮行会のコンパの時には全日学・全日本を通して五連勝する等と大ボラを吹いたのでは是非優勝したかった。日程として七日に入場式、八・九日の両日に渡り二回走行が行なわれたが七日の入場式の時はずらさバンドの音に驚いたりで案の定チャカチャカとしていたが元気が一杯なのでそれはそれでいいと思ひ大して気にはしなないうた。それよりもたったの二頭しか入場行進ができない悔しさの方が大きく、来年こそは絶対に団体で堂々と行進してやりたいと思った。その入場式の夕方の選手会でクジを引き、ドンが二十七番、北楽院が八十九番と決まった。一走目の八日には全部で百十六頭もの人馬が出場した。前の日に逆計算した時出番はだいたい九時五十分か十時頃だろうと分かっていたので約一時間半前の八時三十分頃に準備馬場に入った。準備馬場では障害も運動も控え目にしておき障害の高さも八〇cm位のものしか飛ばなかった。それも最初速歩で5・6回飛ばせば前進氣勢が強く感じられるようになってから駆歩で左右に5・6回位単一とオクサーを飛んだ位である。高橋さんや札幌競馬場の荻野さんからも準備運動は首筋に多少汗がにじみ出てきて馬体がほぐれるようにする位で十分であると聞いていたのでこのようにしたのであった。準備馬場で五十分程運動して(その中で常歩で三十分位歩かせた)からトンネルをくぐって待機馬場へと行った。待機馬場では準備馬場よりは大きな一二〇cmか一三〇cmのオクサーを二・三回飛んで終わら

せ、後は常歩で歩かせていた。待機馬場で運動しているうちに胸の心臓は勝手に早く動き出し、また北日本の顔見知りである福島大の麗王が一落で帰ったとか東北学院の東翼が二落下で帰って来た等という放送が耳にチラチラと入ってきて、あいつら良く頑張ってるな、絶対に負けられないぞと思っていた矢先に中央大の白王子や慶大の馬が満点で帰ってきたという放送が流れてもう今年一年自分が練習したものや感覚を全て出し切ってるしかないと自分で自分に言い聞かせた。

「二十七番、北海道大学増田選手、乗馬ドンホッパー御入場して下さい。」

という放送を聞いて放送席の方へ速歩で向かっていった。停止して審判席に敬礼し終えると同時にドンは力強い駆歩で走り出して行った。自分はただ馬の動きを出来るだけ邪魔しないで乗ろうと考えてスタートした。審判席と反対側の第一障害に向けた時、落とさないでくれと祈っていたらドンはつまることなく非常にスムーズに飛越し、十一番障害のトラケーンの後ろを通り二番つい立てに向かいこれも綺麗に飛越した。三番の石垣は二番障害に対して斜めに置かれていたがこの位の経路は北海道の経路と大して変わらんとはいながら向けたらドンは障害を見てか若干つまって飛んだ。一瞬ヒヤッとしたが運よく落下せずピラピラに向かいこれは何なく通過。この四番のピラピラと五番の花壇の垂直一三〇cmの障害への回転は第一のヤマ場であったので回転では割と強く馬をつめて馬転しないように誘導した。垂直障害は割と得意でありそれが馬に通じていたかこれも気持ち良く通過、六番の芝カマは割と高さかつ幅があったがドンはこんなものへっちゃら、へっちゃらと言っているかのように通過。第七のドラムオクサーと第八番のトリプル、第九のコニヤックは楽

勝。次の第十障害は幅あり高さあり、また第九と第十の間には距離もあった為多少こわかったがこれも大きく飛越。第十二障害の水壕は毎年泣かされていたので一番いやであった。しかし今年は幅が三mしかなくドンも憶する事なく飛越した。次のダブルと最終は無我夢中で飛越した。ゴールを切り放送のマイクからドンホッパー号三頭目の満点でゴールした様ですなどと言ったのを敬礼をしながら聞き非常に嬉しかった。

結局、一走目に満点を出したのは十二頭もいて近年にはない大激戦となったのである。その中にはモントリオールオリピック出場を果たした慶大のフイック等も混じっている。何と慶大は三頭とも満点であった。一走目が終わり翌日の二走行目は出番が八十七番であった。何と今年には団体を組んでいない大学で一走目に失権した馬は二走目には出場できないと言われ北大からは一頭だけになってしまった。出場は八十七番であるが十一時きっかりにNHKが録面をする事になっていてスタートは十一時三十分頃であろうと予測していた。準備運動は昨日と同じ様な感じにして馬に十分に力を残しておいた。放送で呼び出されて芝馬場の中へ入っていった。昨日よりは人間の方にいささが余裕があるようだ。しかし、失敗は許されない。何はともあれベルが鳴ってスタートし、二走目も無我夢中で経路を回ってきて運良く落下せずに満点で帰ってきた。スピーカからこの瞬間に中央大の白王子とバラージュが決定したと伝えられた。前日の夜、寝ようと思ってウトウトし、ハッと起きて飛び起きてバラージュの経路覚えるの忘れたと必死で暗記したのであるがあまりの興奮の為バラージュの経路を二走目が終わった時には忘れかけていた。そこで井上さんに誰かから借りてきてもらいもう一度覚えた。しかし、普段からあまり勉強していないせいか頭にあまり入らず結

局はそれが経路走行に出てしまう事になるのだが……

一走目と二走目合わせて減点0であったのは計六頭であった。

バラージュの出番は二番目である。障害の数は八障害と減ったが垂直障害は高さ一〇cm up、オクサーは高さ幅共に一〇cm upした。結局、最終障害は高さ一五〇cm幅二一〇cmとなり、今までで一番大きな障害を飛ぶことになった。一番の中央の白王子はスムーズに回り満点でゴールした。それもかなり距離を短縮して斜めに向けたりしていた。これはまずいなと思いつつも勝負をかけた。第五障害まではそんなタイムのロスもなく回ったのであるが第五障害を飛越した時に体のバランスがややくずれ一瞬記憶喪失となってしまった。結局は満点で帰ってきたのであるが第五から第六へ向かう途中の大きなタイムのロスのために優勝した中央大の白王子に約四秒半差をつけられ準優勝になってしまったのであった。しかし自分の走行は悪いものだとは思わなかった。(非常に悔しくて悔しくてしようがなかったが)全部満点で帰ってきたのだから。これだけやってくれたドンには本当に頭が下がる思いであった。表彰式時には二人で来年は絶対に優勝しようと堅く誓い合った。しかし、ここまで来れたのはドンと僕が精一杯やったからだけではなく、もちろん他の人の支援があったからだと感謝しない訳にはいかなかった。特に馬匹の高須は非常に良く頭を働かしてやってくれたし、東京OB会の皆さんやわざわざ神戸から新幹線に乗って来てくれた桑田兄や福島から車でブッ飛ばしてきて下さった松岡兄等数えたらキリがない程である。また、岡田監督を始め半沢先生、札幌OB会の皆様方にも失礼ながら改めて厚く御礼申し上げる次第です。

しかし、この後の全日本大会では何か油断してしまった様で全く駄目であった。東京遠征の約一ヶ月の間に一番良い試合と一番悪い

試合をしてしまった。しかし、全日本大会では日本のトップライダーの飛越ぶりを見る事ができて非常に勉強になった。

最後になりましたが、現在の北大は戦績的にも雰囲気的にも落ち込んでいたが今年の全日学第二位という事が導火線となりクラブ全体が上昇して行くきっかけになったのではないかとそれが一番今嬉しく思います。北大がドン一頭になってしまっているのは事実ですが来年こそは団体を組んで全日学へ出場し北大の意気盛んなる所を見せたいと思っています。

— 優秀乗馬賞について —

毎年、全日学馬連から全日本学生馬術三大大会において優秀なる成績を残した馬匹所有者に対して、飼育奨励金が優秀乗馬賞なる形で支払われます。今年もポイント制によって三十頭が選ばれました。このポイント制というのは、障害・総合・馬場の優勝者が二〇〇点、二位が一五〇点、三位が一〇〇点という様に順位で点数が決まっているもので例えば障害と総合で優勝すれば二〇〇十二〇〇四〇〇点となる訳です。ドンホッパーは障害二位で合計点数一五〇点で全国第六位になりました。そして二十二位までの者が補助金として十万円を頂きました。

全日学・All Japanの印象

井 上 京

馬に乗り始めてたかが四年にも満たない者がこういう文章を記すのはいへんおこがましいこととは思いますが、昨年の全日学・全日本馬術大会で受けた印象について、独断と偏見を交えつつ書きたいと思います。(全日学に出場した増田とドンホッパー、小生と北楽院のことに關してはそれぞれの調教報告に記すであろうのでここでは割愛します。)

一言で言うと、全日学での慶応大学の活躍は驚異でした。活躍というよりは、一昨年前我々には何の印象も残さなかった慶応が、この一年間に成し遂げた変化そのものが驚きでありました。御存じのとおり慶応大学は障害飛越競技二回走行の団体の総減点がわずかに四点だったわけですが、特にその一日目には総減点がゼロ、その経路走行のスムーズな点には目を見張るものがありました。動揺しない騎手、スムーズな随伴、あたかも馬自ら障害を求め進んでいくかの如き誘導、等々。そしてその変化は慶応のみならずいくつかの他大学にも見受けられたことであり、何かが変わりつつあるという感触がありました。入賞した多くの馬が外国産馬であるとか、選手の馬歴が長いというようなことは、この際あまり関係がない、(現に全日学三位だった関大の千駿は内国産馬だし、慶大の高見君は大学で馬術を始めている。)全く関係ないわけではないが、それ以上に、いま起りつつある変化というものは、それらのことよりもっと大事な、障害飛越の原則とも言うべきものに近づきつつあるような気がす

るのです。そして、これは負け惜しみみたいなものですが、北大馬術部が求めながらできなかったことも、このあたりにあるような気がしたのでした。

その後の全日本大会でも日本のトップレベルにある選手の競技や準備運動を見る機会を得ましたが、道内や北日学の試合しか見たことのない我々にはたいへんな刺激となりました。ある競技で杉谷馬事公苑の陶器君が準備運動をしていたのですが、馬の落ち着きぐあい、準備運動の進め方など驚きのほかありません。正確かつ明快という印象でした。こうした運動を目の前に突き出されると、いったい僕らの準備運動とはなんだったのだろう、馬を興奮させ、疲れさせ、あげくのはてに人間も疲労困憊してしまうかあるいは激昂してしまっている、そんな思いがふと脳裏をかすめるとともに、逆に見れば、まともな準備運動ができないということは、日々の調教がいかにあまいに終わってしまったであろうかということでした。障害馬を調教するに当たって、障害馬に求められることはどういうことか、その調教に必要なことはなにか、飛越の原則とはなにか、ということですが、一つの思想・信念のように貫かれているだろうか、ということですが、なにもそんなにむずかしく考えなくても、それらのことは馬術部で読んでいる「障害飛越の理論と実際」や今村先生やリッター氏の著した書物などに幾度となく繰り返し述べられています。要は、実行しなかったのではないかと思うのです。それがここにきて、ああなるほど馬はあんなに落ち着いていられるのだ、騎手はあんなに無理なく馬に随伴していけるのだということを見せつけられたのでした。

もちろん良い場面ばかりでなくいくつかの悪い点にもお目にかかりました。たとえば人が踏み切りを合わせようとして馬の持つリズ

ムを崩している場面は多々ありましたし、旧態依然とした騎乗法、共同作業ではなくて弾圧と支配の関係などなど。しかし他方ではすでに理にかなった馬術をすすめている人達もかなりいるわけで、我々北大馬術部がこのまま低迷を続けるか、一から出直し確実に発展していけるかは、まさに今の迷いから目ざめるかどうかにあると感じた次第です。

☆AM六〇〇、DONとQを乗せて馬運車出発。応援団が、はなばなしく見送ってくれた。ドラマチックな出発だった。頑張ってきた下さい!!。井上兄、増田兄!!
 ☆DON=HOPPER、全日学二回走行第二位!! よかった、よかった。
 ☆増田兄が帰って来る。今晚は祝勝会だ!!

|| 11月4・9・13日当番日誌より ||

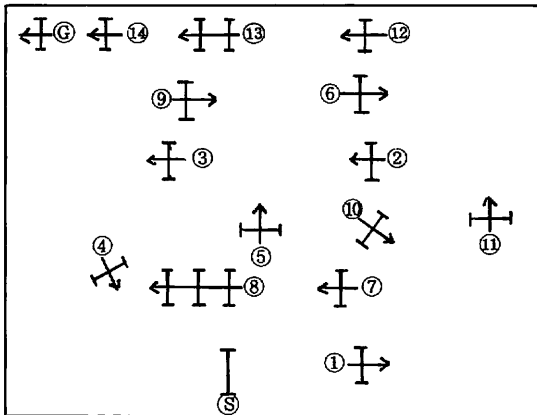
二段階走行飛越競技 障害経路

全長 630m

速度 350m/min

規定時間 105秒

制限時間 2分16秒



- | | |
|-----------|------------------|
| ①オクサー | H120H140W150 |
| ②垂直(ツイタテ) | H120 |
| ③石垣 | H120W |
| ④ピラピラ | H120 |
| ⑤花壇 | H130 |
| ⑥オクサ(芝カマ) | H130W160 |
| ⑦ドラム | H120W160 |
| ⑧aレンガ | H120 |
| ⑧bオクサー | H110H130W160 |
| ⑧c垂直 | H130 |
| ⑨コニャック | H130 |
| ⑩オクサー(竹柵) | H120H130W180 |
| ⑪トラケーン | H120 |
| ⑫水ごう | W300 |
| ⑬a垂直 | H120 |
| ⑬bドラム | H140 |
| ⑭斜三段 | H120H130H140W200 |

バリエーションにおいては①②⑤⑨⑬⑭を使用しH、Wとも10増加とする。



銀座屋

■工場 札幌市西区発寒834
電話 (661)-1092

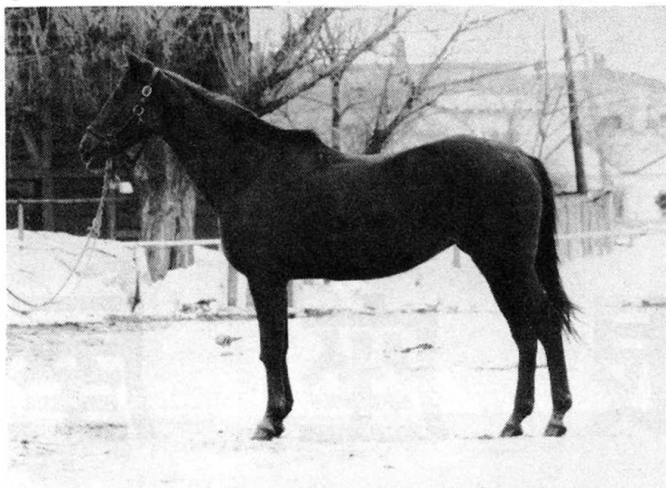
■本社・売店 札幌市中央区南1条西17丁目
電話 (621)-0701

太田装蹄所

札幌市東区伏古10条1丁目15番5号
TEL 782-6084

馬匹紹介 調教報告

スターライト号



牝 ア・ア 栗毛
昭和41年4月4日生
沙流郡門別町産
父 トモスベ
母 銘 乾
体重 四八〇Kg

(耳をピンと立てて) 私はライト。ここ北大に来てから10年間、小柄な体で試合に、練習に頑張ってきたんだけど、このところ他の馬達と同じ事させてもらえないの。足が悪くなったから、激しい運

動はしないほうがいいんですって。(馬房内です早く右巻き乗り) 知ってるのよ、「もう年だから。」なんて言ってるの。(首を数回縦に振る) 失礼ね、私はまだ花のセブンティーンなのに。(壁を歯で削って) 今まで馬休になった事はほとんど無いし、私は丈夫なの。(関節全部を深く曲げる彼女独特のお手をして) つい最近まで、3、4人も乗せて時間いっぱい練習していたら、ひざがふくらんじやったけど、私自身はとっても元気なつもりなのに。(頭を下げて前かき) — 寂しいのよ、一頭で馬房に残って練習が終わるのを待ってるのは。私、どうなるのかしらって悲しくなるわ。 — (再び首を上げ、耳を立てるいい表情をして) でも私は、全国に名声轟きわたるスターライトよ、どんな運命が待っていても、私は華麗に美しく生きてみせるわ。(激しく首を縦に振るのをはさんで、馬房内を連続右巻き乗り)

「スターライト号」調教報告

井 上 京

前チーフの退部という事態で、僕がライトに騎乗しはじめたのは去年四月からでありました。短い期間でしたが、感情豊かな彼女に教えられたことは多く、二頭乗りにかこつた人間の身勝手な振る舞いのために彼女に十分な心くばりをしてやれなかったことを心苦しくまた恥ずかしく思っています。

騎乗を始めた当初、いったいどうやってゆけばよいのか皆目わからず、運動らしい運動もできずにただ興奮させるばかりで、つまるところ馬と衝突を重ねる毎日でした。特に駈歩運動に致っては体を

無責任さを恥ずかしく思っています。

☆ ☆ ☆

出場した試合とその結果は次のとおりでした。

自馬大会（5月）・小障 満点（井上・4）

対酪農戦（5月）・小障 満点・1位（井上・4）

岩見沢親善（9月）・小障 満点・2位（佐桂・2）

（同左） 小障 満点（斉藤・3）

公認大会（10月）・小障 失権（佐藤・2）

（同左） 小障 失権（斉藤・3）

自馬大会や酪農戦のころはまだ十分に馬と折り合いもついていず、落ち着けることも出来ませんでした。なんとかかきかけが見えはじめた頃だったと思います。とにかく冷静にすることであり、僕自身も冷静になろうと（頭に血が昇らないよう）努めました。が、まだ障害を見れば突っ走られ、そのまま止めることもできないような有様で、満点であったのも彼女の潔癖さ故だと思えます。

岩見沢ではずっと明確に運動の方針をたてることができました。馬の様子を見ながら、普段の練習と同じように手の内に入れつつ、一つ一つ確かめながら運動を進めました。その運動も速歩までとし、出場する下級生にも速歩でスタートするよう求めました。準備馬場で飛越したのはわずかに2・3回で、小障ということもありました。彼女には十分だったと思います。競馬場の走路が準備馬場であったにもかかわらず普段と同じくらいライトが落ち着いていたのに

固くし首を突っ張ねるように投げ出して手綱を取ることさえできぬ有様で、無闇に走りまわるばかりでした。そんな中でライトとの折り合いを見つけるきっかけになったのが、その頃北姫が丹念にやっていた横歩運動であり、常歩の停止・後退・発進の繰り返しによる沈静でした。ライトのように悍の強い馬ではちょっとした騎手のバランスの崩れや、乱暴な扶助で、容易に興奮させることができず。だからこそ確実に沈静させ、手の内に入れるということが必要だと思われました。横歩の運動により、次第に人の方は馬の口にさわるということができるようになり、馬も素直に、軽い扶助で動くようになり、また常歩の停止・後退・発進ではたえず馬の動きや姿勢をチェックしながら、馬が納得しながら運動するよう努めました。また常歩の運動で十分なコンタクトが取れば、緩徐な速歩に移り、丁寧に口にさわりながら、できる限りゆったりとした速歩で蛇乗りを繰り返しました。そのうち一様な歩度でキャバレティ・低障害も通過できるようになり、二年生を乗せても伸び伸びと運動出来ることさえありました。感情豊かで賢い彼女に乗っていると、いかに人の気持ちの冷静さ、忍耐力が必要かと痛感させられます。自分のような情緒不安定な人間では、時には強引に無理を強いてしまい、そのようなとき、彼女は毅然と反感を示しました。反面、人も馬もうまくいったときなど、僕の方がむしろライトに気持ちをやわらげられ、心地良く、うれしくされてしまい、そういう日は一日気分がうきうきしていました。そんなところに彼女の大きさを感ずることもありました。結局、駈歩運動にまで彼女と折り合いをもつことはできず、落ち着かせることができませんでした。彼女に対して十分な配慮・心づかい・騎手のバランスと精神的な安定、それに調教の継続さえできていれば不可能ではなかったような気がして、自分の

は少し意外な気持ちすらしました。少々きこちない下級生を乗せても精一杯経路をまわる彼女を見て、なんともいえない気持ちが湧いたものでした。

一方日高ケンタッキーファームでの公認大会では、馬を落ち着けられず、というよりも自分自身を冷静にコントロールすることができず、彼女を苦しい目にあわせてしまいました。準備運動をする自分の気持ちにもっとゆとりがあれば、いくらかは彼女をカバーしてやれることだったと思います。

☆

☆

☆

結局彼女自身から教えられることは山ほどありましたが、僕が彼女に与えたものとなると苦痛しかなかったような気がします。ただ彼女の動き、歩様、発散させる雰囲気や表情というものを見てみると、彼女こそ人との協同作業というものを必要とし、またそれに答えてくれる馬だという気がします。彼女の多感さ故に、彼女が教えてくれることは豊かで、明確です。自分のような未熟な者がこういふことを言うのもおこがましいですが、部員はもっと大事に彼女に跨がって、彼女にもっと教えてもらってほしいと思うのです。

スターライトの足、非常に悪い状態。数日前からぞうせいした骨が骨折していた模様。足冷しを始める。年令が年令だけに、これからの騎乗は彼女の足を削って乗る事になる。一日も早く楽にしてあげたい。否、あげるべきだ。筆者は今までライトにずいぶん乗せてもらった。彼女の教えてくれる事を全部受けとめられたとは言えないのと、私の騎乗が彼女の負担になった事、本当にすまないと思う。ライト御免、本当に御免。

11月22日当番日誌より

ドンホッパー号



騙 中半血 黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇払郡早来町産
父 オーシャ(サラ)
母 ハゴロモ(トロ)
体重 五四〇Kg

去年の全日学、全日本ともに出場し、全日学ではすばらしい成績をおさめてくれました。増田兄を背に乗せて走っているドンは、馬房にいる時のアホ面とはみちがえる程美しく、体全体に力が満ち溢れています。スムーズに流れる脚、たなびくたてがみ、すんだ瞳、輝く毛並み、ほんとうにすばらしい馬です。今年も大活躍して北大馬術部の名を全国に轟かしてくれるであろう我が部の大黒柱です。

ドンホッパー号 調教報告

増 田 美希夫

昭和五十一年の十一月の下旬から本格的に一人で調教を始める事になった。それまでは、あまりこの馬に乗った事はなく殆んど何も知らないで調教(?)を始める事になったのである。ドンに乗っていた中晶兄や高橋兄も最初は重く感じられたと言われていたが僕も同じで最初はなかなか前に出す事ができなかった。しかし、障害などをやり始めるとなかなか前進氣勢があり楽であった。要はいかに馬の動きを邪魔しないで馬の前進氣勢を利用して障害を飛ばせるかという事である。一年間乗ってみてそれを痛感する。その為には馬の気持ちを損ねたらいけないがそれは馬に勝手をさせるといふ事ではない。

最初この馬に乗り始めた頃は馬の方が自分よりもいろいろな事を知っていた為に馬に教えてもらうつもりで乗り始めた。停止・発進後退や回転等は非常にスムーズな感じでできたが若干左手前よりも右手前の方が硬かった。また右手前の巻乗りの時には顔だけ右に傾けて曲がるくせがありそれは左手綱を少し強めに受ける事で解決した。また回転の時には必ず内方姿勢を取らずに心がけた。輪乗りの開閉等も常歩・速歩・駆歩を問わずなかなかスムーズに運動できた。それを利用して主に駆歩で行なったがパルクールや経路走行を考えての半巻きと直線運動の組合せ。詳しく説明すれば駆歩で直線運動をして(二〇m位)右へ半巻きしてまた直線行進そしてまた半巻きというように回転でつめて直線で伸ばすというものである。最

初は回転半径は大きくとりだんだん小さくして程度を上げていく。

結局四m位の回転でできるようになった。それから直線の間に高さ八〇cmの低障害を入れて同様に練習する。この運動によって駆歩の伸縮と回転のスムーズな点が向上していったが実際の試合を見てもみるとパルクールでは確かに回転は小さくまわっているのだからその分の脚が使われていないが為に落下したり、タイムで遅かったりして勝てなかった。この事は来年の課題である。また常歩においては後肢旋回等も良くやり左右の柔軟性を増すようにした。外乗等も割と良く行ってやった。たまには大通り、スキノあたりまで行って見物にいった。

だいたい練習はこの位の事位でシーズン中は週に二・三回やや高めの障害を経路走行を考えて飛越した位である。特に欠点というのは学生レベルで考えたならばないと思う。前にも書いたが要はいかにドンの持っている力を引き出す事にかかっている。

それでは試合を一つずつたどって書いてみるが大きく分けて今までの走行で一番いいなと思ったのが全日学の一走行・二走行・パルー・ジュであり、公認大会の中障・大障もそれに近い様にできたと思う。反対に一番できが悪かったのが全日本の標準中障害・パルクールである。何故二つの試合の期間があまり離れてもなく同じ馬事公苑でやったのにこのような結果になったのかという事は後で書くことにする。

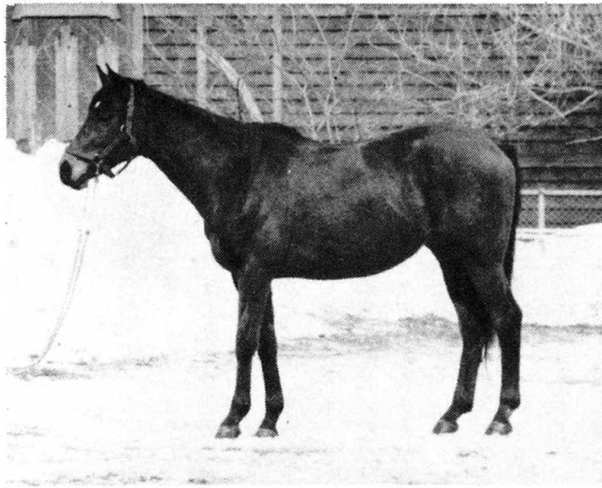
半沢杯は中障と複合にエントリーした。複合の馬場は一年間の中で一番良かった。地元という点で馬が落ち着いていて扶助に良く従って来て割と無難にこなした結果である。まだまだアピユイエや輪乗り三彎曲等はインチキくさい。アピユイエは反対姿勢であるし三彎曲はきれいなへび乗りの図形が描かれていなく角ばってしまう

のである。来年はこの辺を直していきたい。中障害の方は初めてであったのでとにかく小細工は考えないで前に出す事のみを考えた。結果は水壕の一着水であった。道自馬の試合全体に言える事はやっぱり脚が使えずつまりぎみに飛越していた事である。だが最終障害の一四〇mは初めてでありこれを飛越した事によって自信をつける事ができた。この頃から馬体に異常が出始めた。まず右後肢がブルグモーネになり東日本馬術大会の出場を諦めた。それが一週間位で治ると左前肢の蹄の内側にヒビが入り裂蹄になった。これは現在調教報告を書いている時点でも治っていなくて完治にはあと半年位かかるであろう。その為に北日本学生馬術大会の総合には出場する事ができなくなった。全く情けない事である。馬体管理者として失格である。その北日学の中障害二回走行は二落・二落の四落下で四位であった。内容は一走・二走両方ともに水壕で着水している。道自馬でも着水していた。この水壕には悩まされた。前年度の高橋兄の失敗をまた繰り返してしまったのである。結局、道体でも着水してしまい、全日学でも危ぶまれたが全日学ではうまく飛越してくれた。要するに人間の方で水壕のみを特に意識してしまいそれが馬に通じてかえって馬の方で躊躇してしまい着水してしまうのであった。八月に行なわれた北海道体育大会でも今までの試合と同じで馬と人間が合わなかった。やっと馬との折り合いがつき始めてきたのが十月に行なわれた公認大会であった。この試合の十日ばかり前に左前肢が腱炎になり常歩運動のみで試合に臨んだ。第一試合のバクルールでは回転を小さくする分、脚をさらに使うという事がいまだできずに一落下であった。第二試合の標準中障害と大障害でやっと自分なりに良いなと思われる走行をする事ができた。この時にやっと障害上で拳を譲るという事の重要性を理解する事ができた。今までの試

合ではこの拳の譲りがない故に後肢で障害を落下してしまうのであった。この感覚を来年も生かすように乗っていけば勝てるはずである。この次に行なわれた全日本学生では公認大会の感じで騎乗する事ができたと思う。しかし、後でビデオで見るとパラージュの時、手綱がやや長くて誘導しにくそうに見える。詳しくは全日本学生大会の試合報告に書いたので省略するがこの後に引き続き馬事公苑で行なわれた全日本大会では騎手の方に大きな油断が生じていたのではないかと思う。全日学であの位にできたのであるから全日本大会でも平気だという心のスキがあったと試合が終わって感じた。一年間、クラブの中で一番たくさんの試合に出させてもらったがいい試合というのは数少なかったように思う。来シーズンこそはコンスタントに良い試合をしたいと思う。

☆今日、ドンが馬場で自分の水かんのの上を駆歩で飛越した。
☆DONが馬房でねころび起きれなくなる。あんまり馬房のわら取
るな。(実は多すぎるせいです)

|| 9月7日・1月30日当番日誌より ||



驢 サラ 鹿毛
昭和47年4月6日生
静内郡静内町産
父 ミンシオ
母 ジュラルディン
体重 五五〇Kg

クラブ一、カオも性格もかわいい馬です。「キウ」と呼ぶと、ハナの穴をめいっばい丸くして、「ブブブ」とこたえてくれます。

Qはえん麦が好きです。えん麦のはいたポケットに手をいれるだけで、芸の限りをつくしてくれます。Qは青草が好きです。ひき馬にいくと、草の中にカオをうずめたまま、日が暮れても動こうとしません。Qは乾草も好きです。どんごろすの下から、隣のギャラン君の乾草をねらっては、「ぶ！」と怒られ、フレイメンをしてごまかしています。

でも、食べてるだけじゃないんですよ。馬房の中で、今度は斉藤兄と、あこがれの甲子園、芝馬場を踏む計画を練っているんです。がんばってね、Qノ……………「ブブブ」

北楽院号調教報告

井 上 京

二年生の冬以来、北楽院のチーフとして約二年間、彼に乗り続けることが出来ました。紙面をお借りして、僕をQのチーフとしてくれた北畑さんをはじめとする上級生の方々、御指導下さった諸先輩方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

一昨年前の秋、ちょうど北大駅伝が行われるその日に、Qが生死の境をさまよったことは去年の部報に書きました。また僕がQのチーフとなる前には骨折のために一年間のブランクがあったことも松岡先輩の調教報告に記されています。今年こそと思っていたのに、このような結果にしまいました。僕自身を腹立たしく思うし、十一才になったQを見ていて、温厚な表情や人なつこい性格に変わりはありませんが、毛並みにはつやがなく、動きにも精彩さが欠け、もっと生き生きした馬らしい表情や動きが彼に蘇ってほしいと感じるので。ここに、去年のQの試合経過、変化の過程、その原因と思われること等を報告いたします。

(試合)

半沢杯中障二位、自馬大会中障三位、酪農戦中障B一位、これが

夏前までのQの成績である。自馬大会では初めてピュイサンスにも出場した。三落には終ったが、初めて飛ぶ一三〇の障害の連続に、Qは迷うことなく向っていたし、僕もQを疑わずただ精一杯随伴していた。とにかく不安なく経路を回れるようにしたい、ドンに続く馬とまでは言わぬが、確実に帰ってこれる馬になってほしい、それがその頃の僕の気持ちであったし、Qもまた要求に答えてくれていた。以前は落下が多かったのに、その頃は落下さえほとんどしなかった。障害に十分注意を払いながら飛越するという感じではないけれど、伸び伸びと飛んでいたように感じられ、前年に比べ飛越に楽に随伴できたと思う。

試合での感じがそんなのだったから、気持ちのどこかに「Qなら大丈夫」、「Qなら飛べる」というような油断、人間の勝手な甘えが出来てしまった。それまで僕自身北大の馬で失権したこともなかったし、反抗らしい反抗にあつたこともなかった。自馬大会の中障の水壕でQが一度止まりかけて歩いて渡ったこと、その後のトラケーンで一瞬ちゅうちよしたことをもって脳裏に焼きつけておくべきだった。そういうことに気を配れる程Qに対しすでに慎重でなかったということだし、またそういうことがQの気持ちの奥底に潜んでいたものの一端であったとは思いつかなかつた。

夏のシーズン前、北星の馬場で馴致を兼ねた経路走行をやつた。かなり程度の高い経路で、おまけに準備運動を十分やらなかった。経路を回り始めればその気になってくるだろうぐらいのいかいかぶつた気持ちになつたとは言えない。馬場に入場し、駆歩にする。と、いきなりひっかけられた。スタートに向けるのが精一杯で、そのまま障害をガクッとつまりながら飛ぶ。ばっこんと飛ぶ。そして乾壕。拒止、逃避。三反抗失権であつた。

ついで十和田での北日学。北星の経路走行のことは頭の片すみにひっかかってはいたが、まだそれほど重大な問題だとは思わずに、漠然と、何とかなるだろう位にしか考えていなかった。二回走行の準備運動では少々かかり気味であつたが、馬の障害へ向っていく気持ちに迷いはなかつたと思う。むしろ人の体の方に力が入っていた。出番になって競技馬場に入ると馬が変わつたように緊張し、走りだすと馬が勝手に走っている状態であつた。人はすでに冷静を失い、手の内に入れられないままスタートしてしまう。一番、二番をおどおどしながら飛んでいく。ああ北星のときと同じだ、という気持ちが警報のように胸の中で鳴っている。四番、気になっていた幅の狭いトラケーン。はたして、Qは拒止。一発、二発力まかせに鞭を使つてしまふ。恐れおののきながら二回目拒止三回目拒止。二日目、

一日目以上にQはますます恐怖をつのらせ、馬の気持ちは人と掛け離れていた。四番トラケーン、Qははっきりと前日そこで懲戒されたことを憶えていた。一度目逃避した後、何もせず待った。もう恐れきつているのだ、懲戒は一回目はやめておこう。二回反抗したらそのときはしょうがない、なんとしても飛ばさなければ……。結局Qはこの障害で七回反抗を繰り返した末、一度も飛越することがなかった。馬場を退場するとき、片方の胸の内ではもういい、もういいという気持ちを、片方では底知れぬ隔絶感を感じていた。

総合。不思議なことに馬場では参加馬のほぼ中位であつた。ステイブルのA区間では信じられないような大きな速歩をした。D区間の一番、草地の中にポツンと置かれた乾草の障害をちゅうちよなく飛んでいった。草地を突っ走り、林に入って二番障害を反抗、四番谷底のぬかるんだ障害で、馬はもう恐れを越えてやる気をなくしていた。

インターハイ。高校生が騎乗して、馬場を二つに仕切っている罫を飛び越えた場外失権が一度あった。四回出場し、その一回を除いてゴールはしたが、恐怖感はやっほど強かったに違いない。

道体。Qはもうはっきりと拒絶していた。競技では一つの障害も飛ばず、スタート直後の一番の障害すら反抗する有様だった。人も気後れしてしまって馬を前に出せなくなっていた。その上準備馬場でさえ反抗させていた。

公認。一日目中障B。一番三拒止失権。二日目小障。まず前に出していくようにした。まわりの人に馬が出ていないといわれ、自分ではわからなかったけれど、もう自分の感覚もあてにできそうにもなく、それより人が見て感じてははっきり言ってくれることのほうが確かだと思った。一度二度ちゅうちょし、反抗もあったが、とにかくゴールすることができた。内国産馬。小障の時よりも露骨に出口に帰りがたがり、十番障害までなんとか来ながら、次の障害に向かいきれず（手綱が伸びてしまっていた）に失権してしまう。後であれはゴールできたと言われ、自分の体がQ以上に緊張し固くなっていることを思い知らされた。

全日学。（北大は障害競技にドンと北耀二頭の権利を持っていたが、北耀の調教上及び馬体面の問題のため、予備馬であった北姫と北楽院のうちQが出場することになった。）準備運動では何の不安も僕は感じなかった。そのときのQの気持ちもかなり運動に集中していたと思う。出番になり馬場で常歩で入場した。箱番が長びいてQは走りまわる人を見ておじけづく。膠着する。ベルが鳴っても前に進まない。がんとして前に行こうとしない。あせる。頭に血が昇る。それまでとりつくろっていた平靜などいっぺんに消えてしまう。やっと走り出す。今もはっきり憶えているが、右の拍車は入れば

なしだった。一番を突っ走ったまま飛越しそのまま帰ろうとする。二番止まるかと思う程つまりながら通過。三番石がき拒止。三反失権。

（原因）

試合を度重ねるにしたがって、Qの恐怖の対象が、一つの障害から経路走行そのもの、競技場の雰囲気そのものになってきている。なぜそうなっていたのか、そしてこれからどうやって立ち直らせればよいのだろうか、そんなことを考えるためにももう少し詳しく原因を考えて見る必要があると思う。

① 馴致

酪農大学の馬場で行われた自馬大会の中障の水濼で、Qはほとんど止まりかかった。前年の北日学スティールの川渡りでも川中央の障害に一時立ち往生している。そして北星の馬場の乾濼での拒止。北日学トラケーネン。Qが崩れていった原因の最初に「濼」に對するこだわり、恐怖心があったことは間違いない。北大にある濼（野外も含めて）はなんなく飛んでいたことからすると、馴致の不足・不十分というのが一つの大きな問題であった。馴致に関して完成はない。

② 手の内にあるということ、または、ハミをかむということ。

普段の練習においても、馬がハミをかんだ状態で騎乗してはいなかったのではないだろうか。かませていたつもりが、馬は馬なりに走っていたのではないだろうか。いわんや競技においてをや、である。たまたま夏前までは馬が障害に向ってってくれたから、ゴールはできた。馬が馬なりに障害を飛んでいた。人が馬を支配して飛越さ

せるという意味ではないが、障害へのアプローチも飛越後の沈静も出来ないために、馬はますます不安をつのらせる。結局その不安をどうしてやることも出来ずに競技場へ入り、馬の気持ちは孤立していく。毎日の練習から馬と人の間にコンタクト（触れ合い）がなかったのである。競技場でできるはずもなかるう。

四月からスターライトに騎乗して、ライトとの間でいくらかコンタクトが取れるようになって、Qの運動、ハミうけが、ものすごくしらしらしいと言うか、物理的な接触にすぎないような気がする日が幾度かあった。十月頃から小栗先輩に見ていただいているうちに、Qとの間に、やわらかなコンタクト・接触・係わりあいが生まれるようになった。動きが大きく、ふくよかにさえた。こんな関係が、どこへ行っても変わりなく出来るようになってほしい。

③底にあるもの

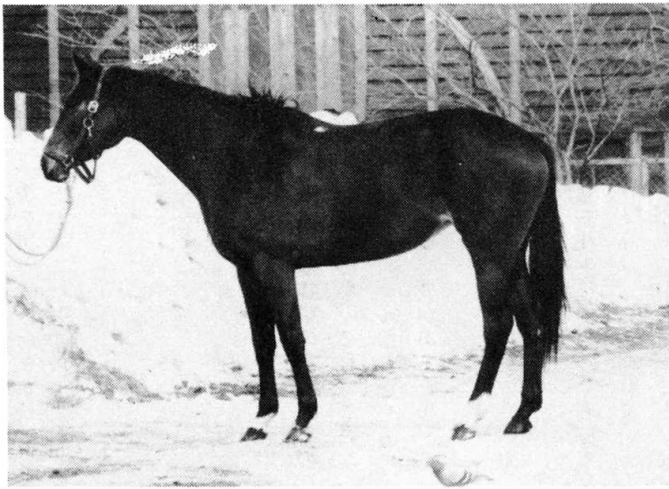
Qがこうなってきたきっかけも、その変化を察知し、決断しすぐ手を打たなかったのも、その元と言えば僕の、馬に対する驕り、甘え、油断以外のなものでもない。バー一本跨ぐにも馬の協力が必要だということ、ひとたび拒絶されれば何でも動かせない程人間など無力なものなのに、あえて馬を無視し横暴に振舞ったことに対するしっぺ返しだった。なぜ丹念な馴致を繰り返さなかったのか、なぜ良くなる見通しさえつかないのに競技に出場し続けたのか……。

(これから)

二年間Qに乗ってきたながら、結局調教報告らしいものは何も書けないでいる。いったい何をして来たのかと尋ねられても答に窮するだけだ。調教というものに思想とか信念とかいうものがあるのかな

いのか、もしあるとすればそれはどういうものなのか、もっと早く明らかにし、実行する技術を身につけ、裏付けある一つの態度を取るべきであった。行き当たりばったりの練習でなく、一つの方針に沿った乗り方を臨機応変にできるようにすることだ。昨年の秋以来、Qが見せ始めた変化を、三年目の斉藤にうまく発展させてもらいたいし、Qのような不幸な馬が二度と馬術部に生まれないよう願って止みません。

北 姫 号



牝 サラ 鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父 アステック
母 ヤマニンザザ
体重 四九八Kg

秋頃三角地のひつつき虫がたてがみにつき馬術もかけられない状態なのでたてがみをバツサリ切ってしまったミヨ子も、モヒカンミヨと言われつつ新たな大人の魅力をふりまいていました。

今では、たてがみもだいぶ伸びてきまして、あのちぢれっ毛がかわいいです。

チャカチャカうるさいと煙たがられますが、噛んだり蹴ったりしませんし、とても人なつこく、人が来ると呼ばれなくてもとんで来ます。そして、決してめげません。

今までのミヨ子のチーフの人達はみんなやせていた人だったので今年は何んとあの町田兄。しかし、重い背中もなんのその、ミヨ子は今日も元気に馬場を駆けまわっています。

北姫号調教報告

今 由美子

北姫に私が乗りはじめたのは、一昨年十月一日からでした。彼女は左前肢ひざの骨折又は骨膜炎のため長期馬休のあとでした。馬休明けで張っているためか、ずいぶんチャカチャカするなあと思っていました。まあ運動して行けば落ち着くだろう程度に考えていました。しかし、地上横木を駈歩にて飛越した瞬間、これはよほどかくごをしなければと思ったのでした。乗りはじめて一カ月程後には駈歩運動が出来る程足はよくなりましたが、調教の方は全く進まずといった感じでした。さわるかさわらないか程のハミ受けて運動課目をこなしていったるうちはいいのですが、少しでも強い接触を求めると、たちまち舌を出し始め次は首を振り始めます。又30cm

のビール箱でさえ突進し飛越するのです。とにかく北姫を手の内に入れるためには、まずガクをゆるずることを教えなくてはいけないと思い、強く馬の口と接触しながら、野蠻ですが逆鞭で無理矢理頭を下げさせガクをゆるずらせようと思いました。最初の二週間は彼女もしかたなく従っていたようですが、しだいに首を振ったりして反抗を示すようになり、しまいには停止さえ出来なくなっていました。これは、完全に失敗です。しかし、このことにより、彼女を力でどうしようとするのは絶対に無理であることを認識しました。では、次はどうしたらいいのかというのが問題です。北姫の場合、キャバレッティを通過する時のみ頭を下げるので、輪乗りの円周上にキャバレッティをぐるりと置いてみました。一カ月近くはこのキャバレッティ輪乗りをグルグル回っていたのですが、この練習で馬はハミと接触することに相当慣れて来たように思います。又人間の方も、騎座及び脚をきたえるのに、ずいぶん役立ちました。

このキャバレッティを基礎とした運動を行ってはじめて、もしかしらこの馬の調教が出来るかもしれないと感じました。しかし、この方法は自然馬術としては正道だと思えたのですが、試合のレベルまで馬を持っていくにはあまりに時間がかかり過ぎると思いました。北姫はもう新馬ではなく、そして現在のクラブの状態を考えた場合、いかにして春からの試合に使えるように調教を進めていくかが重要な課題となって来ます。このことであれこれ悩んでいる時、小栗先輩より、斜横歩を利用してガクを折らせる方法を教えていただきました。最初は彼女もビックリしたらしくものすごく抵抗したりして、よくなったり悪くなったりのくり返しでしたが、二週間もすると、拳のねん転に従って、ガクを折るようになって来ました。これと平行して輪乗りでの単一障碍等をはじめ、飛越後拳をねん転し

ガクを折らせることにより、一m程の障碍も興奮せず落ち着いて飛越させられるようになって来た。さらに、体を起こして内方に体重をかけ、内方脚で斜前方に軽く圧迫するという駆歩発進の扶助の確立に努めた。完全に出来るまでに数カ月要しましたが、苦手としていた右駆歩も確実に出せるようになり、さらに下級生でも正しい扶助さえ教えれば、きちんと駆歩発進が出来るようになりました。

逆鞭と拳のねん転によってなんとかがクを折らせたままの運動が出来るようになった三月、馬場の状態もよくなったので、本格的に連続障碍の調教をはじめた。最初は、二七m程のうさぎ飛びである。やり始めた頃は障碍に突っ込んでいたが、障碍中は次々と飛越しななくてはならず興奮している余裕がないらしく、毎日続けていくうちにうさぎ飛びさえやれば落ち着くという具合になって来ました。又、障碍の高さの判断もかなり確実になって来て、飛越する必要のない高さの障碍はまたぐようになりました。これは、乗り始めの北姫には、考えられないことでした。連続障碍が安定して来たので、単一障碍の馴致も進めたがなかなか順調にはいかず飛越前後に走られる場面も多々あったが、興奮したら連続障碍を飛越させて落ち着かせ又単一障碍に向かうという練習を続けていくうちにかなり改善されて来たように思います。四月に入り馬場の状態もよくなり、連続の駆歩飛越を中心に練習を行い、最高一m四十cmまで飛越して来ました。絶好調だと思っていた矢先放牧地でケガをさせてしまい、三週間の馬休。この間北姫に乗せてもらい、北姫にだけ乗っていたのは分からなかったことを多く知ることが出来ました。一番気がついたのは飛越中に首を十分使用しないということです。このことはその後もずっと頭の中にあっただけですが、それ以前の問題が多くあり過ぎ、多く飛越し、ジャマをしなければ馬が必要と感じれば使うよう

になるだろうと割り切っていました。三週間の馬休後騎乗してみても調教がかなり後退しているように思えました。障碍というより、試合のムードに恐怖感をいだかなければ、彼女の天性の気性、反射神経、パネをもってすれば大障碍も夢ではない馬です。北姫にとって大切なのは、とにかく慣れることです。したがって、ケガ・病気等によって乗れなくなることを最も怖れました。そして、その後、ケガ等で馬休になった日は一日もなく、調教の良し悪しは別にして、乗れない焦りを感じないですんだことは幸運だったと思います。

そして、あと一週間あれば経路走行に間に合うのではないかと同時に自馬大があり、複合と婦人に出場しました。複合の馬場は、準備馬場は興奮して全くダメだったが、馬場に入った途端、馬が落ち着き、駆歩運動も出来、自分ではまあまああの経路だったと思います。しかし、舌を出していること、騎手のヘタなこともあり、点は全く取れなかった。舌を出さないようにするのはおそらく無理であり、今後、総合に出場することは、考えた方がよいと思うようになりました。障碍は、準備運動は駆歩で最初かなりひっかけられていたがやっていると、駆歩でガクを折って走るようになり、障碍も何度か飛越し、これならと思いつ、そのまま入場しました。スタートを切って2番を飛越した時によれるような感じで、変だなあと感じていたうちに、3番を切られてしまいました。それまで北姫が障碍をいやがる等思いもよらず、自分の認識の甘さに「ハッ」としました。その後は、とにかく真直ぐ向けて拍車を入れるのみでトラケーンまで無過失でいったが、トラケーンで、一反抗、その後のレンガに真直ぐ向けられず失権してしまいました。次の婦人は人も馬もなれて来たせいか落ち着いて経路が回れ、満点でゴールしました。この試合で、北姫はもう以前の北姫とは違うこと、しかし、真直ぐ向けさ

えすれば、必ず飛越することを認識しました。自馬大が終り、酪農大定期戦までの一週間、一つの障碍を落ち着いて通過出来たら次は二つの障碍を落ち着いて、そしてそれが出来たら三つという風に順番に障碍数を増やして行き、最終的に十数個の障碍を落ち着いて飛越出来るように練習を進め、この一週間で高さ百十cm、十数個の障碍を通過出来るようになり、定期戦にのぞみました。この試合は、準備運動の時間が十分しかなかったので、道路で並足しか出来ない場合でも、停止発進をくり返し、出来るだけ手の内からはずれることのないように努めました。この試合は、向けそこなったパンケット一反抗だけで、ゴールを切れました。しかし、自馬大での不安感より、必要のない所で拍車を入れる等、彼女にとっては大変迷惑だったろうと思います。しかし、この頃は経路走行中の馬の心理状態を考える余裕などなかったのです。定期戦後、北日学まで2カ月弱、どのようにしたら中障まで持っていけるのかを考えた所、やはり今までやって来たことを確立するしかないと思い、実行しました。つまり、ハミをひかえたら素直に従うようにすること、障碍特に連続して障碍を飛越することに慣れさせること、濼を馴致すること、外でおちついていること、これらがすべてでした。小さい障碍なら五十以上、百二十cm程の障碍なら十数個は毎日飛越していました。他馬はわからないけれど、北姫の場合は多く飛越すればするほど落ち着いて来ましたし、踏み切りが確実になって来ました。又、彼女は若く元気でこの練習に耐える体力は充分だったし、足の故障もほとんどありませんでした。ただ、馬場内の障碍を飛越する数だけ濼を飛越するべきであったと、試合近くなつて後悔しました。どうしても濼というものを特別視してしまい、単なる障碍の一つとして数多く飛越していたらと思います。又障碍の馴致と並行して、平場

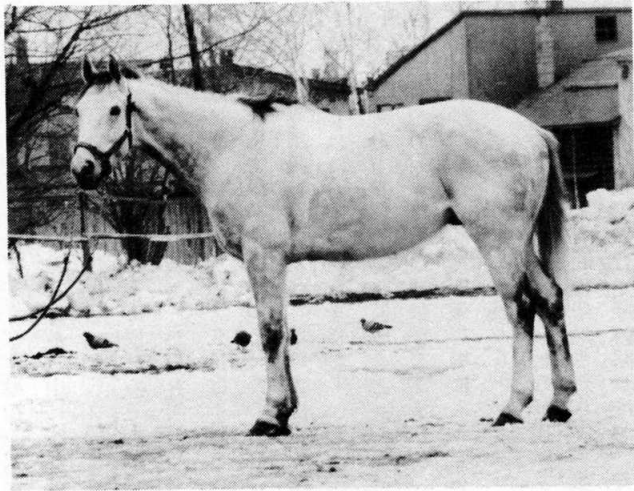
でハミへの従順性を求めるための運動も進め、伸長速歩はもちろん、七月後半には輪乗りでの反対駆歩も出来るようになっていました。この運動は口を柔らかくするのに、非常によい運動であるように思えました。北日学まであと一週間という時、他馬に乗っていて人馬転をやらかし私はアゴを骨折し、北日学は夢と消えてしまいました。四年間の馬術部生活で最も出場しなかった試合に出られず、眠れない夜も何度かありましたが、折れたアゴは簡単にはもどってはいけませんでした。私は出られず、乗る人間がいなかったために、中障は乗権、総合には井上主将に乗ってもらい出場しました。どういう走行であったのかよくわかりませんが、帰札して乗った感じでは、北姫にとっての総合は相当きつい要求だったように思えました。でも、ゴールを切ってくれて、心底ホッとしました。十和田から帰って来てインターハイに使われ、その後から本格的に乗りはじめましたが、ひっかける訳でもなくだいたい落ち着いて障碍を飛越しているものの、北日学前とどこことなく違う感じで、変だ変だと思ううちに、岩見沢親善がやって来ました。この試合は二年生を小障に出す予定でしたが出られなくなり、私がかわって出場しました。厩舎近くの馬場では落ち着いて運動していたのですが、競馬場の走路に入るなり極度の興奮状態になり、ひたすら走りまくりまともな運動が出来ませんでした。しかし馬場に入ってから若干落ち着き、濼で反抗さされたもののゴールを切ることが出来ました。そして、その後中障Bがあり、この時はもう走路の方へは行かず馬場の横で駆歩までの運動をやったわけですが、前回とはまるで違い、全く落ちついていました。経路走行の方も、二反でしたが障碍については、全く不安を感じることはありませんでした。やはり、北姫にとっても私にとっても、慣れが大切だと感じました。この後、私が乗っている間にい

ける所まで馬を持っていこうと思ひ、公認大会で中障礙にエントリーしました。しかし、なんとか中障レベルまで馬を持って行こうとしたため練習中の要求、特に障礙の大ききの要求が強くなり、彼女と私の間に若干のズレが生じて来たように思ひます。これが顕著にあらわれたのが、公認大会でした。最初は中障Bでしたが、この時は興奮しっぱなしで全く準備運動にならず、しまいには入場もしたからなくなるという有様でした。したがって結果は目に見えており、第一障礙で二反抗、その後障礙を飛んだものの、最終障礙の一つ手前ですとう失権してしまいました。北姫にとって準備運動が必要なのは障礙を飛ぶことではなく少しでも落ち着かせることだということとは充分わかっていたはずなのに、また同じ失敗をくり返してしまいました。次の日は絶対同じ失敗をくり返さないようにしようと思ひ、キャバレッティを通過することよりはじめました。徐々に運動を進め、連続障礙もおちついて飛越出来るようになり、中障に出るころには駈歩でのオクサー通過も可能になっていました。しかし小障ではゴールを切ったものの、昨日の失敗が尾を引いて、中障では、中障Bと同じ所で失権してしまいました。この試合で、北姫が飛越しようと思ひした瞬間、又逃避しようとする瞬間を感じ取ることが出来るようになりました。しかしもう試合は残っていませんでした。この後北大に帰って一カ月間、北日学以前に立ち帰り少はずつ障礙馴致を進め、一カ月後の百二十cm程度の最後の経路回りでやっと思ひ通りの経路走行が出来、やっと思ひの中で結末をつけることが出来たように思ひます。北姫に乗り始めて、一年と一カ月が過ぎていました。北姫は素直な馬、正直な馬で、人間の乗り方の好し悪しははっきりとおもてに表われる馬でした。その点毎日自分のやっと思ひが採点されているようなもので、毎日苦しいのですが、

試合で突然裏切られるということがない分、精神的に楽でした。一週間単位、又は一カ月単位、さらには一試合単位でよくなったり悪くなったりしながらも、少しずつ良くなって来たと思ひています。北姫は、乗る回数を重ねるたびに、その素質のすばらしさを教えてくれました。この様なすばらしい馬に乗れたことに、心より感謝しています。又、数々の助言を下された岡田監督、小栗先輩、その他OB諸兄、また練習中、連続障礙の間隔をけんめいに測定してくれた下級生に心よりお礼を申し上げます。協力して下さいました。そして、人々がいなければ、今の北姫も私もありえませんでした。そして、馬というものの魅力を充分教えてくれたミヨコに心からの感謝と、今後の活躍を期待し、調教報告を終らせていただきます。

今日、馬場でミヨコがかまぼこを飛んだのは、おどろいた。

|| 三月十七日当番日誌より ||



騙 サラ 芦毛
昭和49年2月14日生
浦河郡浦河町産
父 フォルティノ
母 マツノミドリ
体重 五四七kg

北将号調教報告

石井洋行

一昨年の九月末より北将に乗ることになったのですが、この一年彼の能力を引き出してやることはもちろん、その年の成長、活躍を維持することもできなく、自分の技術の未熟さをくやしいと思うと共に、北将に對しすまない気持ちでいっぱいです。

彼に乗ってまず感じたことは、頭を高く上げ、ハミを噛まないということができた。また普段の練習では、とても落ち着いて運動できてきて手の内から出てしまうという状態でした。十月初めの経路回りでも、最初の二、三個は、いい感じで飛んだのですが、騎手の騎座の不安定から飛越時などに、不用意な拍車が入ってしまったりしてひっかかり、真直に向ければ飛ぶ馬なのですが、人のミスから一逃避されてしまいました。以上の事から、まずハミを噛ませなければ何も出来ないと思ひ、以後、冬の間は速歩を中心にハミを噛ませることだけを考へて乗りました。十二月にもなると速歩においては、だいぶ安定してハミを噛むようになってきたのですが、今から思えば、興奮して走られるのを恐れ、また下が堅かったこともあってか無意識のうちに、駆歩運動や外での運動が少なくなり、小じんまりとした運動にとどまってしまうのだと思ひます。二月に入つて、もっと北将との折り合いをつけようと思ひ、三月中頃までの一ヶ月間、西川兄などにみていただきながら調馬索をやつたり、曳き馬もつとめて速くへ行くように心がけましたが、雪もとけはじめた三月

がっしりとした馬格、強靱な体力、力強い飛越、きれいな歩様、等々の数々の魅力に加えなにより熱心なチーフにめぐまれて、今年明け8才のシュパールこと北将号。

時折見せる昔のおもかげも（前にかみ後に蹴り）隣りのモヒカン擬の兄におかぶはうばわれて、静まりかえっている様だ。

昨年は北日本で二課目二位と幅広い可能性の片鱗をみせている。今年こそ石井兄と共に馬事公苑を駆けぬける事を祈って……。

二十日の経路回りでは、久しぶりに馬場内にたくさんの障碍がおかれたためか、それとも人間の緊張が馬に伝わったためか、準備運動の段階で、興奮きみで、障碍に向けるとつっぱいられた。経路回りでは、おさえようという気持ち先立って、なんとか無過失で、ゴールは切ったものの、騎手が手綱にぶらさがったかたちになってしまった。これでは十月に行なった経路回りとも何もかわっておらず、この冬の間、自分は何をやってきたのかという反省をしいられた経路回りでした。こうしてシーズン最初の試合である半沢杯をむかえるのですが、一週間ほど前に放牧中に左前肢管に刺し傷をつくってしまった。試合前日まで馬休となっていました。そのため半沢杯は二課目にだけ出場することにしたのですが、準備運動から興奮しきって、まったく馬場に入ってから何一つ、まともに出来ませんでした。続く北海道自馬馬術大会には小障と複合に出ました。自分にとってこの馬での最初の障碍の試合であり、外での試合となったので、かなり緊張しましたが、馬の方は、一週間前に馴致に来ていたためか、それほどありませんでした。一日目の複合の馬場においては、十分な準備運動の時間をとったためか、馬がかなり落ち着いており、思ったような運動ができました。しかし小障において、試合の回転がはやく準備馬場に入ってから二十分しか運動する時間がなく、満点でゴールしたものの、ひっかけられ馬なりの経路走行となりました。二日目の複合の障碍においては、馬はよく飛んでくれたのですが、人間の未熟さからトラケーンで二反抗をとられてしまいました。試合や経路回りにおいて、障碍前で止まられたのは、これが最初でした。その後、乾燥、水壕の馴致不足を感じ、北大の馬場内の乾燥や恵迪裏の乾燥を多く取り入れた練習をはじめたのですが、かえって馬に不安を与えてしまい、人間との折り合い

がつかなくなり、酪農戦における中障Bではドラムオクサーで失権、北星乗馬クラブでの試合においても水壕で失権、北日本学生馬術大会をひかえた七月二十日の総合の余力レベルの経路回りにおいても四番のサイコロバーで三反抗という最悪の状態におちいってしまいました。自分としては、人馬ともに試合経験が少ないので、少しでも試合場の雰囲気になれようと思いついたつもりだったので、おそらく北将にとっては不安の材料を増すだけだったのだと思います。北日学には二課目と総合にエントリーしました。人馬の折り合いがつかないながらも、試合の数がふえるにつれて、場所が変わっても馬はだいたいぶ落ち着いてきており、二課目は思った様で、二位となりましたが、総合はステイプルにおいて、D区間で一番障碍が広い農場にあつたため、かなり遠くから障碍をきらい、左へ一逃避後、なんとか飛んだのですが、二番の閉鎖障碍には入らず失権、つづく北海道自馬馬術大会では、やはりステイプルにおいて、乾燥に前肢をふみ入れてしまい失権の上、怪我をさせてしまいました。その後、二週間馬休、公認大会では小障においても失権という結果に終わってしまいました。

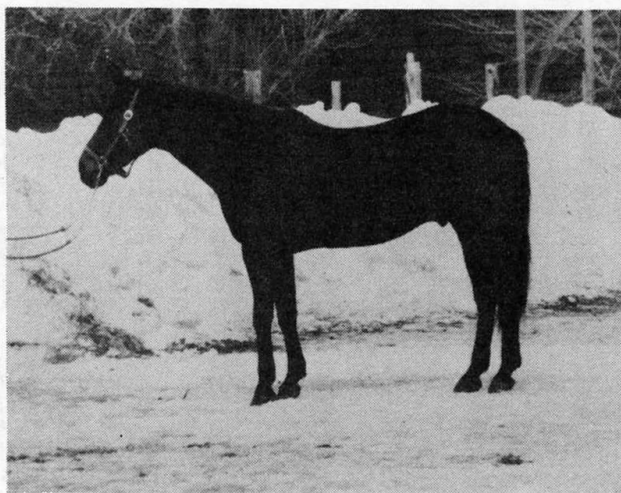
以上のように、この一年、自分の未熟さ、精神的弱さから、調教どころか、北将に対し数々の裏切り行為をしてしまいました。引き続き、北将に乗ることになり、いままでの経験、失敗をいかし、全力をつくすつもりです。

☆涙で目が見えなくて……気がついたらほったにショーチャンがキスしてくれました。うれしいなー。

☆北将、ポプラ並木にて放馬、新婚さんをおそう。将介もかわいいう。彼女がほしい年頃なのだろうか。秘訣を世良兄に聞いてみましょう。

11月3日・3月17日当番日誌より11

北 騷 号



騙 軽半血 黒鹿毛
昭和51年2月23日生
北大馬術部産
父 ドンホッパー
母 羊蹄
体重 五一五Kg

夕方、曳馬にも連れて行ってもらえず、薄暗い中一人ぼっちで放牧地の埒から身を乗り出してじっとこちらを見つめている彼は、とても悲しそうです。時々気が向いたら、ガキさんと遊んであげましよう。嘸まれないよう気をつけながら。

北騷号調教報告

平 田 委 久 子

二年目の九月から北騷号に乗る事になり、一年以上この馬と付き合ってきた。それなのに、これはできるという確かなものを何一つ創ることができませんでした。騎手の技術も、気迫も、謙虚さも不足していた事を深く反省しています。又、北騷に失権馬の汚名を着せてしまった事が何よりつらく、くやしいことです。この一年間の経過は調教報告と呼べるものになりそうもないので、問題点の反省と現在の報告に留める事をお許し下さい。

一言で言うと、馬を出せなかった、本当に推進しようとはしていなかった、というのが最大の問題です。これは一昨年の九月から試合シーズンまで根本的に全く進歩できなかったのです。一頭の馬を任せられた者として、本当に恥ずかしい事です。自分の気持ちだけ空回りして馬の状態を全く把握できなかった事、そのため、馬の緊張を高めてゆく要求ができなかった事が原因の一つでしょう。そして、馴致にしろ、飛越にしろ、回転や発進等にしろ、運動の一つ一つにおいて、馬の気持ちを抑えず、自信も方針も持つことができなませんでした。

具体的には、脚が使えないため拍車や鞭に頼り、尚更推進できな

ガキ坊主は今だにガキで、だだをこねて困ります。曳いて歩けば嘸もうとしたり止まったりで、放牧地では入って来る人に乗りかかり出ようとすると背中に食いつくし、馬房でも牧士をかけようとすると抵抗するしで、ちっともいうことをきいてくれません。

こんな反抗的な彼ですが、人が嫌いであるさをするのではなく、むしろ人なつっこく寂しがり屋なため、遊びたくて人にじゃれつき、しかられてはいじけてしまうのです。

くなる、というのが大きな欠点です。そして推進不足のまま銜にブラ下がっている状態が多かったのです。北騮に乗り始めた秋の頃や、O Bの方に見て載っていた早春の頃、速歩、駆歩で、力強い前進氣勢をもって運動するのを感じたのですが、それを安易にできるものと考えてしまい、自分のものとして吸収し実践していく努力に欠けていました。

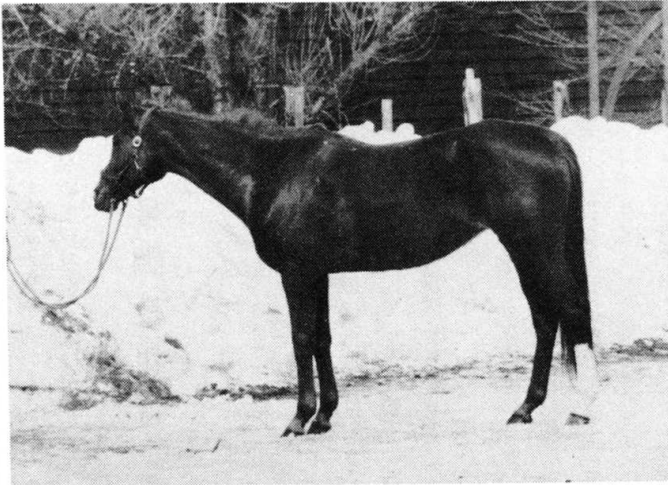
障碍に関しては、一度飛んだバンクで二度目に止まられてしまった事から、障碍に向ける時の状態に不安を持ってしまいました。これでは、馬が止まらない方が不思議だったと思います。

現在は、とにかく脚を使い、馬が首を伸ばし銜に依倚して活発に前進する、という状態を徹底して求めています。その際、ネチネチと拍車が入らないようにすること、いつまでも出せないまま走り続けて、馬がいじけてしまわないようにすることに気をつけています。とは言え、最初は活発な伸び伸びとした動きをさせるのが難しく、大変重く感じられました。それで、外の広々とした場所で運動したり、他馬の後ろについて馬が前へ行こうとするのを利用して、大きな動きをするように、肩を使って力強く運動する時間を作るようにし、できたら充分に愛撫してやることを繰り返してきました。最近ようやく馬場でも前進氣勢のある運動ができるようになってきたようです。脚に対しても少しづつ良く反応するようになってきていると思います。これをより確実なものにしていくと同時に、各種の運動、障碍をとり入れて柔軟性をつけていくことが必要です。が、その時々々の状況を無視して単に運動課目をこなしていくという事にならないように、馬と一つ一つ話しながら進めていきたいと思っています。

馴致については、本来おっとりとした性格で、好奇心もあるので、それを伸ばしてやりたいと思ひ、ほんのちょっとしたものでも気にするようなら脚を使って近づけ、必ず見せてやるようにしています。ただトラックとか水などニガ手なものに対してはまだまだ馴致不足を感じています。これからも確固とした態度と、細心の注意をもって、馴致を積み重ねていく必要があります。

北騮は、小柄で瞬発力が劣るように見えますが、これは騎乗者が心して運動していかねばならない事でしょう。体が柔らかく、飛越に關しても随伴しやすいようですし、充分な前進氣勢も持っています。この馬の能力は、私に測り知れるものではないでしょうが、できる限り引き出してやりたいと考えています。

北 美 号



牝 サラ 栗毛
昭和44年4月10日生
静内郡静内町産
父 スパニッシュ
イクスプレス
母 ゴールデン
メルド
体重 五二三Kg

こんにちは、私、めえりんです。自己紹介しますネ。
えーと、好きなものは、ポカポカの日にひなたぼっこしながらのう

たたね。たて髪とかし（私のサラサラ・ストリートのため髪、きらきらひかってきれいでしょ）。あとは、曳き馬・ニンジン・飯野兄!!
きらいなものは、みにくくて、うるさいもの。ウシ・ニワトリ・それと、みよちゃん。（みんな、内緒にしてネ。またいじめられちゃうから。）あときらいなのは、獣医・体重測定・速歩・輪拍!!
得意技は、めえりんたわし。あの、お鼻でごしごししてやるの、あれ、あなたできますか？

……以上です。今度みなさん、どうぞ遊びにきてちょうだいネ。
ふかふかの馬房で待ってまーす。

北美号調教報告

飯野秀之

私はメールに対して、この一年間どんな調教をしたのだろうか。先代のチーフの松岡さんが、全日学でもゴールを切れる馬にしたのに……。全く自分の感覚のレベルの低さ、自分の下手さに涙が出てきます。本当に情けなく、くやしい。以下は自分の恥を書くようなものですが、勇気をもって書く事にします。

私がチーフになりたての頃、すべての面でうまくいかず、特に基本の停止もねばられ、発進もままならないという状態であった。なんの進歩もないまま、十二月の終わり頃、鞭をかえ、拍車も輪拍にしたところ、はじめて顎をゆすり、ハミをかみ大きな動きをするようになる。自分自身の体ではじめてつかんだ感覚を大事に、毎日毎日良い状態さえつくればなんとかなるという考えで、単調で無意味な運動をくりかえししかやっていなかった気がします。馬体の事も

考えずに。そのため一番大事なシーズン直前で跛行。結局目標にしていた半沢杯にも出場できずじまい。仲間のデビューを横目に、私自身だけがあせり、目先の事だけにうろたえていました。私とメールのデビューは道自馬の小障。馬が自分から障害に向かっていく感じで結果もよかったので、翌日の中障Bも経路も障害も同じで、高さだけがちがうから大丈夫という安易な考えを持ったのが失敗のもとでした。第六障害のカマボコの前で馬が躊躇して、それを人間がおしきれなかったからカマボコの上にメールが乗りあげ、なんとか通過したものの、それ以降の障害は全く飛ばずじまい。この時、馬に与えた試合、障害に対する恐怖心は、この先々の試合ですべてあらわれた。一週間後の酪農戦で、膠着され、なにもできずみじめに失権。帰りの車中で、北日学に向けて一から出直しと思っっている矢先、馬運車からおろすとき、不注意にも一ヶ月にも及ぶ怪我をさせてしまい、もう自分では、何がなんだかわからなくなり、重苦しい気持ちが続きました。その後、人間はあせり、じっくり調教しなおす前に試合がせまってきては過ぎ、結果は膠着され失権するというくりかえしで先シーズンは終わったわけです。

こう一年をふりかえってみて、まず一番の問題点は、私自身が甘すぎてすべての事に徹底性が欠けていた事です。試合というのは日々の練習の結果ですから、いくら自分が良いと思っても、砂上の楼閣にすぎず、私だけがからまわりしていただけでした。馬と納得いくまで話さずに、どうして折り合いがつかまじょうか。馬術の基本を欠いていた私は馬を調教する資格などありません。又、闘争心もかけていたように思えます。

又メールの問題点もかなりあります。

①性格的にかなり臆病なため物をよく見て興奮し、それが膠着にも

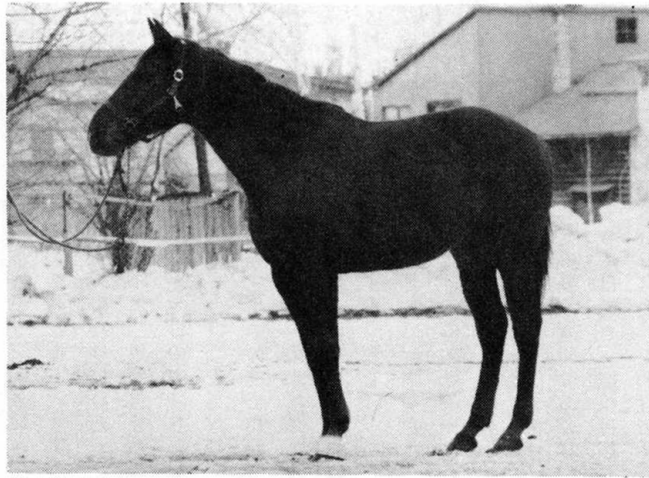
つながる。

- ② 飛越姿勢が固くろうそく飛び。踏み切りも不安定。
- ③ 回転、特に右回転が悪く、肩をはる。
- ④ 駈歩においての首の使い方が下手である。
- ⑤ ハミに対して反抗的で、顎をつっぱる。そのため馬体が伸びっぱなしで、馬体に力がない。
- ⑥ 馬体が固い。

このような問題点を解決するのに私はあまりにも推進不足で、脚が使えませんでした。自分の技術不足をすべて馬のせいにしていたと思います。短時間での緊張状態を求め、要求どりの運動をしたら愛撫してえさをやり馬装をとくこともせず、のんびんだらりんとした運動で一年が終わってしまいました。

そこで今年目標として

- ① やはり馴致。それも単に外乗と思わず、積極的に口を持ち、外でも物を見ないほど緊張状態をつくる。又外である程度の興奮をいかしそれを馬場にもちかえる事。
 - ② 斜体扶助が有効的だと思えるので、常歩でじっくりハミに出し、顎をゆずらせる。
 - ③ 発進を多くして、馬体を丸くする。
 - ④ 一日一回は緊張状態をつくり、下がよくなったら積極的に経路回りをする。
 - ⑤ コンビネーションを数多く飛ぶ。それも障害間の距離を変え、馬体の伸縮性をはかる。
 - ⑥ いろいろな低障害を休めで飛ばせる。自分から速歩になるように飛ばせ、飛んだら愛撫してえさをやり、障害自体を好きにさせる。
 - ⑦ 強い緊張感をつくり、すぐやめ、馬体への影響も少なくする。
- 又人間の問題も数多くありますが、やはり、
馬との運動が一致せず、ちぐはぐ。道自馬の試合で見られるよう



北皇子号

に馬が少しでも躊躇したり、きらったりしたとき押しきれない。すなわち脚が使えず、推進できない。これにつきます。
メールは今年で十四才。年令的にも馬体的にも今年が最後のチャンスです。監督さんがいつもおっしゃっているようにメールと話しをしながら、自信と気迫をもって、今年にのぞみたい。そしてメールにもう一度花を咲かせてやりたい。

騙 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラル
母 グリーン
ハーバーガール
体重 五二五Kg

「ニコニコ笑っているような」とも、「人を誘惑するような、甘くうるんだ」とも言える目で、いつもえん麦をくれる人を捜している馬。誰れも来てくれない時は、舌を出したり、口をモニョモニョ動かしたり、飼い桶を鳴らしたり、一人で遊んでいます。

まだまだ子供っぽさの抜けない彼ですが、いろんな事を経験して、今に北大を背負って立つ雄々しい馬に成長することでしょう。彼にはそれだけの実力が、充分にあるのです。

北皇子号調教報告

折 橋 由美子

天龍山の離厩が決まった頃から（三年の夏頃）自分が将来チーフになることも知らずに、西川さんの下で乗り始めたのが北皇子（ギヤラン）だった。天で、ステイプルで帰ってくるのが目標だったのが、試合にも出れず、調教に関して完全に自信というものがなくなっていたのが、ギヤランの調教の始まりを遅らせてしまった。

少ししか乗らないうちから、シーズンが始まり、小障に二回、そして北日本の耐久と道体の余力に出た。耐久は結局川を渡らずじまい、他の障害はいくつかの拒止を入れながら通過していった。馬場内の障害は止まることを知らず、よく飛んだ。いくつかの試合に出たが、今まで自分が乗っていなかったため、馬の感じが仲々つかめなかった。

新馬二年目だったので、今までの西川さんの調教方針をそのまま受け継いでいこうと思った。常歩、速歩は逆鞭をうまく利用してあげば、安定した感じで、はみをひき、運動の幅を広げていくだけで

あまり問題はなかった。しかし、駈歩はほとんど馬が理解してなくて、駈歩にすれば、できるだけ速く走ればいいんだな、という感じで、きちがいにはならなかったが、扶助はきかなかった。駈歩を教えていくのが課題だった。

ギヤランで一番問題だったのは馴致だった。始めのうちは外乗にいくと、色々なものにびくつき、速歩ばかりになろうとして、忍耐と思った時期もあった。しかし、反復していくうち、こわがるものが少しずつ減っていった。しかし、大の苦手の水は常につきまとうた。ステイプルの反省から、絶対水に慣れさせなければと自分にいきかせていたのに、間に合わなかった。四年の時のステイプルも川を渡れず失権。

夏は曳き馬に二、三時間かけて、通るコースをきめて、始めは川の近くまで、次第に川を渡るように、騎乗と平行して馴致を行なったが、一度渡って慣れた川は、どんな状態でも渡れるが、違うところにくくと、又全然渡らないというパターンだった。もっと教をこなさなければならぬ。一つ渡れたから、喜んでいると時間の無駄になってしまふ。今年ではできるだけ早いうちから北大構内だけでなく、他のところの川にいった馴致を徹底しなければ、ステイプルは絶対帰ってこれないことは確かだろう。又、ただ通過するだけでなく、駈歩で速くから走ってきて、渡る練習をしなくてはならない。

馴致といえば、他の場所においても、昔はかなり興奮したが、今はかなり落ち着いてきた。しかし、北大の馬が他にいないと、又興奮する。試合の準備運動でじっくり落ち着かせてやってから運動に集中させていった時は試合内容もいいが、興奮した準備運動はそのまま試合に反映してしまふ。

馴致に関しては、川と、他の馬のいない環境が二つの大きな課題

だろう。とはいっても調教はすべて馴致だけだ。

四年の試合内容を簡単に書いていく。

半沢杯：人間が体をこわしてしまい、西川さんに出ていただく。（ありがとうございます。）

道自馬：複合、馬場は馬が初めてだったが、納得がいける程度だった。障害は、バンケで二拒止、というよりも、そこまで誘導できず、という形。私自身、初めてギャランに拒止されたもので、自分の今までの甘さにあきれてしまった。この試合は帰ってこれたが、拒止されたのが納得できず、何か他の試合に絶対出たくて、ハンテイングに出たところ、失権。今までの騎乗のはみ受けが軽すぎて、馬が安心していているものは、そのはみ受けでも飛べるのだが、いやなものが出てきたとき、簡単に逃避できるということを思い知らされた試合だった。今まで、これぐらいのはみ受けでやってこれたのにという甘さが表に出た試合だった。

酪農戦：中障B：減点三。周りに北大の馬がいっぱいいて、かなり落ち着いていたが、バンケにまっすぐ向けれず、逃避。この試合は優勝できたのという悔いが今に残る。結局一―三位までの馬が一落下だったのに、私はタイム減点もあって、四位。

北日本：中障：二走行とも失権。準備運動は興奮したままで、人もあせれば、馬もあせるといったみじめな状態。一走行目は準備運動がうまくいかないものだから、がむしゃらに次の障害、次の障害へと誘導していくという内容だった。最後から三番目の障害のトリブルのCで三逃避。二走行目は七障害目までもいけず。最悪。総合も前にいったように川で失権。

このあとインターハイがあり、調教にもどれず、北大にもどった

時はもう道体まで一週間しかなかった。この一週間で脚とこぶしで確実に動かすようにと思った。

道体：中障B。はずかしいことに、この試合の準備運動で初めて脚に従って、はみに出て障害を飛ぶ感じを知った。陶酔してしまっただといつて過言でない。と共になぜ、もっと早く知れなかったんだろうと思った。試合は一落下で二位。結局、この試合でギャランは球節を深く切ってしまった、公認は棄権したため、私にとって最後の試合となってしまった。

ギャランは普段の生活、調教を通して、本当に素直な馬である。又、他の馬に比べてかなり憶病な馬である。よって当り前かもしれないが、普段やったことがないことは絶対にやりません。私は練習中でも、中障Bレベルまでのことなら、当り前に練習中にとりこんでいったが、中障Aレベルの経路はあまり飛んでなかったため、中障Bまでは飛べるが、中障Aは飛べないという状態で終わってしまった。もっと、もっと、自分のめざす試合を念頭において、調教を進めれば、と悔やむばかりである。

前後の運動はかなりの幅をもってできますが、左右に難がありません。曲がらないというわけではないが、急回転だと、馬転しそうなったりとか、あせってしまったら数をとる必要があるので、特に急回転の後、すぐ障害があると、体勢を立ちなおしきれずに飛べないというようなこともあるので、「回転して障害」を徐々に難度をあげていってやらなければなりません。障害自体、特に苦手なものはありませんが、幅の狭いものは苦手です。仲々踏み切りが安定しないような障害は、連続の中に入れていくと、慣れてくれば、単一の状態でも、うまく踏み切れることを覚えていきます。し

かし、障害前で充分距離を与えてやり、スピードを調節してやらな
いと、落としたり、逃避したりします。乗る人は、馬の一番適した
ペースを早めに覚えなくてはなりません。三間歩前までうまくもっ
ていけば、少しの脚だけで絶対に堂々と飛びます。これはどの馬に
もあてはまることかもしれませんが、ギャランは特にすばらしいバ
ネとか大勢なる前進氣勢とかがあるわけでなく、彼の先天的な素直
さが彼の力になっているわけであって、本当に忠実に馬術の基礎を
わかりやすく教えて、彼のペースを知ってこそ、彼の能力をひきだ
せるのであって、適当な気持ちでは絶対に乗れません。又、飛越に
おいて、首をかなり使うので、それを絶対じゃましてはいけません。
ギャランは怠慢な面もあり、例えば、乾壕を何回か飛んでいると
馬は安心してしまい、ギリギリに飛び始め、しまいには、乾壕の中に
落ちるといふこともありました。常に緊張させておかないと、けが
をさせてしまう可能性も多いにあります。

調教の方法としては、常に試合を前提にして進めていき、雪が溶
けてきたら必ず最低週一回経路回りをして、人間自身が経路におけ
る馬の苦手な面と騎手の欠点を早く知ることです。他の人、特に新
四年目の練習を見ていると、練習のために練習している感じで、試
合のために練習をやっていると思えません。だからいつも練習では
ちゃんと飛んでいるのに、試合の時、馬が飛んだことがない障害と
か、やったことがないような回転とか、試合という雰囲気自体に初
めてぶつかり、当然という感じで失権を繰り返しているようにみえ
ます。これが自分の最大の反省であります。練習の内容は充実させ
なくてはなりません。充実してくると、一日でも練習ができないと
すぐくもったいないことをしているように感じてしまいます。

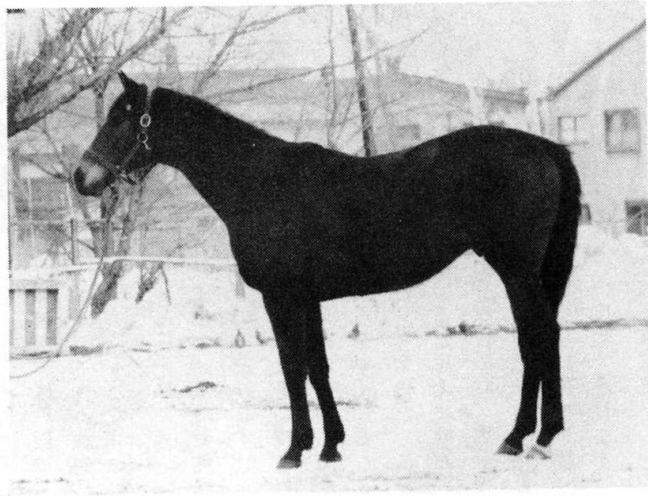
最近、ギャランの競走馬時代の批評を読んでいる、障害飛越馬と
してもびったり一致しているなと思いました。「持ちタイムからみ
ても、あまりスピードのある馬でなく、好位につけての流れ込みが
武器なので、時計のかかる馬場が好走の条件となりそう。重馬場は
それほど苦しむと思うが、ダートは力がなく苦手。」これを理
解してやって調教をすすめていければ、と思いました。

ギャランは不思議な馬で、彼のことを嫌いな馬はいないみたいで
すが、他の馬と一緒にいるより人間と一緒にいる時の方が幸せそ
うです。騙馬ですけど、牝馬のようなところが多いのです。今は、
いつも北将と一緒に馬場に放し、少しは北将のずうずうしさ（男ら
しさ）を身につけたらと思っています。

道体の時、ドンの次に一番成績が良かったのはギャランでした。
その時、非常にうれしいとともに、悲しい気持ちになりました。ギ
ャランよりも先に北大馬術部をささえていくべき馬が他にもいるは
ずなのにも思いました。

自分がギャランを一番最初に馬事公苑に連れていくと思っていた
のに、力不足で、そこまでもっていきませんでした。しかし彼の力
はありありとみえています。ドンにばかり頼りません。もう、ギャ
ランは、三年目です。北大の看板馬の一頭にならなくてはなりません。
ん。

白王子が日本一になれるのなら、北皇子もなれる。



騙 サラ 鹿毛
昭和46年3月17日生
浦河郡浦河町産
父 ヘンリーヒギンス
母 タマホマレ
体重 五三Kg

去年は古傷が悪化し、もはやこれまでかとも思われましたが、部員の必死の看病の甲斐あって、ようやく元気になりました。独特の長いたてがみをなびかせて走る姿には、風格の中にもどこか不良少年の面影が残っています。

その昔「飼付の悪魔」と異名を取った彼も、最近では新馬北紫雲の迫力に押され気味だと言う人もいます。しかしこれは、ただ荒れ狂うのは若い者にまかせておこうという中年の余裕が出てきたせいでは

はないでしょうか。馬の甲より年の功、この頃白毛も目立ち始め、人間ならさしずめ渋いロマンスグレーの域に踏み込んだというところでは。

☆ ☆ ☆

昨年、何かと話題の多かった馬です。五月の上旬北大において行なわれた半沢杯の中障碍で四十二年度卒の小栗先輩（北大同好会）が騎乗し見事優勝、五月下旬の酪農大における北海道自馬馬術大会でも中障碍で優勝、六段で三位といった素晴らしいシーズンスタートダッシュを切ったピーター（通称）でありましたが北日学寸前、今姉騎乗での練習中に人馬転し姉は骨折すると云う災難がありました。北日学には井上兄が出場する事になりましたがここでも北里大馬場での前日の練習中に人馬転をやりました。幸いにも大事には至らなかったのですが、兎に角よく転ぶ馬であります。その北日本では二回走行で十一位となり北大から出場した馬ではドンに次ぐ成績で、全日学の権利獲得に貢献してくれました。

それからしばらくして右顎骨膜炎から移行した下顎の炎症で馬休となり、今でも膿が出続けています。

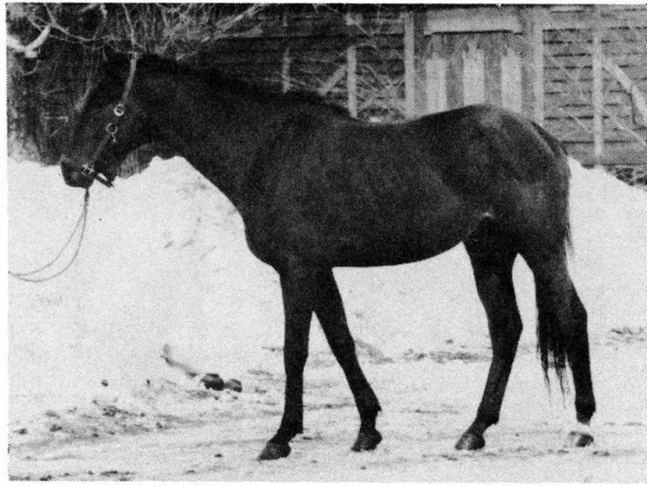
そして現在、小栗先輩・野中兄の二人で調教され、新たに直走そうと頑張っています。今年の活躍が期待されています。

☆ピーターがフレグモーネで発熱。ばい菌の入ったケガのもと馬房内のくぎ。もしもう少し気をくばれば、むだに馬を苦しめることもなかったはずなのに。部員全員十分反省すべし。

☆ピーターが胆石であることがわかった。お大事に。

|| 2月4日・6月9日当番日誌より ||

北
紫
雲



牡 サラ 鹿毛

昭和53年4月27日生

静内郡静内町産

父 ホープフリーオン

母 クイーンマリーナ

体重 五二〇Kg

すよ。キャバレッティーは得意だし、優勝も夢じゃありませんよ。それまで見て下さいね。
マリーナより

北紫雲調教報告

井 上 京

北紫雲、競争馬名アルファマリーナ、マーちゃんとかマリーと呼
ばれている、現在北大馬術部で唯一のタマツキの、去勢していない
馬である。昭和56年6月4才のとき佐々木(猛)厩舎からいただい
てきた。足腰にはまったく故障はなく、比較的大きな馬である。鼻
出血を二回したとかで競馬からおろされたらしい。入厩した当初は
ボケたようにおとなしく、これが牡馬だろうかという程で、そのま
ま去勢もしなかったのだが、春が近くなって最近はずいぶん気が
だすようになった。冬前には曳き馬の時など立ち上がったたりして
るさかったが、近頃は牝馬でも見ない限りおとなしくなった。ただ
飼付けの時だけは攻撃的で人を威嚇したりしている。北紫雲とい
う名前の発案者は一年目の寮生の平石で、由来は言うまでもなく「都
ぞ弥生」の一節「雲紫に」である。

去年の6月にこのボロ小屋に来てから、僕はライトさんに恋して
ます。ライトさん、あなたのうるんだ瞳、かわいらしいお尻、たま
らなく好きなんです。いつだったか、僕がおとなしかった時、小さ
くて怖い女子部員に「こいつ〇〇ついてんのかよ。」と言われたの
です。でも今は違います。僕も男です。咬んだり蹴ったりできます
よ。でも、ライトさん、それでも不満なんですか。あなたのように、
全国大会で優勝しなきゃだめなんですか。それなら、僕もやりま

本格的に騎乗調教を始めたのは10月頃であり、入厩後かなりブラ
ンクがあり、無駄な時間をおいてしまった。乗り始めたころは何を
どうすればよいのか全くわからなかったのだけれど、とにかく口
さわりながらどんどん前へ出し、頭頸を伸展低下して馬衝に出るこ
とをめざした。一度馬場に見えた松井先輩藤先輩に乗っていた
いたのだが、そのときの馬の動きは目を見張る程大きく伸びびと
しており、いかに自分が馬の前に出していなかったかということ

目の前に突き示された。以来目標として馬が伸び伸びと、人や人の扶助を負担に思わないで運動できるようめざしている。馬本来の歩様が大きく軽快なのではあるが、時々勝手にUターンしたり曲がろうとする点、また回転で固い時があること等、まだまだ運動の緊張感が足りないと思われる。現在雪が積もって圧雪状態になった構内の道路や駐車場を使って走りまわっている。キャバレティや極く低い障害には意欲的に向っていくが、少々無頓着な面もある。今後、特に馴致ということを大切にしながら調教を進めていきたい。駈歩運動や障害飛越、回転・減脚のスムーズな移行等、やらねばならないことは山とあるが、あせらずじっくりと、そして出来れば確実にやっっていこうと思う。

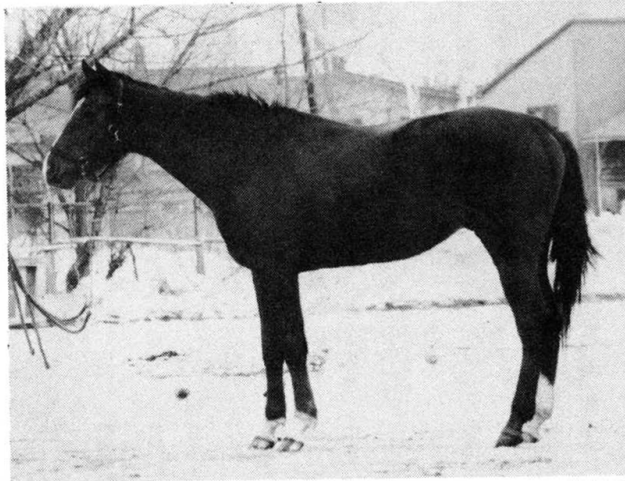
* * *

先日、ある吹雪の日の練習後、前髪とたてがみを思い切り良く刈り取ったところが、まるで見違えるような美男子美少年になってしまった。(チーフのなんとという美的センス!) そうだ、彼はまだまだ若い!

世良兄がマリの飼付けになって大きな勲章を胸に作っていた。以前はあの様に乱暴な馬ではなかったと思う。仲の良かったS兄が退部したので寂しいのかもしれない。正直言って、暴れている彼は怖いけれど皆などで可愛がってやればきつといい性格にもどると確信する。動物に根っから悪いヤツはいない、ネエ、マリさん。

|| 12月18日当番日誌より ||

烈々風号



騾 サラ 栃栗毛
昭和52年4月26日生
静内郡静内町産
父 ダンシングキャップ
母 ルーキ
体重 五一七kg

札幌三オステークス優勝という輝かしい前歴とともにやってきたルー。期待どおりの素晴らしい馬格と、愛嬌たっぷり顔の持ち主でした。しかしその性格は、わがままというかほんぼんというか、とにかくうるさいの一言!もともとこれは、ずっと可愛がられて育ったからなのでしょう。不思議と憎めない、可愛い腕白坊主です。入厩当時心配された右前肢も異常なく、今は岡田監督の愛馬の座に収まり、増田兄を背に障害を飛びまくる毎日です。(兄の「くそ

重ノ」の絶叫を呼びました。)

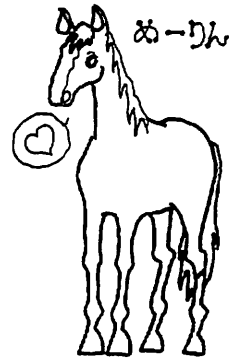
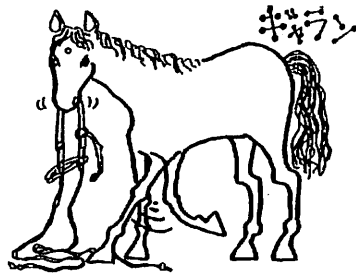
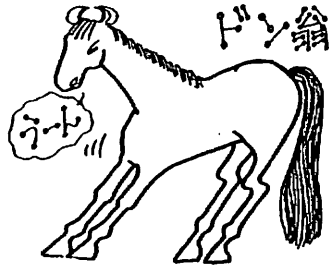
ブラシかけと鳩が大嫌い、ミヨコの上を行く超早食いが特技。いまだに自分の名前を覚えていないといわれる彼ですが、内に秘めた可能性の大きさは誰にも負けません。近い将来、必ず北大を背負って立つ馬になってくれることでしょう。

烈々風号調教日記

岡田光夫

僕の名前は烈々風^{レツレツカゼ}、競走名はカツルーキーオー、父はダンシングキヤップ、母はルーキー、栃栗毛のきれいな流星の顔は皆がきれいだが可愛いと云ってくれる。五十六年七月七日競馬場から北大の厩舎に移ってきた。私だつて五十四年の札幌競馬の三オステークスには見事に優勝した経験がある。クラシックレースに向けてエリートコースを走っていたが残念な事に右前肢の腱炎のために競走をあきらめて余生を北大の厩舎で送ることになった。やっと安住の地を求めたと思つたら人間は無惨にも去勢と云う手術をほどこしてくれた。僕は一番大事なものと一緒に魂も抜かれてしまったのか今までの斗争精神がなくなつてしまつたのか、やれ前進氣勢がないとか、にぶいとか云われる様になつてしまつた。しばらくぶらぶらして居たが今の主人が九月八日から乗る様になつた。今までと違って背中を押しつけられる乗り方にとまどつたけれど主人は身体をなるべく前に倒して背中を楽にしてくれたのでだんだん馴れてきた。しかし主人は毎日毎日常歩運動だけで一時間位乗つてはその日の運動は終りと云う日が約一ヶ月続いた。その間に今まで鞍も入れて五十疋位の重

さのものを乗せていた背中に七十疋位の物をのせて歩くことになれたし、最初はフラフラしていた歩き方もすっかりしてきた。それよりも又前肢の腱をいためるのではないかと心配したが一ヶ月余りの常歩運動で鍛へられたのか心配がなくなつた。この頃から少し速歩運動をませて運動させてくれる様になつた。しかし時間も連続するのは十分以内で大事にしてくれたので足も悪くならなかつたと思う。主人は前に云つた様に推進力がなく、しかも一ヶ月以上経つても速く歩かぬのに業をなやして盛んに脚を使い推進力をつけ様とあせるが、どうも主人の気持に沿わない様だ。おまけに僕はゲートはうまかつた、ゲートがあく、頭を振り上げて力強く第一歩から飛び出して行くくせがついているので脚を使われるとつい頭を上げてしまう。おまけに競走馬時代は静止していることも、後退する事もやつた事がない。最初に主人にこれらの事を要求された時どうしてよいか分らなかつた。やっと主人が何を要求しているのか分つたのがかれこれ二ヶ月も経つた頃だろうか。今でも後退の時に頭を上げ口を開けて反抗するわけではないけれども、どうも仲間の様に衝を受けて下顎を柔くして正しく後退する事が出来ない。この抵抗もこんな運動に馴れていないこと、後ろが見えない不安があるからだ。それと僕自身気がつかなかつたけれども身体は左と右の固さが違つたと云う事だ。以前攻馬の時に時々斜行しては随分叱られたけれども右手前の輪乗りをしている間に突然左の肩を突き出し頭だけを右に曲げたまま、でふくらんだりしては主人を嘆げかせている。頸礎が固まらないと云う事らしい。とにかくとまどうことばかりだ。そのうちに手綱が引かれたら顎をつゝばらず素直にゆづつて口を閉じたまま、停止したり、後退したり、歩度の増減が出来る様に努力するつもりだ。この事を主人は口向きが出来てきたとか、顎をゆるする様になつてきたとか、衝を受ける様になつたと喜んでゐる様だ。僕も早くそうなりたいたいのだけれど、身についたくせはなかなか直らない。



離 厩 報 告

疾 風 号

昭和五十六年十月九日、十年の歳月を北大で過ごしてきた疾風号が馬場を去ってゆきました。離厩が決まったきっかけは、北日学での右前肢蹄球部の負傷だということですが、以前にも故障が多く十の運動ができないという理由で離厩の話がでたことがあったそうです。

昭和五十六年七月、北日本学生馬術大会スティーブル——四番木柵障碍でトキは二反抗、泥に脚をとられながらも斉藤兄が無意識のうちには叫んだ「トキー！」という絶叫と共に飛越しました。そしてバンケットで人馬転、たぶんその時けがをしたのでしょう。深くえぐられた傷の痛みに耐えながら、トキはその後の障碍を飛び続けました。そしてとうとう九番ダブルのBで力つきて失権したのです。

トキはいつでも一生懸命でした。私には口だとか馬の緊張状態とか、そういった難しい事はわかりません。わかりませんがやはりトキは一生懸命飛んでいたのだと思います。いつも真剣でひたむきで：そして素直に：私はその思うのです。人も馬もボロボロになって、汗だくで戻ってきたあの姿を忘れられません。——馬は結果だけしか見てもらえないのだと、経過は見てもらえないのだと、此の頃考えてしまったりするのです。

トキは今、五十五年度チーフだった島村兄にひきとられて、丹頂鶴の舞う阿寒で暮らしています。自然が好きで、自然の中にあるものなら恐がらない様な、そんなトキだったから広い所で自由に生きる

事ができる阿寒の生活は、北大にいた時より幸せなのかもしれません。けれど馬術部の部員として、離厩という事実が一番辛い事です。夜十時、馬運車の窓を通して見えたトキは少し神経質そうに青草をかみながら、時々振り返りました。——そして、ひっそりとした馬場に斉藤兄の「疾風出ます」の聲が響き渡った後、妙にポツカリとした空気に包まれて、疾風は北大にはいなくなってしまったのです。——かむ事を知らず、首をめいっぱい伸ばしてひたすらなめる人なつっこいトキ……次に会う日を楽しみにして……トキ坊！



驢 ア・ア 栗毛
昭和45年5月31日生
沙流郡門別町美原産
父 ア・ア
母 オーバーマイン
ア・ア
ミストビハマ
体重 五四七Kg



「疾風号」報告

齊藤 牧人

離厩を報告しなければならない事、とても悔しく思います。また、昭和四十七年に入厩以来、彼と馬術部の生活を共にされた多くの先輩、部員の方々、申し訳ありません。

昨年十月九日、「疾風号」は北大馬術部より離厩しました。現役時代、チーフとして調教に当たっていた、獣医師の島村努さんと共に、現在彼は阿寒町で元気に生活しています。彼にとっては最高の幸福だと思います。

島村さん、本当にありがとうございます。トキをよろしくお願いいたします。

北大での最後の管理責任者として、報告します。

一昨年十一月よりチーフとしての騎乗を始めました。左後肢中肢骨のヒビは完治、あとは腱、肩等馬体に他馬にも増して一層の注意を払うという事で、次のシーズンを目ざしたわけです。

基本的な運動を、井上兄を始め上級生の指導の下で始めました。既調教馬ですから扶助は知っている。だから衝を受けさせれば、緊張状態を作り出せれば。そう考えていたのですが。

衝受け、緊張を求めようとしていきおい、強く持ち逆鞭で首を丸めこませるだけの形。加えて、バランスの悪さから来る拳の動揺、扶助の荒さ。

疾の場合、顎が柔らかいという長所のため、それが一見、騎手の荒い拳を受容してしまうような傾向がありました。そのため、他から指摘されるまで、自分の拳の荒さ——そしてぐらつきから馬口を引っぱってしまう、調教者の資格が無いといわれても仕方がないと思います——に気づかないでいる事が多々ありました。そのような状態でかなり強引に停止、発進、伸縮、回転と、平場の基本的な運動を行い、上手くもって行けた、またそう指摘された時があっても——、前進氣勢をもって「銜を前下方へ引いていく」のではなく、興奮させて前へ出しそれを拳で押さえ込むだけの形、に終わりがちでした。

疾本来の大きな動きを生かす事は出来ず、顎を伸展し切らない窮屈な飛越姿勢をとらせてしまう原因となったと反省しています。

後悔後に立つ！乗り始めから、目標とした北日学総合までに果たしてどれほどの変化を僕の技術、意識に持たかかを考えると、全く束きません。「日々の些細な変化に一喜一憂しているだけでは根本的に馬も人も変わってゆかない。」ミーティングで常に言われていた事です。

年が明けて間もなく、歩様が短切に感じられ、やがてひどく跛行するようになりました。骨軟症については、背草量、日光になるべく当ててやる等注意していたのですが、結局発病、馬休。カルシウム剤の投与で、連日苦しい注射の毎日となりました。誰だっけ好きなのは？ない注射、まして馬の身であれば。

骨軟症での馬休はある程度覚悟はしていたのですが、騎乗を再開してからも肢に不安は大きく、果たしてどこまで運動量を増やしてよいかかわからず結局春まであまり運動出来ない状態となってしまいま

した。

半沢杯には間に合やす事が出来ず、最初の試合は道自馬小障害となりました。準備運動、経路走行を通じて、問題だらけの内容だったと思います。障碍前で騎手の不安からいたずらに前に追い込み、アプローチで大切なリズムを乱す事。それだけでなく、浮わついたり、特に着地時に遅れて引っぱっていた事など。結果的に、減点が無かった事だけが救いといった内容でした。

馬自体の前進氣勢を引き出すことが出来なくては、ただ障碍前のみでバタバタしても始まらない。このことは馬場での経路回りで徐々に程度をあげるにつれてはっきり結果として現れるようになりました。

障碍に対する前進氣勢、騎手に対する信頼、馬自体がコンタクトを求める事。障碍飛越というものに対するはつきりとした認識の無いままに、ひたすら歩度を追い、強く持って銜に重らせた状態での飛越練習の繰り返し。「人馬の協同作業」という形からはほど遠い状態だったと思います。状態を改善できないままにせりから程度を上げ、対酪農大戦中障B、失権。色箱、ドラムオクサー、つい立て拒止。競技場に於ける技術という点からは推進不足が勿論あったと思いますが、アプローチでの体勢の乱れでむしろ完全にじゃまをしている事、そして何よりも、競技は普段の騎乗からの帰結であるという事を認識させられました。

北日学までもうあまり時間は無くもう一度最初からやり直すつもりで騎乗を続けたのですが、馬体の調子は思わしくありませんでした。肩も腱も疲弊し、跛行は続いており、マッサージ、温湿布、痛み止めの注射の毎日でした。

夕方の散歩で、「幸せいっぱい」といった顔で草を食べている彼を見ると、僕は一体何をやるうとしているのか？と――

小池先生には何度も診ていただき、折橋姉とも相談し結局、試合前に馬休、静養させて北日本に臨むことになりました。

試合シーズンが始まってしまえばアツという間に北日やぞ！とは言われていたのですが、乗り始めてから「調教計画」はおろか人の姿勢から何から――本当に――何も出来ずにここまで来てしまった。やるべきかどうか悩んで行った北大でのステイブル経路走行で、何とか無過失で帰ってこれた事から、何とか野外ではやれるかも知れない、とにかくやるんだ、疾風はまだやれる、と頭だけが技術から遊離して飛び回っていました。

十和田での北日学。総合調教審査、とにかく経路を正確にとる事と、二課目での失敗からゆったりとした運動を心がけて出場。後半もっていかれ気味で右駆歩の維持が出来なかった事以外は何とか無難に。勿も疾風ではなく僕のレベルとしてですが。

耐久。ずっと想いつづけていた、絶対帰って来るといふ事しか頭にありませんでした。心配していた一番障禍、二、三とスムーズに通過。四番木柵、前日の雨で泥田の様な踏切りに足をとられて二拒止――三度目に這い上がるようにして飛んでくれた時は本当にうれしかった――バンケットで膝をつき、落馬。何が何だかわからなかった。九番ダブルのB拒止。通過させる事が出来ず、役員の失権の宣告。空白の頭で仮眠に戻ってはじめて、疾が蹄冠部から蹄球にかけて深く傷している事に気づきました。彼に対する申し訳なき、自分のふがいなき。そして結局これが最後の試合となってしまいました。彼にとつては、馬体を酷使される生活もこれで終わったわけです。

調教報告とは呼び得ぬ、とりとめのない内容となってしまう、申し訳ありません。

最後のシーズンでの「疾風号」の経過は以上の通りです。いかに失敗の連続であったかを今また実感しています。監督をはじめ先輩諸兄、部員の皆にこの場を借りてあらためておわびしたいと思います。そしてトキよ、迷惑ばかりかけてすまなかった。

競技馬として使用する限り予想される、骨軟症、腱、肩の故障。又、部馬の新旧交代という事から、離厩は決定されました。チーフとして彼の能力を引き出してやれなかった事が悔しくなりません。しかし、彼は我が北大の部馬として五十年以来全日学に出場し、特に五十二年度には団体二位に貢献、また北日学総合優勝等、大いに活躍してくれました。北大の「功勞馬」だと信じます。

蹄球部の怪我が治った後、離厩までの短い期間でしたが、再び騎乗することができました。これまでやって来た事を反省できた、僕にとつては大変有意義な期間だったと思います。それは同時に、とても辛い事でもありました。

十月九日、人參をいっぱいもらった離厩式、夕方の手入れが終わり体温計を抜いた時、これが最後なんだなと思うと。その夜北大を出発しました。

今彼は阿寒にいます。素晴らしい所です。それに何といっても島村さんと一緒なんです。島村さん、本当にありがとうございませう。トキ、お前は幸せだよ。

離 厩 馬 の 戦 績

疾 風 号

(年月日)	(大会)	(種目、成績)		
S 5 0. 5. 4	半 沢 杯	パルクール、ド.シヤス	8 位	
5. 2 5	酪 農 戦	小 障	2 位	
6. 2 1 ~ 2 2	道 自 馬	小 障	3 位	
7. 3 1 ~ 8. 5	北 日 本	複 合		
8. 1 6 ~ 1 8	道 体	総 合	6 位	B 障 1 位
1 1. 1 4 ~ 2 1	全 日 学	総 合	失権	中 障 失権
S 5 1. 6. 1 3	酪 農 戦	複 合	9 位	
7. 2 8 ~ 8. 1	北 日 本	複 合	2 位	
8. 7 ~ 9	道 体	総 合	失権	中 障 失権
1 0. 2 ~ 3	地 区 大 会	総 合	失権	中 障 9 位
S 5 2. 5. 3	半沢杯、太秦杯	複 合	失権	パルクール 1 2 位
6. 1 8 ~ 1 9	道 自 馬	複 合	1 位	小 障 7 位
8. 3 ~ 8	北 日 本	複 合	1 0 位	中 障 A 1 位
8. 2 0 ~ 2 1	道 体	選抜中障害	3 位	
9. 3 ~ 4	地 区 大 会	中 障	9 位	総 合 1 位
1 0. 1 5 ~ 1 6	親 善	B 障	6 位	
1 1. 1 5 ~ 2 1	全 日 学	総 合	6 位	中 障 3 位
S 5 3. 6. 1 0 ~ 1 1	道 自 馬	小 障	1 位	
8. 3 ~ 9	北 日 本	総 合	失権	中 障 1 1 位
8. 1 9 ~ 2 0	道 体	障 害	2 位	中 障 2 位
1 1. 1 1 ~ 2 0	全 日 学	障 害	3 1 位	総 合 2 3 位
S 5 4. 6. 1 2	道 自 馬	総 合		
8. 2 ~ 8	北 日 本	中 障 B		
8. 2 5 ~ 2 6	道 体	中 障	1 2 位	
S 5 5.	(左後肢第四中肢骨ヒビのため馬休)	総 合	4 位	
S 5 6. 5. 4	半 沢 杯	成 年 総 合	8 位	
5. 3 1	山 下 杯 (酪農戦)	成 年 障 害	2 位	
7. 3 1 ~ 8. 4	北 日 本	障 害	失権	
		中 障	失権	
		パルクール		
		中 障 害	失権	
		総 合	失権	
		成 年 総 合	失権	
		成 年 障 害	失権	

北海道大学水産学部馬術部 活動報告

現在、部員数五名、そのうち北大馬術部の看板であった中島兄と川越姉の二名の卒部生を送り出すこととなり、部の形態を取ること難しい状況になってしまいました。ダイバレード無きあと、自馬を持つこともなく、我々が移行して来た頃には、朽ちた障害が馬場であったことを示す草原も今では駐車場と化してしまいました。水産学部馬術部OBの苦心のたまものであったこれらの設備を、このような状況に追いこんだ我々の自馬繁用に対する意識の欠如と情熱の無さを非難されても我々には言いわけができない。

このような状況の中、我々の活動は、函館競馬場と市内東山の乗馬クラブにて行なわれている。

自馬は無くとも、今回本学の好意により北日本学生馬術大会、選手権に化学科3年の小泉と食品学科3年の築地が参加することとなり、最初予戦の馬場第二課目を通過することを目標として、夏休みになると東山の乗馬クラブに連日通い、特訓を行った。残念ながら試合では、急遽時間短縮を理由に予戦が部班運動へと変更され経路を回することはできなかったが、少し気が楽になったのも事実であった。ところが、この二十分間の部班ほど苦しい部班は経験したことがないと言いきれるほど、きつい部班で乗り終ったあと、第二課目の方がどれだけ楽であったかと二人で話しあった。

結果は、不幸にもくせ馬に当たった小泉は予戦落ち、築地のみが、

長靴が脱げそうになるのにもめげず健闘、予戦は通過したが、次の総合の馬場の経路にて、持ち慣れない大衝と初めての経路というところで落選した。

又、函館競馬場として秋の公認大会にも、小泉、築地両名が参加、ひとつも障害を飛ばさず帰函した。

今、我々に残されているのは、与えられたチャンスは逃さずできるだけ鞍数を重ねるということであろう。

水産馬術部の灯を消さないよう我々も頑張りますので、本学の皆様にはこれからもお世話になると思いますので、よろしくお願いします。

最後に、新入生勧誘でできるだけ多く水産生を入れることをお願いして筆を置きます。

夜中に目が覚めたのでふと時計を見ると五時半だった……三秒後
齊藤…しまった！起きろ

佐粧…ほっ、ほんとうっすか！
町田…げっげっげっ……げ！

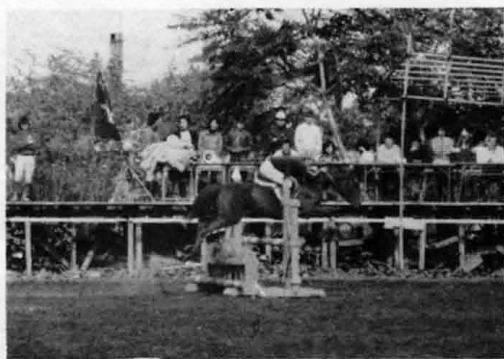
幸いまだだれも来ていない。せめて張り綱をすれば少しはかっとうがつく。だめだ。集合だ。

その時部屋で目覚し時計が間の抜けた音で鳴り出した。皆の視線が気になった。おそまつ。

11月22日当番日誌より

* O B 対 抗 戦 *

— 現 役 と O B の 交 流 —



昨年（昭和五十六年）十月十八日、処は北大馬術部馬場において
たくさんのO Bの方々を招いて盛大にO B対抗戦が開催されました。
競技種目は、部班、障害飛越競技、箱番レース（人間障害レース）
馬取り競争、曳き馬競争、パン食い競争、といろいろ行ないました。

九時四十五分、競技開始

最初の競技は部班。一年目は号令を忘れてメチャクチャ。まった
く部班とはいづらいひどいものになってしまいいんな青くなって
いました。O Bの部班はさすがにうまかったです。佐野さんが
北将にひっかけられるというハプニングもありました。

メイン競技の障害飛越競技では、現役減点二十三・一五、O B減
点三十八・〇という結果で、なんとか現役が勝ちました。北皇子号
に騎乗した南部さんの前傾はすばらしく、印象に残りました。都合
でちょうど札幌にいらしていたという福岡さんもひさびさの乗馬を
楽しんでいました。

お遊びの競技の馬取り競争は、イス取りゲームの馬乗り版なので
すが、馬にとっては災難だったようです。しかし人間は必死。O B
も現役も関係なく本性むき出しで争うすさまじい競技でした。中
でもO Bの国技さんと、現役の森田君の取り合いは「根性」の一言で
した。上の写真はその時の模様です。乗っけてもちゃんとまたが
ってないと引きずり降ろしてまた乗ったりして、とにかく爆笑で
した。



それでは競技終了後、女子部員が作ってくれたおにぎり、豚汁の昼ごはんのときに書いていただいた感想を紹介します。

「非常に疲れた。ランニングレースのある場合は事前に連絡を、このような機会をどんどん設けてOBとの接触を密にするのは、現役にとってもプラスになるし、暇をもてあますOBにも歓迎されるのでは？」

「自分が年をとったこと、清潔になったこと、実感！」

「メシがまずい。ちゃんと炊け」

「久々に楽しく過ごせました。年に一度くらい催事として行って下さい。」

「馬はもうエライ迷惑でしたね。」

昼食のあとソフトボールをして、夜には恵妣寮の娯楽室で打ち上げコンパをして、一日が過ぎました。

来年も開かれました折には、たくさんの方々のOBの方々の参加を期待しております。

O B からの手紙

昨年の冬から今年の冬にかけていただいたO Bの方々の手紙を紹介します。もちろん、そういう意図があって書かれた原稿ではないだけに、戸迷っているO B諸兄もいらっしやるかと思われませんが何とぞお許し下さい。

カギリナキ情熱モテ

シカルニフリツモル雪ノゴトク

イダイナル寛容ノウチニ

ツツミコメノ

ガンバレ

昭和56年2月3日

佐野淳之兄（52年卒部）

拝啓

今年はいつになっても雪が積もらなくて、冬が来ないまま、春になってしまいそうだなあ……愛馬・天龍山号はそのようにつぶやいております。

馬の調子はと言いますと騎手がムチャクチャな要求をするため、（いきなり一三〇センチメートルを飛ばせようとしたり）ますます、逃避・拒止ばかりするようになりまして、騎手の調子はと言いますと、いいかげんに乗ってますのでつい先日は一年半ぶりに落馬いたしました。

しかしまあ、面白半分でありますが残りの半分は真剣にやっ

すのでけっこうよく飛んできます。一五〇センチメートルなんぞ現役の絶高潮の時でも恐くてできなかったのですが、ドサクサにまぎれて飛んでしまいました。

2月の8日は神奈川県大会で晴れの馬事公苑です。失権したら泣いて馬事公苑の砂を持って帰ろうと思ってます。

滞納金やらその他いろいろで計8万円お返し致します。

決って、あやしいお金でも汚ないお金でもありません。私の血と汗と涙と鼻水のしみ込んだものです（十分 汚なそう）

そろそろ冬も終盤の一番厳しい季節ですが、すぐ目の前には楽しい雪割合宿が待っています。頑張ってください。

敬具

昭和56年1月31日

石黒直秀兄（55年卒部）

★全日学・全日本を終えて……

拝啓

寒さの中練習に励んでいることと思います。

全日本での雄姿、見させていただきました。まだまだ死んではいないと確信しておりますが、ドン彼一頭に頼ることはもういけません。次の馬を作ること、全力で考えて下さい。部員は少ないかも知れませんが、金はないかも知れません。しかし、馬が好きだという情熱を持つ人間なら一人二役は可能だと信じます。前近代的な精神力と体力との勝負かも知れませんが、たとえ汚れていても、臭っていても、北大馬術部の誇りを持っていて下さい。少なくとも道は開けると思っています。

医療面でのことは、横山（昭和48年卒部）、本城（53年卒部）、私とおりますので、いつでも相談して下さい。

新指導者たちに送ります。

馬の方は、来年また、札幌にて添田（51年卒部）もいますので、ドンについては裂蹄冬場に注意のこと。湿度をもたせること。

栗東より

昭和56年11月26日

水野 豊香兄（51年卒部）

拝啓

みんな元気にしてますか。すこし暇ができ、すこし酔ったので、気が向きまして、ペンを取りました。（酒は北海道直送のニセコ）先日は、札幌や東京でみんなの顔をみる事ができてまして、実に浮き浮きと過ごすことができました。

一緒に練習したのは京たちの代が最後ですが、まだ皆、知った顔です。一層、活躍が楽しみになります。今回は、増田が宣言した「五連勝」とは、大分違いましたが、いずれにせよ、元気に走り廻っている姿を見ることはうれしいものです。「五連勝」でも「六連勝」でも来年の楽しみにしましょう。

（増田よ、来年は、俺と勝負!!）

先日の全国大会で、みな知ったと思うけど、最近の中央の試合は、「確実に飛ぶ」あるいは「帰る」と、「勝つ」ということは、全く別個のことになっていきます。千葉さんもおっしゃったように、これは学生にとって大変なことですが、反面、いくつかの試合を見ている限り、専修、日大、中大、慶応の諸君は、試合の勘所を数多い経験の中からつかんでいるようです。もちろん、その中で、ドンは2位になったのだから、それは大変誇りにしてよいことです。私個人の意見ならば、やはり、二者択一であり、みんな（特にドン

以外）は、まず（帰る）ことを目標においてもらいたいものです。ドンと同じレベルで他の馬を考えることは、大変危険だと思います。まず、「帰る」ことから、次の光を見つけてもらいたいと思うのです。

と、書きながら、表面的には、矛盾するようですが、一つだけ気になって書くことを書きます。

一年から四年まで含めて、皆の中に、「この馬はゴールを切る」、「この馬は失権する」というレッテルばりを、心のどこかでしていないかということです。馬の可能性を予め、人間が決めてしまうという事は、恐ろしいことです。過渡期ということで、普段より、若干激しい馬の出し入れは、しかたないとしても、このレッテルばりが、大変な誤りをおかしてしまいます。この馬なら、ゴールをきれあるいは、満点で何位ぐらいだろうという予断が、しばしば、思ってもみない失敗を生み出しているのは、北大でも、この群馬でも何回もみました。逆に、この馬でも、なんとかなるという信念が、期待以上の健闘を、引き出していたのも何度か見ました。

精神主義に走りすぎるのは、非常に危険ですが、やはりある程度の気合いや執着心は、特にこれからよじ登ろうとしている人間にとっては、大切な要素であると思います。

僕の経験した一番顕著な例は、畜大でした。確か、52年の全日学では、障害2頭、総合1頭の出場だったと思いますが、53年には障害、総合とも5頭出場し、総合の団体で2位に入ったと思います。同期なので話をする機会も多かったのですが、彼らは非常に馬の可能性を信じていました。たとえ、前の試合でどんな失権をしていようとその馬の長所を掴み、どう乗るか話して聞かせました。そして、「失権より悪い」ということはない。失権した馬なら、もうこれ

以下ということはないから、思い切りできる。」と大胆に話し、また実行していたことを思い出します。そんなことから、「信念」や「執着心」が思わぬ力になることは大いに感ずるのです。

—アー 大分酔ってきた—

こんな言葉は、最近考えますか？「大胆かつ細心に」。たしか、添田先輩が言ったのではなかったかな。「大胆」とは、どんなことか、何を「細心」にするのか考えてみて下さい。

「馬に対して受動的である。」たしかに拳に関して、障害上でのハミに関してそれは絶対であると思われまふ。しかし、なにも運動課目については、おっかなびっくりになることはない。怖がらずになんでもイイと思つたことはやればいと思ひます。もっとも、最近の練習風景は知りませんので、でかいことは言えないけど、自分の現役の時の反省も込めて、こう考えます。

こんな所にも、「大胆に、かつ細心に」を応用する場はありそうです。

先日、諸君と全日本を見た後、群馬での練習、日本の一流どころの馬と我々の馬のギャップ、正直イヤになりました。ヨレルは、避けるは、イワレなき反抗はするは、モー大変。これで、2年後に国体を開催し、しかも勝とうというのですから容易なことじゃありません。確かに、すばらしい馬は入ってくる可能性は非常に高いのですが、それ以前に人間が……

杉谷さんの話によると、「すばらしい馬ほど、敏感でよりむずかしくなる。」と言われました。勿論、学生レベルとオリンピックレベルでは、えらい違いがあるけど、馬を調教することだけに重点を置

きすぎる気もします。(北大の場合)、自分自身、特に、人間の技術について、いろいろ考えさせられることが多にあります。

—モー 酔ってしまった—

とにかく、悔いなく部活動ができ、何らかのものを得るような部生活を送れることを、諸君には祈ります。もし、東京方面に出てくることがあったら連絡して下さい。大歓迎です。(勿論、できる限り、こちらの馬に乗れるように便宜を図ります。)

酔っぱらって、ひどい文章でした。
では、皆さん、元気で

現役の皆様へ

(P・S、Q・バンザイ!!)

昭和56年11月25日

三好功悦兄(54年卒部)

前略、今年も余す所少なくなったが、各位元気に精進のことと推察する次第。

先日、馬事公苑では愉快でした。その時のスナップを若干同封しますから適宜分配して下さい。

人馬一体、佳き越年を祈ります。新年には一層の活躍の程を期待します。

七十四歳、酒と年は多々益弁

草々

昭和56年12月20日

武田朝男兄(8年卒部)

★年賀状より……

寒中おみまい

申し上げます。

賀状ありがとう。

増々一層の馴致を、飛越を、最終的には馬の生活をもっともっと知る努力を。

水野豊香兄（51年卒部）

謹賀新年

フィリピンに渡って3ヶ月になります。皆様お元気にお過ごしでしょうか（犬・馬を含めて）

増田君おめでとう。皆様ごくろうさま。また今年も、気長にがんばって下さい。

この人々は、肉をよく食べますが、私の口に一番合ったのは、何と「犬」の肉でした。「犬」の「脳」が食べられたら、うまい酒がめまますよ！果物はそれほど豊かではありません。パイナップルは日本のものが数段上でしょう。（もちろん from phil）
一つ、けがや病気に注意して、そして本末転倒にならないよう。また。

元旦

矢田明兄（53年卒部）

謹賀新年

みんなが一層活躍されるよう、祈っております。

力を合わせて、がんばって下さい。
今年も、また、ボロ出しをしながら、新年を迎えます。疾風もすっきり、いなか暮らしに慣れたようです。朝、小屋に行くときや、仕事から帰ってくると、ブヒブヒときます。きつと、腹が減っているのでしょう。体調は上々です。家の近くなら、国道でもどこでも裸馬でも乗って歩けます。

阿寒郡阿寒町徹別中央

島村努・めかけ（トキ・ピリカ・クロ）一同

島村努兄（55年卒部）

早々の年賀状恐縮です。甲斐性なしの先輩で何にもしてあげられませんが、関西の方へお越しの節は是非ご連絡下さい。

三菱商事の嘱託を最後に、数年間ノラ犬のようにウロウロしていましたが、とうとう半分の月給で就職しました。幾多の未だ世に出ない私の発明を駆使して、給食産業の合理化に微力を尽くして行く貫りです。皆さんも今のうちに体を鍛えておくことです。……

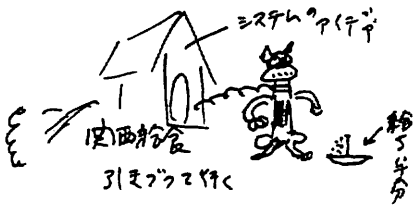
私は人にダメされてばかりで、借金が多く、赤貧洗うが如き毎日ですので、会費の納入すら思うようにまかせませんが、アイデアなら人に負けません。御利用下さい。

梶谷晴男兄（28年卒部）

★ ★ ★

今年も、OBの方々からのお手紙、お待ちしています。現役に対するお叱りや、励ましの言葉、その他少しでもお気付きのことがありましたら、簡単なハガキで構いませんので、知らせて下さい。OBの方々が現役だった頃の様子なども聞かせて下さい。

心からお待ちしております。



卒部にあたって

卒部にあたって

井 上 京

今年こそは、の意気込みで乗り込んだ十和田での北日学。狂うような暑さと重圧感に音をあげそうになりながら、結局は耐えられなかった。蒸し風呂のような仮厩の中で汗にまみれていた愛馬達は何を思ったことだろうか。土ぼこり、土砂降りの雨、蒸れた草いきれの中で力一杯動き続けた部員達の期待にどれだけ答えられただろう。いったい何が間違っていたのだろう。どうしてしまったのだろう。そして明日は？ どうして行けばいいのだろう。こんなことを考えていて一体何になるのだ。結局は彼——馬しかいないではないか。馬の気持ち、馬の覇気、馬の恐怖心、それがわかっていたつもりで、結局何もわかっていなかったただけではないのか。読み取ろうともしなかったのではないか。自分の憶病さを強引に馬におつけてもみ消そうとしていただけではないのか。いつも馬は馬、人は人ではなかったか。技術に裏付けされた人と馬の関係なんてほとんどなかったような気がする。馬がいて人がいて馬術なのに、ひとりよがりや独善ではスポーツにならない。部活動でもあり得ない。少なくとも術といわれているものだから、真理や思想がどこかに見え隠れしているはずなのに、それを探す努力すら放棄していたのであるまいか。しているつもりだったかもしれないが、それは独りよ

がりという色めがねをかけてウツラウツラとさまようポーズではなかったか。自分の信念と信じていたものさえ移ろうかけろうのような物ではなかったか。その証拠に馬は私に答えてくれたか。否。彼は拒絶し、押し黙ったままではないか。私が謙虚に彼の言い分を聞き取って、一步譲ってさえやれば、彼は私を許してくれたような気がする。いろんな馬がいた。みんな表現の仕方は違ったけれど、暗に僕に訴えていたのだろう。スターライト、彼女のせわしない動きにも、北楽院の苦しげに開いた口唇にも、北姫の舌先にも、北耀の耳や首の固さにも。みんな訴えていたにもかかわらず、僕はすべてを聞き閉ざし、目をつぶり、そして馬達は、しょうがなくして拒止し、逃避し、膠着した。それなのに僕はまだわからずに、彼達が精一杯の訴えをその態度で表わしているのに、なおさら罵声を浴びせかけ、鞭でひっぱたき、拍車でこつき、手綱にぶらさがる。

どうか後輩達よ、私のような悔恨をしないですむように、ひっぱたいた時の苦い後味を味あわないですむように、馬の気持ちの苦しみや痛みのわかる人間になって下さい。このまま技術のよりどころなく、思想も信念もなく、独善に浸ったまま自己満足に終わらないで下さい。僕が陥れた混乱は深く暗いかもしれないが、抜け出るための道は求めればあるように思えます。どうかそれを探し出しはい上ってきて下さい。

卒部にあたって

折橋 由美子

四年間があつという間に過ぎてしまった。あの時にはあれをやればよかった、これをやればよかったと後悔ばかり。思い返してみれば、自分が女であることを後悔ばかりして、意地をはってばかりだった。入部した頃は普通の女よりも力がなくて、恐怖の握力、右十四だった。クラブにいと腕の筋肉がもりもりついてきて、硬くなつてきて、それをながめるのが快感だった。それでも、軟弱な男よりも力がないのがくやしかった。乾草の作業は男子のみの中、吉田さんがよくいってるのを見て、四年生になるまでに、絶対、乾草の作業に行くぞと思つたものだった。それが何故か、しっぺ返しをうけてしまった。ギヤランにあたってこれからやるぞ、絶対芝馬場を踏んで女であってもこれだけできるぞとみせつけようと燃えていた頃に、燕麦運びの作業があった。人が少なく、燕麦が多く、一人二十袋前後の割当てだったが、十袋ぐらい運んだ頃、作業班長が「女子はもういい」とかいて、「クソめ、うるさいなあ」と思いつつ、一周遅れを繰り返しながら続けていたら、腰筋捻挫をやつてしまい、それ以来フルに乗れなくなつてしまつて、みじめな気持ちになつてしまつた。しよせん男にはかなわなんだろうかと落ち込むばかり。乗れば痛くなる、乗るのがいやだ、でも乗らないと試合に間に合わない。その繰り返しだった。こういうことを考えるから馬事公苑にいけなかつたと思う。結局、自分との戦いに負けてしまつたのだ。人は(馬も同じだと思ふが)やらなければならぬ

きには底力を出せるのに、出せなかつた。いいわけなんていってられない。後悔ばかり。

つらいことが多い馬術部生活の中で、馬が自分を勇気づけてくれた。馬は他の動物と違い、自分の接した態度がそのまま帰ってくる。犬のようにお世辞をいわない、猫のように無愛想でない、牛のように無関心でない。そして、力強い。

三年の時のステイプルが忘れられない。大地を駆けていき、下見の時、あんなに大きく見えた障害が、ちょっとまたいでいるように感じていき、影色が流れていく。自分と馬だけの世界に入つていく。

今も忘れられないのは、ギヤランにあつて初めの頃、仲々好きになれなかつたんだが、ある日、曳き馬でギヤランがあげられて、私が深い雪の中でかけて、放馬させてしまいました。もうダメかと思いつつ「ギヤラン」とよんだら、ギヤランは走つてのをやめて、深い雪の中をあえいでいる私をみて、あわれんだのか、もう遠くにいたのだが、速歩でトコトコ私のところにもどつてきたのです。普通の馬なら放馬したら、厩舎にいくものですが、反対方向にいた私のところにきたものだから、うれしくて、それ以来、ギヤランと仲良くなりました。

夏の思い出といえば、ひたすら、川の中に入つていたこと。いつも尻までびしょぬれになつてしまふ。野球部のグラウンドの横に川があつたので、玉拾いもよくやつた。曳き馬の残りの時間はギヤランのむくしをはずして、陸上競技場のクローバーを食べさせて自分は寝ていた。帰りたくなるとギヤランは起こしてくれるので、安心だった。

あれだけ深く馬に接せられることはもうあるだろうか。

今も馬に乗りたいけど、体が中々治ってくれない。又、クラブにいた時みたいに燃えてみたいなあ。

卒部にあたって

今 由美子

馬術部生活四年間を終える今一番思うことは、四年間続けて本当によかったということです。クラブから与えてもらう部分が多く、自分の方からクラブにかえす量は微量でしかなかったけれど、先輩後輩にずいぶん迷惑をかけたけれど、なんとか四年間馬に乗り続けてこれました。中でも、羊蹄と北姫との出会いは鮮烈でした。羊蹄と私の関係は、言わば教師と生徒のようなものでした。むろん、羊蹄が教師で私が生徒です。彼女は私に馬を調教することがどれほど難しいか、ゴールを切るということがどれほど難しくそして大切なことであるか、自分の心にどれほどの甘さがあるか等、言葉で言いつくせない多くのことを教えてくれました。そして彼女が馬場を去った後、北姫との関係は、生徒と生徒でした。共に苦しみ共に悩んだ一年間で、お互い少しは成長出来たのでしょうか。でも、最後の方の試合で拳に感じたミヨの前進気勢は、今でも感覚として残っています。このことだけでも、大学生活四年間を費した価値があったと言い切ることが出来るように思えるのです。又、一番大切な時期にケガをし、クラブや、下級生、そして同学年の他の二人にこの場を借りて、おわびしたいと思います。特に井上主将には、私にかわ

って試合に出てもらったりその他色々助けてもらい、心より感謝しています。また、何かにつけて助言していただいた岡田監督、半沢先生、小栗先輩、その他諸先輩に、心よりお礼申し上げます。四年間どうもありがとうございました。

☆今日はモルモットにひっかかれ、さらに逃げられ、さらにウサギも逃げ一日がつぶれた！もう頭くるなあー！

|| 1月18日当番日誌より ||

☆キョン兄が札幌の自宅で病んで床の中であることが判明。お見舞だといって、西川兄に金をとられた人がいた。

|| 2月24日当番日誌より ||

☆今日はひな祭を意識してか高須と今姉のファッションがおもしろかった。

|| 3月3日当番日誌より ||



〔卒部生〕 左より 井上兄（北紫雲号） 折橋姉（北皇子号）
今姉（北姫号）



〔3年目〕 左より 増田兄、石井兄、平田姉、斎藤兄、飯野兄



〔2年目〕 左より 世良兄、名越兄、町田兄、高須兄(下段)
佐藤姉、野中兄



〔1年目〕 上段 左より 森田兄、平山兄、国枝姉、横山姉、中川姉
嶋田姉、斎藤姉、上本兄、平石兄、一色姉
下段 左より 丹野兄、高橋姉

* 自己紹介・他己紹介 *

卒部生の部

井上 京兄 (四年目)

今までに乗った馬達。天龍山・ハイエイム・北楽院・北燕・ドン
ホッパー・疾風・北将・北姫・スターライト・北美・羊蹄・北離・
北皇子・北耀・みねとく・みねしん・てるとく・みねりゅう・さか
きた・みねそう・月光・暗風・柏勝・大雪・柏栄・柏美・レコード・
柏麟・柏慧・第二平雄・ヒダカレディ・ヒダカイコマ・トヨホマレ・
オーロラホマレ・ホースメンビート・スロープターフ・イブリエー
ス・コウタロウ・騾臣・騾鷲・ハチクオー・ドミニク・ゴールドゴ
ール・ウルジャン・イズミシユウコウ・オオカリヒメ・ウィンドン・
クイリマ・マコロッド・ノエル・烈々風・北紫雲……

☆ ☆ ☆

主将として、最上級生唯一の男子部員として、一年間御苦労様で
した。そして、卒部後は新馬の調教——と、現役部員としては、頭
の下がる思いです。

さて、兄の紹介となると、食べ物のお話を避けては通れません。就
中、水炊きがお好きのようで、しばしば「水炊きの集い」を主催し
ていらっしやいます。「よく飽きませぬね。」と言う年若い下級生
には「おまえ、水炊きは別名『常夜鍋』とも言ふんやぞ。」と諭さ
れます。今年、同じ下宿に後輩が二人もいることですし、これか

らも水炊きに、馬術に、燃えてください。

22歳の井上京兄。いつも元気な兄。北楽院・Qの元チーフで、北
紫雲・マリの現チーフの兄。こと「食う物」に関しては、人類を超
越した五感を備える兄。雪合戦とソフトボールの好きな兄。お風呂
と勉強の嫌いな兄。三角眉毛の兄。妖怪笑いの兄。一緒に話してい
ると、どんな話題もいつのまにか馬の話になっている兄。どんな服
よりも馬装の似合う兄。「お——い、皆こっち向けよ——。」の一
声で、全馬一斉に自分の方に向かせる事の出来る兄。馬が本当に大
好きで、そして馬からも部員からも慕われる兄。前主将の兄。四年
間、御苦労様。これからも卒業出来るまで何年でも(?)、マー坊と共
に頑張って下さいね。 追伸…井上兄の好きな所——きよたと、馬
運車の屋根の上。

折橋 由美子姉 (四年目)

小学校の運動会で、全校で風船を飛ばすので紙に願いごとを書いて、
風船に結びつけろといわれました。私はためらいもせず、「黒
い馬がほしい」と書きました。天龍山のチーフになったとき、夢っ
てかなうもんだなあーと思いました。いつも夢を追っていたいなあ。
あの風船はいったいどこにいったんだらう?

☆ ☆ ☆

小さな体から発される、気迫溢れるあの号令。それが姉の、いえ
北大馬術部のトレードマークでした。最近それがあまり聞けないの

は寂しいことですが、姉本来のやさしさにふれホッとした気分を味わっているのは、筆者だけではないでしょう。これから少なくとも2年間馬場のすぐ近くの獣医にいらっしゃるとのこと、馬体管理等どんな指導して下さい。

数年間かぶり続けた鬼の仮面をぬぎ……

ここまで書くと、あとは胸が一杯で続かなくなった。今まで何回も姉の他己紹介を書こうと思って机に向かったけど、書きたい事が山ほどあり、いつもそれを心に留めておいたけど、いざ書こうとするとも書けない。

文章にして書くということは、保存はできるが軽薄すぎる。どんなに美しい物でも言葉ではそれ以上美しく表現できないように、本当に僕が言いたい数々の事物も、それ以上うまく表現することができない。書いてしまうと、何か大切なものを失ったような気持ちになるのです。だから僕は何も書かない。ずっと心にしまっておこう。

「私が四年間で変わったこと」

今 由美子姉 (四年目)

先輩になった。腕立てふせが3回出来る。飛び乗りが出来る。スカートをはかなくなった。冬って寒いと思うようになった。ショウチュウが飲めるようになった。骨を折った。体に傷あとが残った。大声を人目はばからず出せるようになった。思い返すと本質は変わっていないように思うのだけれど、自己の表現方法が四年間でずい分変化したように思えます。しかし、このクソ忙しい時に、何で原

稿など書かなきゃいけないんだ、と思いながら書いた文章でした。

☆ ☆ ☆

姉は馬術部の女性にあっては一番一般の女の人に近い格好をしていた唯一の人であった。相棒のO姉は男以上の男らしい歩き方で北大構内を闊歩していたから一瞬先からでも二人で歩いていけば今姉とO姉だとわかったものであった。姉はもう卒業してOLになるのかと思いきや、院へ進むそうなので暇がある時でいいですからミヨコにミスターブーが乗っている姿でも見に来て下さい。

入部当初姉に何度おろされ馬場を走ったことでしょう。しかし、手入れの時、さりげなくおかしなことを言ってニコッと笑うと、あの八の字形の目や一文字の口もとがとつてもすてきでこっちまで自然と笑ってしまいます。

姉のセンスの良さはもう馬術部では有名ですが、実験の合間をぬって、白衣に腰にピンクのタオルをさげミヨの曳き馬をしていた姿はいかにも姉らしいです。

きびしいながらも的確な指導をしてくれますし、姉の馬術に対する情熱は見習うところが多いと思います。

今さん四年間御苦労様でした。障害飛越時の「もっと股関節を折って」の姉の言葉を忘れずにいたいと思います。

現役部員の部

飯野秀之兄（三年目）

昨年の自分は臆病だったと思う。何をすることもわかった。もう今年で最後だし、自信をもって積極的に行く事にしよう。そうすれば道も開けよう。

☆ ☆ ☆

非凡な知性と、これまた非凡なスケベを、例の軽快な笑いでごまかす兄。兄は個性豊かで話上手な方です。

また兄の馬に対する愛情深さには感心させられますが、その表現方法に少々問題があるようです。鼻の穴にてっぴを突っ込んだり……。これからも可愛いメール共々、頑張ってください。

兄はメールをとっても大事にしています。いつだったかマイルの口をこじあけて一生懸命のぞきこんでいる兄を見ました。さすがあんな細かいとこまで健康状態を確かめてるんだなあと感心していたら、次に兄の口からでてきた言葉は「歯にキスをする」……そのあとの光景は純情ウブな私にはとても書くことはできません。ウツ恥ずかしい。

そう、兄とマイルは人と馬という厚い壁をこえて愛し合っているのです。うわあ……倒錯の馬術部……

……という話はさておき、マイルは兄を絶対的に信頼しています。

恐いもの、嫌いなものがたくさんあるくせに兄のあとならどこへもついてゆきます。兄もマイルを信用してるんじゃないかな……だから、今シーズンは期待してます。飯野兄とマイル……がんばってください！

石井洋行兄（三年目）

高校時代はバカの3ーと呼ばれ、今は歯学部部のデキンボーイズのリーダーを務める、こんな私も今年で23才。昇る朝日に向かって走れ……などと青春メロドラマみたいなことをやっていられるのも今年が最後のチャンスではなからうか。

☆ ☆ ☆

今、クラブで一番恐い先輩といったら、兄をあげなくてはならないでしょう。普段、あの全体的にまるっこくて、ポンポンおかしな事を言っっては、みんなを笑わせている兄が、練習になると、突然、人格変異を起こして、鬼みたいになります。おかげでシュバールからおけると、精神的にズタズタになってしまいます。

調教に関して、しっかりと自分の考えを持っている人で、その結果は、シュバールの変化にしっかりと現われていると思います。今シーズンは、シュバールと共に馬事公苑の芝馬場で、豪快な飛越を見せてください。期待しています。

かつてのウルトラセブンのように、そしてN兄の専売特許赤影のように、二つの眼鏡をかけかえる時、兄の顔つきは変わります。あ

る時は「必殺遊び人メガネ」をかけて夜の街をさまよい歩き、またある時は「インテリ歯学部メガネ」をかけて解剖学の本をひもとく。どちらが本当の顔なのかは、兄に解剖の話を知るとよくわかります。吐気するような話をグラス片手にさも楽しそうに話すのですから。現在「一番怖い先輩」と言うと、まず兄の名が挙がります。あの身体で、あの声で怒鳴られれば、ドベやいのきでなくても、自然と後ずさりしてしまいます。これにシュパールのあの左目加わるとう……ああ、なぜOBはこんな組み合わせを残したのでしょうか。

斉藤 牧人 兄 (三年目)

僕は阿呆だ。怠慢ずぼらいんちきまぬけのあんぼんたんのぼんついで、語彙不足の13年間は瞬く間に過ぎてしまい、泣きたいくらいだ。穴はありますか？僕は入りたい。ふざけるな、何だこれは。ええい、畜生、風立ちぬ、ブヒブヒ。やるぞ、よいしょ！

☆ ☆ ☆

兄の特徴ある外見については、今までの部報で多種多様に表現されてきました。しかし、それにもかかわらず、また新しい表現が兄に与えられようとしています。それは、かのナカジマ美容室で特注の『必殺かやぶき屋根カット』です。でも、日本の古い歴史を物語っているようで、なかなかいいのではないのでしょうか。こんなことを書いてくださいね。

実は、この文章を書く前に、僕はすでに、斉藤牧人兄の他已紹介

を書きあげて、部報委員の上本君に渡してあったのだけれども、その内容たるやあまりにも辛辣に兄を暴き出し、暴露してしまったので、あのスラリと伸びた体からは想像もできないナイーブでデリケートな兄の心を傷つけ、ノイローゼに陥れるかもしれないから、僕は前の文章を破り捨て、新しくこの原稿を書こうとしているのです。だから、上本君、あの原稿のことは兄には話さないでくれ。きっと兄はしょんぼりしてしまうに違いないから。そうしたらあのハッタージみた自信たっぷり「それだったらオレにまかせといってくれよ」なんて言葉は聞けなくなってしまいうだらうから。

平田 委久子 姉 (三年目)

自分は弱い人間なんだという事を、しっかりと頭に叩き込んだ一年だった。こんな事は、周りの人はとくに知っていたのかもしれない。そう言えば、他已紹介に毎年揃って「真っ赤なホッペ」と書かれるのも、私の成長の無さを表しているように思える。ああ、今年も又書かれるのだろうか。

☆ ☆ ☆

姉はいつも顔をまっ赤にして、ハッハッと息をはずませて走っているというイメージのある我が部一のはりきりボーイ……いやガールです。とにかく男まさりにパワフルなのです。夕当の時など姉といっしょだと「ラッキー。」と思ったりしてしまいます。今年はおそらく作業隊長になるのでは、とか思いました。そんな姉は実は運転免許を持っています。しかし姉の運転する車に乗るのは命がけ

です。前、姉がいくらやってもまったく車が前に進まなかったことがありました。そのとき、一人の部員が

「サイドブレーキちゃんとしてののか？」と聞くと

「もちろん、ちゃんと引いてるわよ」と姉は自慢げに答えました。平田姉、長生きしたいですねー。

二年半程前のコンパの席で彼女の歌う武田節を聞いて以来、私はあの歌が大好きになりました。別の人が歌うのも聞いたことがありますが、やはり彼女のが一番素晴らしいと思うのです。あの一本調子ないちずさが、ものすごく似合っています。ただ、一般人に比べて、何かが欠落しているように見えるのは、私の思い過ごしでしょうか。今年もマラソンがんばってね。

増田 美希夫 兄 (三年目)

この三年間というものは、またたく間に過ぎて行った。俺にはあとたったの八ヶ月しか残されていない。

去年はついに栄光の全日学2位に輝いた。今年は団体も個人も合わせて優勝したいなァ。

☆ ☆ ☆

去年は、ドンホッパーとともに大活躍の一年でした。ほぼ全部の試合において、優勝もしくはそれに近い成績を残し、一番の全日学二回走行では、個人第二位というすばらしい成績を残し、公約ど

おりテレビ出演も果たしました。特に、ジャンプオフにおいては、途中で経路を忘れるという離れ技までやってのけ、我が部の主将としての貫禄と余裕を世間に示しました。また最近、兄についての夜のすすきでのうわさをあまり耳にしませんか、このあたりは今シーズンに賭ける意気込みの表われでしょうか。昨年以上の活躍を期待したいものです。

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ 突然ノ主将ノ役職ニモ、こんばノ度ノ二日酔イニモ負ケズ

東ニ当番中ニ怠ケル者アレバ 自分モ馬房ニコモッテどんニ甘エ

西ニ朝ノ練習行ナワレレバ ちょーかヲ鞭で打チ鳴ラシツツ下級

生ヲ感情ニマカセテ怒鳴リ

南ニ自分ノ馬ニ便宜ヲ図ル者アレバ 自分モセッセトどんニ寝糞

背草ヲ運び

北ニ酒宴ガ開カレレバ ハセ参ジテ飲み、歌ヒ、騒ギ、暴レ、繩

ヲ縛ラレル。

春ニ新年目入部スレバ 生マレモッテノベビーふえいすデ愛嬌

ヲフリマキ

夏ニ試合しーずんニハイレバ 独特ノ気合イノ声ト共ニ全国ノ馬

場ヲ跳ビ駆ケマワリ

秋ニ乾草ばいとアレバ 暴走族モヨケテ通ルカッ飛ビ運転デ

とらっくヲ推進シ

冬ニ極低温ノ中デノ合宿行ナワレレバ 気分次第デとれーにんぐ

ノまらそんノ距離ヲ伸バシ、一人衆シク走り続ケル

ソナナ主将デアル増田兄。

今年、夢の五連勝に、そして卒部と同時に卒業する事に頑張っ下さいね。ドン翁と一緒にノ

佐藤 仁美 姉 (二年目)

世良 健司 兄 (二年目)

高校時代に、こう言われて送り出された娘がいたそうなの。

「涙を忘れるな。砕ける気迫を忘れるな！」

そして現在、くり返しくり返し、胸の奥でつぶやきながら……。

☆ ☆ ☆

彼女は誰からも好かれ、コンパにおいてOBのご指名が一番であります。いつもニコニコの笑顔、明るい性格、一生懸命な態度、豪快な飲みっぷり、めんどろみのよさ、大きなお尻（おっと関係なかったかな。）等々、本当に女子部員の見本みたいな超健康少女です。しかし、九州出身のせい、冬はきらいなようで、三年目の日姉をおさえ、ルイベ候補のトップにおどりたようです。

作業等いつも真先にやり始める姉は「これが馬術部の女子だ」と一年目に日々体で示されています。笑顔をたやさない姉も最近少し言葉づかいが男言葉になってきています。これも女子部員の典型なのでしょう。一年目に対しては言葉で注意する事は無く、行動を示す事により無言の警告をします。そんな姉を一年目は尊敬し、人格に親しみを覚えているのです。

考えれば考える程いよいよ暗く、考えなければ不安がつる。何とも疲れる毎日ですよ。

☆ ☆ ☆

今シーズン、赤丸急上昇中の世良くんです。去年は、ビールを（カップに）半分、空けるのに苦労していたようですが、今では、軽く一杯空け、「酒ほど美味しいものは無い」と豪語するまでになりました。

そして、新入部員が入り、作業隊長となってからは、「鬼の世良」に大変身。一度、やる気を出したら、どこまでも突き進んでゆき、その勢いには「人間ブルトラー」と呼ばれた某姉も、かないません。今年、スターライトに乗って、大活躍してくれることでしょう。

ねぼけ顔の兄は慢性オタフクカゼ、野中兄と共に我が部には希な幸せ者。気のせいでしょうが、兄も二年目となりなかなかシッカリした一面をみせるようになった一方、あいかわらずかわらないのが、酒の弱さと顔のはれ。こんな兄にもさがせば長所がありました。それはとても物を大事にすることです。くつ下などはサポーターとまちはえる位、指先とかかとかぬけるまではきつぷします。先日一昨年買ったスノトレを7月頃（もしかして真夏）まではいており、それを玄関においておいたところ、大家さんにゴミとまちがえられて

捨てられたといっておこっていました。

高須哲男 兄 (二年目)

今年は、もう少しまともな自己紹介を書こう。そして……まともな他己紹介を書いて頂けることを祈ろう。

動物が好きで……兎に角、生き物が可愛くて……。他の部員達の入部動機である。自分は？動物を可愛がるだけでなく、愛することを知ったのは馬術部に入ってから。大学でも馬に乗るようになったのは、「勝ちたかった」からであろう。

馬への気持ち他人より劣っているとは思いたくない。でも……まだまだ足りないなあ。

☆ ☆ ☆

真白の雪の中を跳ね回る。自称、兎の高須とは程遠い。さしづめ駝鳥の高須といったところ。足を前へせりだして、そのつま先は、はるか地平線を指さす。腕はダンスを踊るかのように軽く腰にあて、苦痛にゆがんだ私たちの顔を、快樂と余裕に満ちた面持ちでながめやり、ヒョイヒョイ、ピョンピョンと追いかけていく。そんな彼が糧とするものはパンのみみと黒砂糖。なんとも不思議な人間である。

兄は二年目の中で唯一の浪人、留年経験者であります。人生をゆっくり歩く兄は、渋く厳しく、なぜか網タイツが似合いそうな男です。一年目にとっては恐ろしい先輩なのです。

そんな兄が、先日一人で小樽へ行ったそうです。あの丸っこい昭

和40年代眼鏡をかけ、馬くさいオーバーに身をうずめて日銀の前などを逍遙している姿は、文学青年ここにありというもので絵になりますよ。ただし、腰のホルセットを思い浮かべなければ。高須兄、早く腰を完全に治して我らが駿馬に跨って下さい。仲長速歩走りも当分お預けですよ。

名越正泰 兄 (二年目)

時のすぎ行くままに我身をまかせておいたら、アッという間に二年間が過ぎ去った。馬に、体育会に、学問に、それぞれ何かと忙しはずだったのに、なぜかよく思い出せない気がする。俺は二年間何をやったのだ！もっともつとやれたのではなかったのか。……

去る十月、理学部物理学科に移行した。むづかしすぎる。僕にも理解できる簡単な力学で馬術を解析するにはどうしたらいいか？真剣に悩んでいる今日この頃である。

☆ ☆ ☆

彼は、全く愛すべき人材です。そのまん丸い顔と共に、その足がこれを象徴しています。某女子部員と共に「七五三コンビ」などと言われた時期もありましたが、最近では、なかなか渋い顔をしていることが多く、重さを感じます。して、その足は、馬装点検をするたびに憂鬱になります。彼と某姉とは一穴しか鑑の長さが違わないのです。その一穴も「見栄の一穴」だという話もあるそうです。今は、その騎座で、黙々と北皇子に乗っています。来春、北皇子と共に跳ぶ姿、期待しています。

名越兄は、まあなんとというか、不思議な人物です。まず初めに驚いたのは夏場の草刈りの時で、我々一年生が草との苦戦にもがいている時、ふと見ると、兄は、なんと鎌を右手左手に自在に持ち替えながら、平然とバッサバッサ草を刈り進んでいるんですね。その他、馬の世話とか馬具備品の役職とか冬場のストーブの火つけとか、いつのまにかやっけていて、気がつくともやう終えている、というような、技術とも体力ともつかない奇妙な能力の持主です。

野中道夫兄 (二年目)

動物は、馬は、どこが痛いんだと言葉で知らせる事が、できません。そんな馬達の健康管理をしていくにあたって、ひとつの重要な技術は、跛行診断でしょうか。一年目の時、上級生が、「今日は、ちょっとはこうするな。運動はひかえたほうがいいかな。」などと言うのを、「はこう」って「跛行」と書くのかなと思いつつ、尊敬のまなざしで見えていたものでした。そんな自分が、二年目になり、馬匹の役を受けもち、いっばしに「跛行している」とか「跛行していない」とか言うようになっていました。しかし実際の所、なにもわかっちゃいなかったのです。小池先生や、折橋姉に、跛行の見方を教わるにつれて、今まで自分がいかにおおざっぱな見方をしていたか、しだいにわかってきました。跛行していないと判断していた例のかなりのものが、誤りだったようです。

言葉を使えない馬達が、自分の肢のどこがどう痛いのか、跛行する事によって伝えようとしています。一日も早く、その言葉を理解

してやれるようになりたいと思います。

☆ ☆ ☆

野中兄の頭の中は馬のことでいっぱいです。馬を扱うのが楽しくてしょうがなく、いつもそれが笑顔となって顔に現われています。また、馬匹の役職のせいもあってか、馬の健康状態の心配も頭の中に溢れんばかりに充滿していて、コンパで酔った時などその悩みが出るわ出るわ口からポロポロこぼれてきます。まあ、馬好きというか、動物好きというか、人間も含めた動物好きというか、特に、故郷のN子さんが好きだとのうわさです。

とりえは声大きいことのみ。後はろくでなし。

歌はアリスしか歌えず。女はナオコちゃんしか知らず。頭がかたく。部屋がきたないといって泊まりたがらないわりには、2m離れていても体臭がただよってくる。酒を飲ますと、すぐ泣き、涙だけじゃなく、鼻水もたらず。又、すぐからんできて、いいたい放題いう。御用心、御用心。要注意人物。

「競馬の実況中継を聞きながら 思ったこと」

町田雅人兄 (二年目)

競馬をテレビで見るようになって十一年、馬券を買うようになって一年半。以前は、競馬は見て楽しむものであって馬券などは買うものではない。と考えていたが、最近どうもこの考えがぐらついてきたようだ。財布の中味がさびしくなると、競馬で一発儲けようとか、うまくいけば百万円ぐらいは儲かるのではないかということ

が頭の中をかすめるようになった。と、この瞬間にも千円飛んでしまった。まただめだった。

☆ ☆ ☆

「まっちゃん」と呼ぶと兄はほとんどフンという調子でのしる様に「ンッ」と答えてくれます。「○○ですよね？」ってきくとこれまたのしる様に「バーカ」とか「とーぜん」とか言ってくれます。最初は何で私はこんなにいつもいつもののしられてんだらうと深刻に悩みましたが最近これが兄のごくあたりまえの話し方なのだと悟りました。

冬になると兄は木こりのおっさん風自称うさぎの毛皮帽子をかぶります。障碍をとぶたびにその帽子のミミがピョコタンピョコタンはねて……ウフッ……かわゆい!!

今年も期待のミヨコでがむばってくださいーネッー。

名に似ず優雅なところなどひとかけらも持たず、薄汚ない長髪を散髪もせず（だいたい最近馬術部の男は汚なすぎる。一年目の平石の長髪にしろだれかの風呂ぎらいにしろ）、ふてぶてしく下唇をぶつと出し、何かというウダウダ文句をたれている。馬具備品をやっているが、返事だけは立派でなかなか動かない。要するにずぼらなのである。そして動かないから必然的に肥えるのである。それでは北姫が可哀想だ。あの全身パネのようでかつ敏感で神経質な北姫に跨るのだ。天下の名馬北姫に乗って障害を越えていこうというのだ。君が鈍重だからといって随伴に遅れることは出来ないのだ。そうだ。君はもっとスマートになるべきだ。ブーヨンなどと呼ばれてはならないのだ。

「スターライトと私」

一色敦子姉（二年目）

私はスターライトが好きです。彼女の容姿・性格・頭の良さ、すべてが大好きです。ライトに関係する事なら、乗馬・手入れ・曳き馬・ボロ出し、何だって嫌ではありません。馬房や放牧中の場所では彼女と遊んでいる時が、今の私の一番楽しい時間です。私の馬術部生活は、ライトを中心にまわっています。サブチーフとして、またそうでない時は陰のサブチーフとして、彼女を大切にしてあげたいと思います。そして卒業したら、獣医になってライトを引き取り、彼女にとって一番幸せだと思われる生活をさせてやるのが私の夢です。私はスターライトが好きです。この気持ちはいつまでも変わりません。

☆ ☆ ☆

さて。突如馬房に響く怪鳥音、あははははー中略ーはははは。その、言わば紙一重的な、元気のよさで、（ほめたんだぞ）目覚ましが鳴ったならーコラ、笑ってごまかすなーしっかり起きてがんばらんと。

春。メインストリートを馬場の方に向かって歩いてくる真赤な服を着たハクイそうな女性の姿を見た。胸がときめいた。何てことはない。それは一色だった。

一色は実に快活で生き生きとしていて、常に問題意識をもって人間に、馬に、犬に目を輝かせて一心に問いかけ回る。首をやや横に

傾け鼻の下を隆起させ、その口からつばとともに出る言葉は相手の人ばかりか、馬や犬をも絶望のどん底に落とし入れることがある。しかし、動物たちや人々に対する愛情は多分に持ち合わせている!?

「CHEVAL BLANC」

上 本 浩 之 兄 (一年目)

入部当時、なんとも雑用の多いクラブだとしか感じられず、体育会のサークルとしての物足りなさに不満を抱いていた。北将のサブにつき、はじめはその恐さだけだったが彼が自分の存在を知ってくれてから馬の魅力を教えられ、又チーフの熱心な活動を見て、自分もクラブの一員としてやらねばと恥ずかしい事だが遅まき乍ら感じさせられた。将助には感謝している。だから今年こそ、兄と共に馬事公苑へ行ってもらうのが部の一員としての願いである。

☆ ☆ ☆

一浪の貫祿で、「HOPE」をぶかりぶかり、「ここに上本あり」というような顔をしている。そして又、高校時代の自転車部で鍛えた体をいいことに、(今はもうふやけているも知らずに)得意気に力仕事をしている様は、さだめし豚が自分を猪だと思ひ込み林を走りまわっているよう。女に関しては、女好きのふりをしているMをあきれたように見るくせに、ちゃっかり自分は何人も女の手を内に入れてるのは、全く隅におけない奴だよ。

このようなやみを言いたくなるのも、彼はあまりに存在感があり、にくい男だからなのです。水産生である彼があと半年で函館に行ってしまうなんて、俺ア、さびしいよー落ちてくれ上本兄。

不作と言われる今年の一年目の中にあつては、まあまあともな方である。彼は水産のため、今年の九月で札幌とは、おさらばであるが、部報委員であるために、それまでには、なんとか部報を発行しようとして現在奮戦中である。しかし、成績的に函館へは一発で行けそうもないといううわさもあるので、そんなに焦る必要もないのではないだろうか。また彼は、たいへんな愛煙家である。そのためか、高校時代、自転車競技でインターハイに出場したという面影があまり見られない。札幌を去るまでにどれだけ回復するでしょうか。

国 枝 由 紀 姉 (一年目)

日高合宿で怪我をした。実験牧場の皆様、小池先生、監督さん、OBの方々、それに現役部員の人達にものご迷惑をかけてしまいました。ほんの少しの油断、気のゆるみの為にこんな事になってしまった事、深く反省しています。

日高まで車で迎えにきてくれた増田兄、一緒に札幌まできてくれた平田姉、お部屋に泊めてくださった今姉、病院まで何度も往復してくれた井上兄、佐藤姉、入院中、朝夕様子を見にきてくれた人達、毎晩交替で病院に泊まりこんでお世話してくれた女子部員の人達、試験や用事があったりでみんなそれぞれに忙しかったはずなのに、病院のベットのうえで、馬術部においてよかったと心の底から思いました。私はひとりじゃないって思えて、みんながきてくれることがとてもうれしかった。

今、元気になって馬に乗ってます。もう二度とこんなことにならない

い様、しっかりとやっていきたいと思つてます。合宿につきまわつていた斉藤兄、平田姉、後味の悪い思いをさせてごめんさい。迷惑をかけてしまった皆様、本当に悪かったと考えてます。そして本当にどうもありがとうございます。

☆ ☆ ☆

入部当初、その魅力でコンパのたびに上級生やOBに乾杯を迫り逆に次々とつぶしていったのは恐れいりました。彼女の犠牲に、ならなかった人はいないんじゃないだろうか。そんな彼女も、上級生をつぶすのもあきたのか、最近あまりお酒に興味を示さなくなりました。あの飲みっぷりが見れなくなって、さびしいですよ。

最初彼女を見た時、こんな折れてしまいそうな細っこい体でやっいていけるのかと心配でしたが、ほんとうに腰の骨を折ったのにもかかわらず、再び復活して元気ががんばっています。体に気をつけて、しっかりとってくださいね。

彼女、河合奈保子の姉だということ知ってました？ 背骨をほとんど同じ時期に折るといふ、二卵性双生児なんです。だけど、ナオコちゃんよりうるさいみたいです。

酒を持たせれば、なくなるまで人に飲ませ、自分がすすめられると「ええ、うっそ、いやだ。」といいます。

まあ、でもほとんど回復もしていないうちから、馬に乗ったり、手入れしたり、本当に馬を愛している女の子ですね。

斉藤 恵子 姉 (一年目)

はじめの頃は、すこし歩くとゼーゼー疲れてしまつて、歩いては休み、歩いては休みしていました。フーとため息ついては、いつもより大きく見える手稲山を見上げ、ハーとため息ついては、地面をみつめ、せかせか働くありなど眺めていました。

きつと、このあり達からしてみれば、欠陥だらけの私も、すごい勢いで歩いていく他の人たちに大差のない、ちょうど、あの手稲の山のようにおっきなものに見えるんじゃないかな……なんて、一人で考えて、なんだか急に偉くなった気がして、ふつと笑つてしまうのです。笑つた拍子に、それまでずつと自分は、唇をかんでいたんだと気付きました。そんなに肩を張らないで、ゆっくりでもいいや、このままここで石になつてしまふよりは歩きだそう。私は、あんな小さななりに励まされ、今でも人間としてしつりと歩いてゆけますし、その上、馬にも乗れるようになったんです。(九月二十四日)

——日高実験牧場の皆様、山本さん、馬術部の部員の皆さん、本当にお世話になりました。

☆ ☆ ☆

入部当時、いちばんきゃしゃでNOWだった彼女も、日一日と馬術部ちつくなつてきたようです。地上では虫になつて、くりくりの頭をふりながら、かわいく愛敬をふりまいていますが、馬上ではなかなかシビアで、その情熱につれて着実に成長をとげているようです。彼女の好きなものは、チョコレートとちゅりっぷとメールです。なかでも、「いつもポケットにチョコレート」という彼女の

チヨコレート病は、広く一年めの女子に感染し、馬の背の負担を大きくしているようです。

いつもうれしそうに、ころころと笑うけーこちゃん。そのしあわせの秘密は何なのかナ。

「住むとやめる」と言われる、我部にとって非常に関係の深い？かの津軽館に唯一人、しぶとく生き残っている。その生命力、いやその何というか、練習以外の端から見ると（見なくても）しょうもない事には、バカみたいに熱中するのが妹の良い所かもしれない。とほめておいて本題に移ろう。

時は昨年4月、入部したての頃から某一年目女と組んで、コンパというコンパを荒しまくった。そして「飲ませの！」とか「OB殺しのK・Sコンビ」として、上級生はもとより札幌在住のOBにも知れ渡り、人々を恐怖のどん底に落とし入れたのだった。

しかし、最近はどうした弾みか、急にコンパでおとなしくなった。（まさか恥を知ったわけではあるまい）今まで泣かされて来た人々は喜んでるようだが、唯一人、対等、いやそれ以上に渡り合えた僕には寂しい限りだ。

嶋田 明 美 姉 (一年目)

馬術部に入ってわかったことのひとつに、何かをするために、他の何かを諦めなければならぬということがあります。それは私にとって、ずいぶんくやしいうことでした。

結局そうしなければならぬという結末にはその後何度か出合ったけれど、やっぱり、少なくとも、あまり簡単に諦められるようにはなりたくないと思う今日この頃です。

☆ ☆ ☆

「馬上で輝く見事な胸が印象的である。」とSOBが感心していたという女性です。大勢いる一年生女子の中のお姉さん役という感じで、あの大陸的な笑顔は、日本の母を思い起こします。コンパの席でも乱れることなく、酔ったT一年生女子を家に連れ帰ってくれる人です。でもお酒で酔えるのは今のうちだけです。

時には深く憂いを秘めたように見えるー眼差し。どうしたのかな。奥さん、今日はサンマが安いよ！冗談冗談ゴメンして。「ふふ。怒りますよ。」

部員数あれど、馬場から見える家！は彼女のみ。これなら当然卒部まで！

「おうまさんとわたし」

いちねんいぬぐみ たかはしちほ

高橋 千穂 姉 (一年目)

私のがると、ピーターは楽しそうにポプラ並木を全力疾走し、私が三角地から出してあげると、ガキはうれしそうに前肢をあげて抱きつき、私が足を冷やしてやると、DONはねぎらうようにブンと背中を押し、私が近づくと、将介は喜んで、身体中にあとが残るくらい熱いキスをしてくれます。

ああ、私はなんて馬に愛されているんだらう、と、大好きなミヨとQの馬房のまん中にちんまり座って、いつも涙をぬぐうのでした。

☆ ☆ ☆

犬係の千穂君です。馬術部に電話をして「ワン」と返事がしたらドベかキョンか、千穂です。別名をポチといいます。その寝ている姿ときたら「たま」そのものです。それに一度ねむってしまったらなかなか起きません。北日のときに私と一年目のN姉が、けったり転がしたりして遊んでいたのを知らないだらう。

ピンフのたかし君と友達で、毎晩うさこちゃんのぬいぐるみを見てねています。リボンのふろくのアラレちゃんバックをうれしそうにさげている二十歳の有権者。

入部当時は工学部までしか走れなかったのに、今では北海道神宮も優勝です。人間やればなんでもできる。獣医も夢じゃない。がんばれ・千穂!!

まああるい体にまああるい顔、散らしたソバカスが突にかわいい姉。何が嬉しいのかな?と思う程、いつでも笑顔を絶やさな。そしてそんな姉を見ていると、なぜかこっちまで嬉しくなってくるから不思議である。実際あの笑顔の威力はたいしたもので、入部以来、つぶした先輩は数知れず、OBのN兄はリヤカーで運ばれ、同じくT兄はバイトを休むはめになったという。「○○さん、飲んでくださいーい」という甘い声にのせられてはいけないのである。

その上自分もよく飲み、よくつぶれる。いまや姉の今さんコールは、馬術部コンパのひとつの名物になってしまった。

ねえ高橋姉、四月になったらきつと新しい犠牲者が大勢入ってくるよ。できたらそろそろ、つぶす方だけに専念してください。

「なるようになるさ」

丹野 宏 昭 兄 (一年目)

僕は、気が弱くよく落ち込む性格で、この前などは馬術部をやめると宣言した程でした。で、また立ち直るわけですが、その時の気分はだいたいいつも共通していて、「なるようになるさ」という、半ばややくそのようなもので、つまり、面倒臭いから後のために力を蓄えるのをやめて、今やるべき事は惰性にちょっと力を加えてやってしまおう、という気になるのです。

だいたい、つらいとか楽とかは気分的なもので、こんな風に開き直ってみると、それまで苦しかった事が逆に楽しく思えてきたりもするものです。

まあ、これからも「なるようになるさ」で適当にやっぺいこう。

☆ ☆ ☆

きみどりのつなぎに首にまいた赤いタオルがNOWい丹野せんせい、ちょっと首をか上げて、うーん、といつも何かを哲学しているようです。ショウスケのサブをしていた頃は、毎日ショウスケの強烈な愛撫をうけながらも、「たまには、かまれないこともありますよ。ハイノ」と元気にがんばっていました。どの馬にも体当たりで接していく彼は、これからもクラブの大切な存在となってゆくでしょう。ただ、三角地に飼っておけをとりにいくときは、えさとまぢがわれてかじられることのないように、ヘルメットでもかぶって下さい。

兄は部の男子唯一の道産子です。なんとなく、雄大な大地ときびしい寒さにきたえられて、おいしそうに育った北海道名産ジャガイモのような兄です。以前、兄は三角地であの狂悪なガキとデスマッチをしました。兄のファイトもむなしく、やっぱりガキの圧勝、兄は顔面血だらけになるという流血戦にまで発展しました。戦いのあと、「やっぱりガキもさびしいんだよね。」とぼつんとつぶやいている丹野兄でした。

無題

中川 千夏子 姉 (一年目)

Q なんで馬術部に入ったの。

A それは馬に乗ってみたかったから。

Q なんで馬術部をつづけているの。

A それは馬に乗っていたいから。

——一鞍というものを大切にしてくきたい——

☆

☆

☆

彼女のクラス名簿の自己紹介の欄に「好きな事…走る事…」と書いてあるのを見て男子お笑いチームのメンバーの中で当方逸早くその身の危険を感じ取った。トレーニングでは、平田姉について男泣かせの存在になっている。しかしその走法は変わっていて、足はやや外股で、高く上げず歩幅も短い、その為ハイピッチで回転し、今にも死にそうな声をあげて、まるで根性の塊が駆けている様であります。エゴイズムな人間の多い部内で相手やクラブを主体として行動する彼女は、それゆえ目立ちませんが貴重な存在であります。

無口でとても人当りの良い子です。(そう見えるだけかもしれないが。) 手作りの弁当を朝食にもってくるという一面、ウォークマンをききながら大通をフラフラしているというナマラクリスタルな面ももっています。スポーツ万能の上、なかなかの酒豪で、コンパの時など、ふと気がつく姉が一升瓶をもって、顔には、薄ら笑いを浮かべ、ポーと立ちはだかっています。

平石 哲生 兄 (一年目)

今回は自己紹介に限らないとこのことで、何を書こうかといろいろ考えた。クラブに対する気持ち、今までの経験、現在の生活……。でもやっぱり、自分にはこれしかないと思う。

絶ゆまざる 歩み恐ろし かたつむり

☆

☆

☆

彼はいたって真面目である。今まで恵迪寮にいた先輩はほとんどが大酒飲みであり、ろくすっぽ練習に出て来ない人ばかりであったが彼は例外であるようだ。皆さんは彼の決して歯を見せない笑い方を御存じであろうか。上級生に何か冗談を言われてもあまり理解できないのか上級生を小馬鹿にしているのかはわからないが一言「あ」とか「え」とかしか言わない彼は将来最も有望な一年生の一人である。

馬術部唯一の恵迪寮の住人である兄は、まさに恵迪寮生そのものであります。学校内で出会う兄の姿といえば、入学してから一度も

切ったことのない長髪にねじりはちまき、ガ克蘭に長ぐつ（下駄ではなく長ぐつところが馬術部チック）というふうであります。

また、兄のコンパにおける活躍ぶりはたいへんなもので、そのレパトリーはピンクレディのUFOをはじめとし、なまむぎなまごめなまたまご、水産放浪歌などひろく、恵迪寮風自己紹介も好評です。ディスコで踊る兄の姿は沢田研二にそっくりというひそかな噂もあります。

今日もピンフのテレビを見ながら芸の腕をみがいている兄は、只今年め帳数番付の横綱です。

平山復志兄（二年目）

九州からはるばる出て来て、どうせやるなら北海道らしいことをと思って入ったのがこの馬術部でした。しかし北海道らしいことをやるには寒さがつきまとうことをつくづく知らされる今日のごろです。純白の銀世界の中、馬でさっそうと走っている自分を思い浮かべていたのですが……。現実には甘くないと知りました。

ほんとうにいそがしい馬術部生活ですが、それなりに一日一日が充実したものになってくれれば最高だと考えています。三、四年後の全日学団体優勝をめざして、寒さに負けず、眠気に負けず、精一杯やろうと思えます。

☆ ☆ ☆

人は彼のことを「ポケ」と呼びます。さて、みなさんは「彼がどれくらいポケているのか。」とお考えでしょう。ご安心ください。

みなさんのご想像以上にポケています。ウドの大木二世とでもいいましょうか、それとも暖かい春の野に立っている一本の葉のないポプラとでもいいましょうか……。最近では、一緒の下宿のM氏とクラブも学校も共だおれになりつつも、北海道での生活を楽しんでおられるようです。そんな彼ですが将来は期待？してもいいでしょう。さあ、平山君、輝ける未来に向かって

『今日も元気だ、一日、一ポケ！』

“あー、めんどくせー”、“それで、いんじゃないのー”、“あの・なあ”

めんどくさがり屋で、ちよっとポケていて、それでいてやさしい平山兄です。のりのりのコンパでみせる、あの“タッチ”の腰つきは最高にSexyで、みんなを魅了しています。こんどまた一緒にDiscにゆこうぜ!! ずいぶん昔の話ですが、折橋姉に「交代」といわれ、一目散に疾風に向かって走っていった兄の姿を、私は今でもはっきり覚えております。燕麦を半分だけつけて満足したり、エクイア長靴でころがるのを誰よりも得意とします。毎週土曜日は、“まるあ”のおじさんに「きょうは何て言って謝ろうかなあ」と考えています。

もうすぐ、新しい部員もはいてくることですし、一日一ポケを二日に一ポケくらいにしましょう。それと、M氏追放運動を強行して、せひせひ獣医にってください……ネ

「あ く び」

森田 敏 兄（二年目）

何とも言えない気分―体中の神経が緩んで、宙に浮いたよう。鼻の奥の方にやわらかい空気が抜けていく。僕は口を大きく開けて眼をゆっくりつぶる。この一瞬に19年間の僕の歩んだ道が無限大の速度で駆け抜ける。―危い遊びばかりやっていた効かった僕は、中学で体操に明け暮れ、高校時代は、夕日に向かって走る青春と真中サッカー少年になり―口の中に大きく拡がった空気が外気に溶けていくとき、現在にたどりついた。後に残った熱い涙を馬術に捧げよう。北紫雲と曳馬に行くと、奴さん気持ち良さそうに4、5回はあくびするんですよ。

☆ ☆ ☆

兄はとっても柔軟性に富んだ人です。肉体的なそれは馬術のうまさ直結しており、その一方、精神的には実に根の明るい人格を生み出しています。入部当時はワープの常習犯。冬になってからは、自分の部屋より他人の部屋にいる時間の方が長いという兄に対して一年目の間では、「森田のこの悪癖をやめさせるには、コタツかテレビか彼女を持たせるしかない」という声があがっているほど。しかしそうは言いながら誰も彼を追い出せないのは、やっぱり憎めないヤツなのです。

一時は殺されるんじゃないかと言われたマリからも、最近はずっとかり信頼されて、ぐっと男を上げた「非力」改め「森田くん」です。

「えー、ほんとかよー。」という寝呆けたような声に振り向くと、そこには兄がニヤニヤしながら立っています。障碍を飛ぶ時右を向くことを除けば、馬上ではサマになっているのですが、カメラと実生活では、どうもピントがずれてしまうようです。そのため、実の姉だという噂のあるI姉を始めとして、一年目女子からまで「森田」

と呼び捨てにされる始末。が、兄はさも当たり前のごとく「何だよ」と答えています。大器晩成とも言いますし、案外すごい大物なのかもしれません。できれば在学中に何とか芽を出してもらいたいのですが、「教養四年計画」も夢ではなさそうですねから焦る必要もないでしょう。

横山理恵姉 (二年目)

やらなければならぬことはやらず、やってはいけないことはやってしまう。自分でわかっているだけにひどく落ち込むが、その割に全く進歩が見られない。そしてまた自己嫌悪、どこまで続くこの悪循環。ああ、暗い……。

☆ ☆ ☆

はるか速く、南国宮崎からやってきた女の子。寒さが人一倍、身にこたえるようです。寒い冬を越えることができれば、春が来る。とび乗りができなくて悩んでいたけど、くじけるな。走るのが遅かったけど頑張れ。一年間、鍛えて強くなれ。二年間鍛えて、もっと強くなれ。そして三年目には……。

南国宮崎から、はるばるこの北の地にやって来た。でもそれは、彼女の方向感覚の良さを示すものではない。方向感覚に関する限り全く逆だと言える。しかしその方向オンチのおかげで、秋合宿では連日人より長距離を走るといふ快挙をやった。やはり絶対的な短所というのはないものだ。そんな彼女も、最近部屋に顔を見せない。せつかく北海道に来たのに、あの涙の出る、鼻毛の凍りつく早朝の天然冷凍庫を経験しないなんてもったいないゾ。



有限会社 東京稲毛屋

代表取締役 広山二郎

東京都渋谷区神宮前 6-11-4

TEL 03-400-5929



習うなら近いのが一番!!

—— 地下鉄麻生駅・北34条駅から歩いて5分! ——

技能試験免除の北海道公安委員会指定校

A 麻生自動車学校

北区北36西5 ☎721-5251

ご予算は…? 内容は…? おまかせ下さい!!



味とまごころでご奉仕

仕出し料理



株式会社 丸仲 中一

慶弔用仕出し・慶弔用特製弁当
給食弁当・会席弁当・折詰弁当
レジャー用弁当・寿し弁当
折詰料理・オードブル

札幌市北区北18条西4丁目(18条ハイツ地下)
事務所 / 北区北18条西5丁目

☎711-5045

スプレーの王様

パイオニアの歴史に輝くシントーファミリー

カラーズプレー

(高級エアゾール吹付塗料)



- 標準色ソリッド : 40色
- オートカラーソリッド : 30色
- 耐熱用 : 2色
- 黒板用 : 1色
- シャーシーブラック : 1色
- メタリック : 8色
- メタリック : 23色

水溶性

ファミリースプレー

(高級エアゾール吹付塗料)



標準色 : 20色



シントーファミリー株式会社

社名 シントーファミリー株式会社 (SHINTO FAMILY Co., LTD)
 本社 〒135 東京都江東区木場5丁目8番5号
 TEL 03-643-7161(代)

東京営業部 〒135 東京都江東区木場5丁目8番5号
 (東京営業所) TEL 03-643-6321(代)

大阪営業部 〒532 大阪市淀川区西中島1丁目9番20号 新中島ビル3F
 (大阪営業所) TEL 06-305-5381(代)

北海道営業所 〒003 札幌市白石区中央2条3丁目1番55号
 TEL 011-812-5820

東北営業所 〒980 仙台市中央4丁目10番3号 住友生命ビル6F
 TEL 0222-66-7753

名古屋営業所 〒450 名古屋市中村区名駅南1丁目24番21号 信泉ビル8F
 TEL 052-583-9669

九州地区(九州神東ファミリー株式会社)
 〒816 福岡市博多区半道橋2丁目6番57号
 TEL 092-473-0676

和洋酒・煙草・食品

川端商店

札幌市北17条西4丁目
☎七四二一〇三八八

心を豊にする……
古書の店

弘南堂書店

北12条西4丁目
TEL 七一一九四二九番

産科・婦人科

田畑病院

院長 田畑武夫

札幌市中央区南五条西二丁目
☎五三一七七七〇

山本保善堂薬局

〒〇六〇 札幌市中央区北四条西十五丁目
電話(〇一一)六一一四五五三
六四一四一七八

LIQUOR
& FOODS 北22条 よこやま



札幌市北区北22条西5丁目
TEL 711-3593

ボリュム満点

味のとん子



北区北18条西5丁目 TEL742-5809

つちの酒店

12PM

TEL 711-2575

月曜定休日

ラーメン・焼魚・焼肉・定食、各種
出前迅速

平和食堂

北区北18条西5丁目 ☎711-2671

自家製造(そば・うどん)各種丼物

まるあ食堂

馬術部が年中出前応援中

★是非一度御来店下さい。★

食料品・雑貨

山本商店

札幌市北区北十九条西七丁目
TEL七四一―六二八五

●荒物・日用品
●ローソク各種
●ビニール袋各種
●灯油販売

飯山商店

札幌市北区北十九条西七丁目
電話 七四一―六二八五

学生の皆さん、販売、修理を割引
致して居りますからどうぞ。

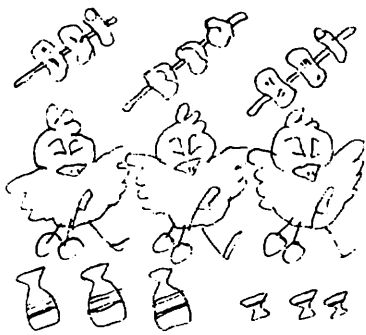
高橋時計店

札幌市北区北十八条西四丁目南向
北十八条地下鉄駅前
TEL 七四二一七八四六

伝統ある実績

山田帽子店

札幌市豊平区豊平三条二丁目
電話 八一一七六四三番



みねちゃん 焼鳥

札幌市北区北17条西4丁目
カネサビル1F TEL741-0717

〔北専・札信販・UC・JCB・札専カードをご利用下さい。〕

柴田時計・めがね店

札幌市北区北23条西4丁目

☎711-9496

ご宴会は屯田の館で ドアとやろろ!

忘年会 新年会 歓送迎会 その他の会合

〈税金 サービス料込〉 **20** 名様以上の宴会には ^{ドアロ}酒1升サービス



新鮮な魚介類と北国の山の幸を存分に使った屯田の郷土料理で、楽しいご会合にご利用下さい。

収容150名様まで、幹事さんのご予算に合わせて調理いたします。今後共、一層のお引き立てを どうぞ

年中無休 兩店午後5時～11時まで



北国の郷土料理
140名様

屯田の館

さつぽろ 狸小路6 ☎241-2700

北国の郷土料理

屯田の館 南4条店

☎512-6553

北の味の土産処

屯田舎

本店階下 ☎221-0522

安全・親切・快適

全日空限定乗合・一般観光貸切・一般乗用の



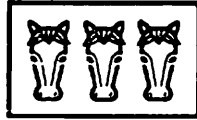
北都交通株式会社

取締役社長 武田 忠幸

本社 札幌市豊平区月寒中央通り11丁目7-46
☎853-2191

ハイヤー営業所 札幌市西区八軒10条東5丁目
☎代表711-4181

貸切バス予約センター 札幌市豊平区月寒中央通り11丁目7-46
☎853-2181



株式
会社 **ミツウマ**

小樽市奥沢4丁目26番1号 ☎22-1111

展示装飾・店舗改装・模型・プラスチック造型・各種看板



株式会社 **明装社**

代表取締役 永田 美雄

〒651 神戸市中央区琴ノ緒町1丁目6番5号
TEL (078)251-7341 (代表)

技術と信頼

 **竹中工務店**

支店長 児島 芳郎

北海道支店 札幌市中央区大通西4-1
電話 (011)261-2261

合成樹脂射出・中空・押出成型品・組立加工
樹脂コーティング加工・化学薬品・浄油機器

中山産業株式会社

代表取締役社長 中山 喬 夫

本社営業所

〒532 大阪市淀川区西中島4-10-19

電話 (06)304-6108(代)

F A X (06)304-6148

横浜営業所

〒221 横浜市神奈川区西神奈川3-152

電話(045)432-0770(代)

F A X (045)432-0776

工 場

〒581 八尾市太田2087-12

電話 (0729)48-3038

社会保険・国民健康保険 指定医
老人医療・生活保護法

庄内歯科

歯科医師 庄内貞夫

札幌市白石区本通2丁目北81番37号
☎861-2504

創立30周年

学校法人

輝く実績と親身の指導
大学受験
名門予備校

札幌予備学院

56年度
合格実績

北大合格数例年全国一の実績

北大合格数528名
(道内全浪人合格数の89%独占)
札医大 51名合格
(道内全浪人合格数の76%独占)

旭医大21・小樽商大151・道教育大360・室工大142・北見工大43
帯畜大 37・東北大37・弘前大37・早大76・慶大51・中央大111・
同志社大117・立命館大179など抜群の合格実績!

(〒060) 札幌市中央区北8条西14丁目 ☎(011) 241-7268



ちょっとうれしいタウンホテル

私の街、私のホテル。

(202室)

ご予約は ☎(011) 251-3211

札幌第2ワシントンホテル
札幌市中央区北5条西6丁目 TEL.011(222)3311代



藤田観光

電気を受け
電気を安全におくる
電気工業の担い手



北海道古川電気工業株式会社

本社:札幌市中央区南4条西14丁目
〒064 TEL (011) 512-0126 (代表)

当社製品は絶ゆまめ技術開発と宇宙開発に使っているエレクトロニクスやマグネテクスなどの技術導入により、すぐれた品質を確保しています。ます。ご希望の製品ひとつ、ひとつにまごころをこめて。めて。



株式会社ケイズ

札幌市中央区南4条西14丁目
〒064 TEL (011) 563-5701

《営業品目》

配電盤・コントロールセンター
計装盤・各種表示装置
コンピューター応用システム制御
各種電話電送装置・テレコン装置
データ・ロガー・シーケンサー

代表取締役社長 茂 泉 圭



六興電気株式会社

札幌営業所 札幌市中央区北3条東5丁目5|岩佐ビル 011(221)8972
石狩出張所 石狩郡石狩町花川南7条4丁目389 0133(73)1711
苫小牧出張所 苫小牧市新中野町3-19-6 0144(32)2581

所長 山口 幸男

《営業種目》

1. 電気設備工事の設計施工

発電所・変電所設備工事
地中線・架空送配電線路工事
電灯・電力・電熱設備工事
工場機器自動化の計装工事
特殊（耐爆・耐酸）電気設備工事

1. 管工事の設計施工

給排水・衛生設備工事
冷暖房・空気調和・換気設備工事

1. 電気通信工事の設計施工

1. 消防施設工事の設計施工

1. 前各号に付帯する一切の業務

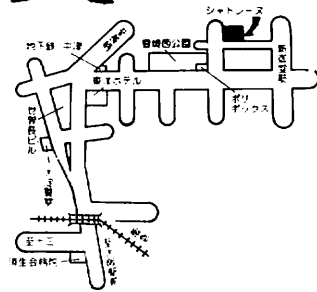
本社 東京都港区芝5丁目26-30 専売ビル 03(452)5311
支店 大阪・名古屋・神戸・多摩・横浜・千葉・新潟・仙台
九州・四国・静岡
営業所 札幌・中国・長野・京都・青森・岩手・山形・北関東・浜松
出張所 石狩・苫小牧・高松・岐阜・金沢・甲府・宇都宮・水戸・埼玉
太田・春日井・津・堺・奈良・和歌山・田辺・尼崎・松江・山口
北九州・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄



コーヒー & グリル

シャトレヌ

大淀区豊崎5丁目2-4
TEL 375-1421



軽食 & 喫茶

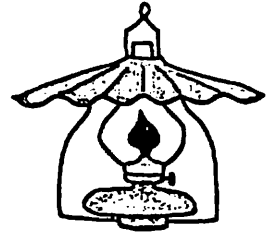
純



〒001 札幌市東区北3条東5丁目
TEL (011) 231 - 4754

スナック喫茶

ケルン



北10西4 TEL 741-9615

確かな技術を



鈴木精機株式会社

代表取締役 鈴木 英孝

〒799-07 愛媛県宇摩部土居町大字上野512

雪印パラーの会合席

ご案内

歓迎迎会・クア会・講習会・各種尺取
会議等に 会合席をご利用下さい!

① 3階会合席 — 5~6名様から 60名様迄
椅子席をご利用いただけます

② 2階レストラン — 20名様迄の会合に
ご利用下さい

③ 地階和食 — 1階の館2階 街座敷
16名様以上、小より20名様
まで 会合に ご利用下さい

出張尺取 お年当の出前もうけておこなっております
お申込みは ☎ 251-3181へ

丸島駅前北3条5丁目

雪印パラー



ホシ伊藤株式会社

医薬品卸・コンピュータ販売

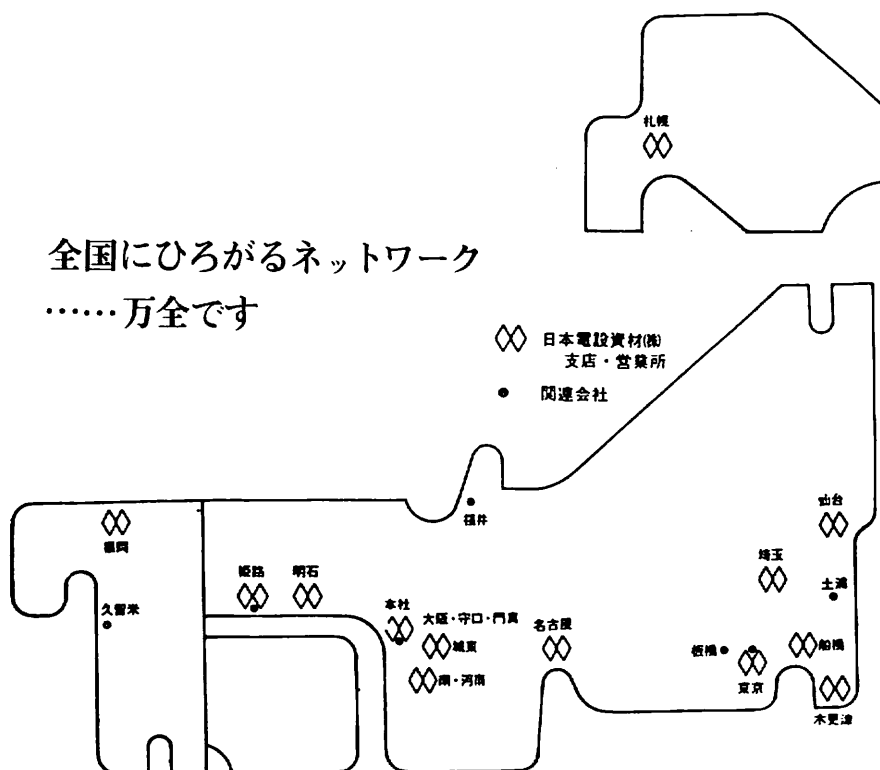
本店 札幌市南八条西十四丁目一三九七番地
支店 帯広・釧路・北見・函館・旭川・空知
室蘭・苫小牧・岩見沢・小樽・千歳

電線電纜電設資材専門商社

◇◇ 日本電設資材株式会社

札幌支店 札幌市白石区南郷通1丁目北9番1号 TEL (862)2121

全国にひろがるネットワーク
……万全です



《所在地》

本 社 大阪市北区神山町1-3新扇町ビル06-321-3271

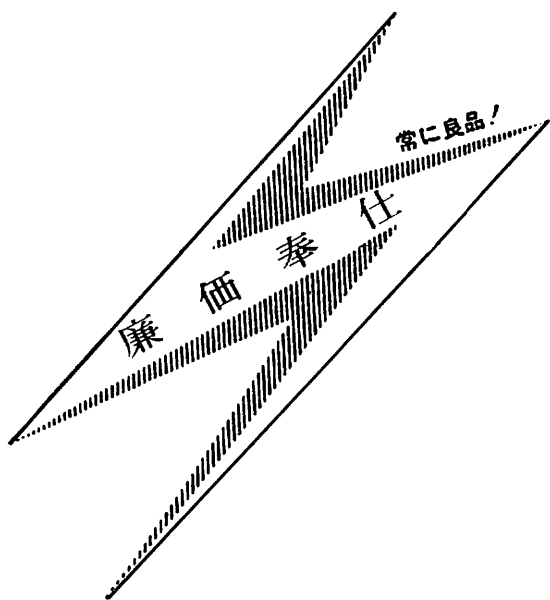
支 店 仙台・東京・埼玉・名古屋・大阪・姫路・福岡

営業所 船橋・木更津・守口・城東・神戸・明石・加古川

明日への環境建設を願う

電設資材総合商社

《主要代理メーカー》



松下電工株式会社
 松下電器産業株式会社
 東芝電材株式会社
 東京芝浦電気株式会社
 昭和電線電纜株式会社
 日本パイプ製造株式会社
 矢崎総業株式会社
 日本電池株式会社
 河村電器産業株式会社
 愛知電機商事株式会社
 株式会社戸上電機製作所
 岩淵金属工業株式会社
 日本硝子株式会社
 岩崎電気株式会社
 株式会社三桂製作所
 北海道ナショナル通信特機株式会社
 ネグロス電工株式会社
 日本ジーベックス株式会社
 大光電機株式会社
 共和護謨工業株式会社
 川藤電陶株式会社
 アイホン株式会社
 東和特殊電機株式会社

miya 株式会社 工三ヤ商会

本社	060	札幌市中央区北3条東2丁目2	☎ (011)	大代表	221-1431
電設営業所	060	札幌市中央区北3条東2丁目2	☎ (011)	大代表	221-1431
中央営業所	060	札幌市中央区北3条東2丁目2	☎ (011)	大代表	221-1431
北営業所	001	札幌市北区新琴似6条11丁目511	☎ (011)	代表	761-1521
東営業所	062	札幌市白石区本郷通り10丁目南8	☎ (011)	代表	863-4077
釧路営業所	085	釧路市川北町4番42号	☎ (0154)	代表	23-1365
苫小牧営業所	053	苫小牧市若草町1丁目1の19	☎ (0144)	代表	32-7101
函館営業所	040	函館市豊川町7番28号	☎ (0138)	代表	26-3021



設 計

北海道配電盤工業会正会員
配電盤・制御盤・各種分電盤

製 造

株式会社 大東電機製作所

〒065 札幌市東区丘珠町659番地の3
電話(011)代表—782—5353番

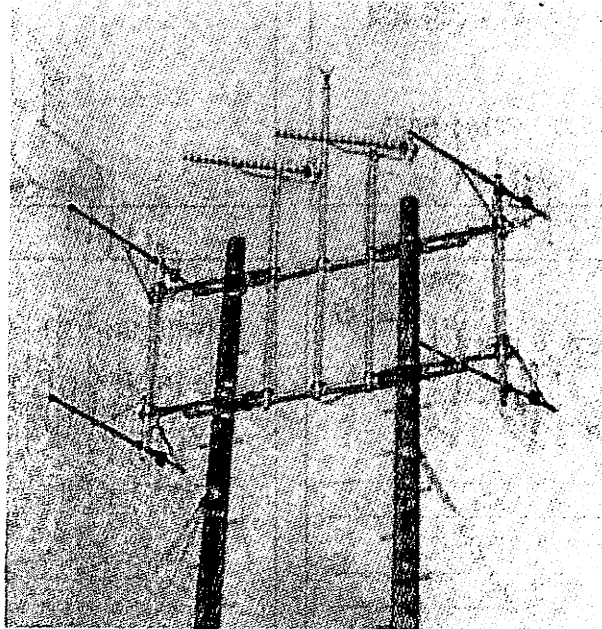
RTK

テレビ共同受信施設工事、設計、施工

MASTER TV ANTENNA SYSTEM

《営業種目》

テレビ共同受信施設の設計及び建設
テレビ電波障害の調査及び保守・管理
上記に付帯する一切の業務



日本有線テレビジョン技術協会会員
八木アンテナ株式会社特約店

六興通信工業株式会社

〒065 札幌市東区北23条東14丁目 TEL(代)731-1141

北海道名物
ジンギスカン・焼鳥専門

義経本店

北18条西4丁目
☎721-1723

各種コンパにどうぞ。

焼鳥専門店

鳥やん北24条店

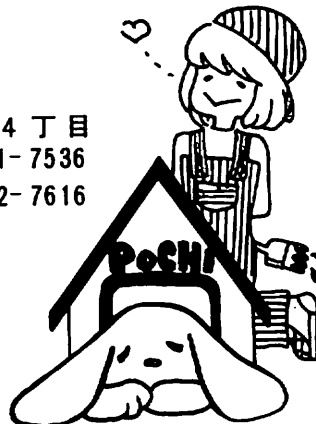
北24条西4丁目 ☎704-5085

プロから日曜大工までたよれるお店。



株式会社 平田金物店

北18条西4丁目
☎711-7536
☎742-7616



洋菓子と喫茶 イレブン

喫茶部

北17西4 ☎721-0662

洋菓子部

新琴似8条8丁目
(四番通り新琴似生協向い) ☎762-6395

- ★ケーキセット (コーヒーor紅茶付)
種類が多く用意されています。
- ★クリームぜんざいの店
- ★お持ち帰りのケーキもあります。

腕	旗	附	カ	バ	ト	メ	タ	手	記	記	出
章	幕	風	ツ	ッ	ロ	ダ	オ	念	品	章	世
章	靴	品	桶	チ	フ	イル	ル	拭	品	章	究

各種製造販売元

山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社 山 禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目
TEL 札幌(011)大代表241-1641番

受信略号 「サッホロ」 ヤマレイ
取引銀行 拓 銀 本 店
振替口座 小 樽 2 9 0 9 番



5人あつまればいい
仲間の楽しい
オリジナルトレーナをつくろう

株式会社装エンドー TEL 704-3923

ジーンズ
ランド22 さつぼろ北22条西4丁目
☎704-3923

ジーンズ
ランドUSA むろらん中島町1丁目
☎46-2343

ジーンズ
ランドUSA びばい コア通り
☎2-1266

パークゴルフ会場の外はすべて飲み放題です

- スナックコース (オードブル4品) ¥2,000 円
- B キャンピングコース (オードブル4品) ¥2,200 円



予約で安心 とにかくお電話を!

札幌 セントラルパーク

札幌市中央区南5西3 東宝公衆会館7F ☎011(531)2882代

■営業時間(平日) PM5:00~PM11:00(土日祭) PM3:00~PM11:00

ボリューム満点・コンパ150人OK!



やきとり きよた

TEL 741-0101・742-7000

酒10本で1本サービス!

鉄板焼

焼そば

お好み焼

居酒屋 **ち え**

北17西4 カネサビル TEL 741-3136



友がいる、語らいがあり、酒がある。

品質本位の酒 **勇美庵 今治城**
いさみしか いまぼりしょう

醸造元 矢野酒造株式会社

愛媛県今治市小泉345-1 電話 0898 (22) 0026 (代表)

習得しませんか 本格的乗馬技術



素晴らしい馬達と共に…

北星乗馬クラブ

● 銀鞍会 ● 少年騎馬隊 会長 松岡靖雄
里塚484 TEL 882-0886

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しっぷ165の3

TEL (0133)66-3858



MOS BURGER

— ひとつの街に
ひとつのMOSを —

北24条店 札幌市北区北24条西4丁目
TEL 711-6079

ラーメンなら

北
龍

北18条西6丁目
TEL 742-1376

米は良心の店

株式会社丸則佐々木商店
支店 大隈米穀店

札幌市北区北18条西5丁目
TEL 711-6992

靴、履物一式、販売
くつ修理

あしだ靴履物店

〒001 札幌市北区北18条西4丁目
電話 721-4917番

頑張れ!!
北大の11頭
の馬達よ。

KMビジネス

新品又は中古

なんでも買取ります

※但しザッピンは買いません

電化製品・家具・カメラ ※家財道具一式売りたい方
時計・自転車・事務用品 ※引越新築などで不用のもの
大工道具・店仕舞品・質札 その他どんな商品でも買います

オオサワ
☎ 722-4538

札幌市北区北19条西4丁目

ラーメン専門

味自慢

秀しゅう 鳳ほう

札幌市北区北20条西5丁目

☎721-6664

特選
名画
劇場

シネマ23

北23西5 (742)1970

年会費1000円で

あなたもシネマ23メイトになれます!

特典

- 常時当日料金より200円割引。又、ポスター類などの特別割引。
- 当館発行のミニコミ紙「活同写心」又、催しご案内等の無料送付。
- 各種企画の特別御優待。

酒1パイ50円の

鳥政 鮎政

711-9601

753-4838

北23条西5丁目

定食・ラーメン・丼物

西 龍



北区北17条西4丁目

カネサビル1F

TEL 721-3725



ススキノの夜を憩う

ぼんち

学生さん大歓迎!!

焼き鳥
ススキノ南6西3
三共ビル1F

TEL
512-2929

有限 菅原写真商会

カメラ・カラープリント・3分間写真・
各種証明写真

北22条西4丁目 TEL 711-2662

MAY CRAFT ORIENT

メイクラフトオリエント

国内唯一
馬具総合メーカー

本 社 北海道歌志内市神威 2 6 4
TEL (代) 012542-2 0 1 4
東京出張所 東京都港区三田 3 丁目 4-5
TEL 03 (454) 5 7 5 3



御菓子の

一カ

ひとつひとつ丹念に
真心こめて

札幌市北区北24条西5丁目
TEL 7 1 1-2 0 5 0

環境測定調査（大気・水質）
測量調査・海洋観測調査
都市計画・交通計画

日本データーサービス株式会社

本社 札幌市東区北十三条東十五丁目
高木ビル2F

TEL 七八二一六六五



スポーツ用品・用具全般

特別注文承ります！

支店 〒065 札幌市東区北20条東8丁目90
TEL (011) 742-9507
本社 〒001 札幌市北区新琴似3条3丁目1-16
TEL (011) 761-8462

手造りのパン
洋菓子

有限会社 ジュウジ屋

札幌市北区北17条西4丁目
電話 741-5332

舌鼓

鯨の正本

北一六西四北向 六七四一—四三三二

● 学生さんにはジャンボなにぎりで、ネダンと同じ。
● コンパは40名様まで。
午前十一時三十分〜午前一時

木材・建材・一般金物
塗料・建築金物

**有限
会社** まるへい商事

札幌市北区北24条西5丁目
TEL 731-5331~3

お 酒
お 食 事
や き と り
ホ ル モ ン

サ ッ ポ ロ
の 店
100 番

札幌市北区北17条西4丁目
TEL (011)721-0414



東北の
美酒・吟醸

高級清酒
春駒

発売元 株式会社北酒連

美味しい物が食べたいなら

中華定食 小 月

北区北18条西4丁目 北18条ビル1階
TEL (711) 3687

《広告主への感謝のことば》

このたび、昭和56年度北大馬術部部報発行に際し
絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対
し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御
繁栄を祈り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

編集後記

今札幌は春を向かえ、一番美しい季節へと向かっています。この様な時に部報を発行出来る事をとて嬉しく思います。これも半沢先生、岡田監督、小池部長をはじめ現役部員の諸兄弟の協力によるものであると（幾分強引であったが）、心から感謝しております。

内容は調教報告、役員報告を中心とする例年のものと大きく変わりますが、所々に今のクラブに対する気持を表わしたものに仕上げたつもりです。又今年から「名刺広告」と言うものを実施しようと思いましたが一部のOBからの抗議もあり企画倒れとなってしまいました。これは名刺をそのまま広告として載せ部報の収入として赤字を少しでも埋めようとしたものでした。初めての企画だから今年は在札OBにまずお願いしました。私が独断で決めたものでしてこの様な無責任な行動により折角協力をして下さった西村・柴田両先輩には大変申しわけない事をしてしました。

今年度からクラブ活動は今までの低迷状態から脱出しようと、比較的閉鎖的だった姿勢を一変し外から新しい情報を求めつつ、北大における最もベストな練習法や馬術的な思想を試行錯誤して作り出そうとしています。新馬2頭（北紫雲・烈々風）を加わえて計11頭部員は新入生11名を加わえて34名。多くの問題を抱え乍ら馬達と共に一つの目標に向かって一生懸命やっています。OB諸兄弟をはじめ、広告や協賛して下さい下さった方々、本当に有難う御座いました。今後とも御支援と御協力よろしくお願い致します。

最後に、この様な素晴らしい仕事を私の様な者に与えてくれたクラブに感謝します。多分本を編集する事はこれが最初で最後だと思いません。僕のミスをかばってくれた他の一年目には言葉では言尽く

せぬ程の感謝しています。とても勉強になりました。皆様有難う御座いました。

部 報 第二十七号

昭和五十七年五月 発行

発行者 北海道大学 馬術部

札幌市北区北七条西六丁目

北大体育会内

☎(〇一一)七一一二一一

内線 五五九七

編集者 部報編集委員会

印刷所 北大生協北大印刷

非 売 品

編集責任者 上本・国枝
編集委員 一年目全員
表紙カット 世良 健司

M. Hanzawa

